兵庫労山　結成50周年記念誌

50年の軌跡

兵庫県勤労者山岳連盟

― 目　次 ―

兵庫労山結成 50 周年記念誌の発行に寄せて	会　長	喜 多 伸 介
日本勤労者山岳連盟	会　長	西 本 武 志
兵庫県山岳連盟	会　長	中 西 研 一
大阪府勤労者山岳連盟	理事長	園　敏 雄
京都府勤労者山岳連盟	会　長	田 原　裕
滋賀県勤労者山岳連盟	理事長	友 永 芳 和
奈良県勤労者山岳連盟	理事長	前　圭 一
和歌山県勤労者山岳連盟	会　長	山 下 紀 和
新日本スポーツ連盟兵庫	会　長	青 木 公 一

兵庫県勤労者山岳連盟の生成と発展　原 水 章 行

分野別の歩み

教育活動
- 登攀教育部
- ハイキング教育部
- 無線教育部
- 気象教育部

六甲全山縦走・参加者数（一覧表）
海外登山
県連盟内における死亡事故
自然保護活動など（めばえ等を含む）
障がい者登山
女性委員会
兵庫労山と国民平和大行進
東日本大震災・熊本震災
組織の消長・発展について

加盟各会の歩み

兵庫労山５０周年記念行事について　理事長　吉 谷 隆 男
組織の消長

50 年史表

歴代役員名簿
加盟山岳会一覧表
終わりに

表紙（表裏）について

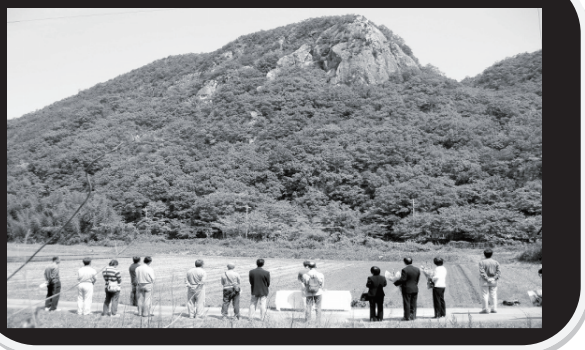
連盟加盟各会より提供のありました会の写真のみで構成しております。

六甲山集中登山集会(摩耶山)2015.10.4

武庫川渓谷ダム建設中止報告集会 2010.6.6

神戸市環境功労賞受賞 2016.11.2 神戸市役所にて

平和行進　労山の先頭を行く故阿部県連事務局長



不動岩滑落事故Ｙさん三回忌の集い 2006.5.25

救助隊搬出訓練

「森は海の恋人」の畠山重篤氏自宅訪問(東北)
2014..5.24　　生涯学習塾めばえ

大川小学校慰霊碑前にて　　生涯学習塾めばえ

東日本大震災　県連ボランティア
金華山黄金山神社　山道補修作業 2011.10.8

六甲最高峰に震災鎮魂碑を建立 2016.3.13

近畿ブロック雪崩講習会 2011.1.22 御岳にて

女性のための山登り教室　2011.2 月

経験交流集会　自然の家にて 2013.11.9

経験交流集会ヤングメンバー分科会 2013.11.9

六甲全山縦走

六甲全山縦走　須磨アルプス 2013.3.10

The 50th anniversary memory

SINCE 1966

まろう！平和と緑
兵庫県勤労者山岳連盟
Hyogo Worker's Alpine Federation

氷ノ山登山集会　270名の大交流会（37労山）
肩を組み山の歌を大合唱

氷ノ山遭難事故(1997 年 1 月)で亡くした5名の仲間の慰霊登山（2016.5.28 国際スキー場）

六甲山集中登山集会　2015.10.4　摩耶山
＜六甲山からゴミを一掃する運動 37 周年＞

The 50th anniversary memory

SINCE 1966

守ろう！平和と緑
兵庫県勤労者山岳連盟
Hyogo Worker's Alpine Federation

兵庫労山結成50周年記念式典　シーサイドホテル舞子ビラ庭園

在籍 40 年及び会活動功労者感謝状贈呈

武庫川渓谷廃線跡ハイキング道　一般開放!!　2016 年

武庫川渓谷廃線跡

兵庫労山５０周年記念誌の発行に寄せて
（私の思い）

兵庫県勤労者山岳連盟
会　長　　喜多伸介

まず、１９６６年の結成時の４団体から、５０年を経て、４５団体２５００名の団体に成長させていただいた多くの会員・ＯＢその他私たちを支えてくれた皆さんに心から感謝いたします。ありがとうございました。

これからも一層ご指導、叱咤激励をお願いいたします。

私も労山にかかわらせていただいて４０年を超えることになり、労山で学んだことが登山だけでなく、社会生活上も。私の成長に大きくプラスになりました。個人的にも労山に感謝です。

この間、多くのことがあり思い出はつきることはありません。冒険学校でのこどもたちやご家族とのふれあい、全縦では、引き継いだ１３回のころだったか…、神戸市の取り組みではありましたが、萩の寺、高取山の通過をについて地元の猛反対があり、私たちもコースを余儀なくしなければならない状況がでて、須磨アルプス・高取山を通過せず、大きく迂回したことがありました。

自然保護運動では、父なる兵庫の山『氷ノ山を守る運動』『六甲山階段化反対運動』等で街頭署名、なんと１６万筆も…、さらに今も続く『六甲山からゴミを一掃する運動』特にゴミ一掃運動では、当初西宮の盤滝渓谷付近が担当になり、川原から、冷蔵庫２台を引き上げたときは、周りが暗くなっていた。翌月だったか…、同所でカニの甲羅をいれてあったズタ袋が車一杯！しかも悪臭が周囲に充満…、口を覆う他はないくらい臭かった…。

事故の関係については、悲しみと悔しさの連続です。

前穂北尾根に始まり、５０年で５０人を超える仲間の遭難死が大きく心の中に占めています。奥穂岳・ロバの耳、みなとの八ヶ岳では山岳史上歴史的なものになってしまった。この夜、兵庫駅からバスでご家族と行動し、翌日諏訪警察ですでに発見されていた遺体と対面し、その日の懸命の大捜索により発見されたうちの一人のご遺体を他の二人で通夜し、翌日の荼毘にも立ちあってきました。南ア赤石沢、さらに、宝塚の鹿島槍では９ケ月、但馬・淡路の氷ノ山では４ケ月の捜索活動、県連の不動岩も、インドのケダルナートでは、まだ山に埋もれたままである。ほかにもたくさん思い出のある人もおられ、この文章を書いている時にも思い出され、胸にこみあげてきました。本人もご家族関係者にとって、悲しみ以外のなにものでもないでしょう。連日マスコミに話題になり、社会問題にもなった事故もありました。

労山は遭難事故の防止を趣意書に掲げ運動を進めていますが、登山人口の増加と比例し

て事故が増大している現状がありますが、何とか防ぐことが私たちの大きな課題です。思い出が大部分を占めてしまいました。

さて、これからの５０年、どのような運動を展開すべきかと考える時、やはり『事故防止活動、命を大切に』の活動を第一にすべきものだと思います。次に、兵庫労山の設立時からいわれている「登山愛好者、自然に親しみたいと思う人の要求に応え」「仲間をひろげる」ことを改めて考え深めていくことが必要でしょう。私たちの思いや運動を広げていくために、山を愛する仲間、自然を愛する仲間を、大きく増やさなければなりません。兵庫の各都市に私たち労山の輪をもっともっと大きくひろげていきましょう。そのためには、社会から信頼される技術の習得と伝達も大事な課題になります。しかし，登るだけでなく安全に下る技術、さらに人を助ける技術の習得が必須になるでしょう。もちろん、これらのことは一人ではできませんが、兵庫労山の大きな成長があってこそできるものです。それを達成するのが一人一人の力なのでしょう。

この記念誌は、以前に発行された４０周年の記念誌の成果のうえに、さらに現在の兵庫労山を記録しています。

多くの会員の皆さん、過去・現在から学び、新しい未来を築いてほしいのです。「過去から学ぶものこそ未来を創ることができる」と確信しています。２５００名会員５０団体の仲間の英知を集めて、未来へ続く兵庫労山を作っていこうではありませんか。

2016 年 5 月 28 日 50 周年氷ノ山登山集会

困難とたたかった歴史に誇りをもって

―創立 50 周年に、心を込めてお祝いを申し上げます―

日本勤労者山岳連盟
会 長　西 本 武 志

兵庫県の仲間のみなさん！創立 50 周年、おめでとうございます。全国連盟を代表して、深甚なる敬意をこめてお祝いのごあいさつをお送り申し上げます。

わたくしは、兵庫の大地に〝勤労者のための、勤労者による新しい登山団体〟――労山のタネを蒔き、水をやり、懸命に育てた開拓者のみなさんの勇気と努力、さまざまな困難や障害を乗り越えて県連盟結成を成し遂げた、当時の指導者のみなさん、そしてそれを支えた各山岳会の幹部のみなさんの奮闘を思うと、胸が熱くなるのを抑えることができません。

そして特筆に値するのは、忘れることのできない 1995 年の大震災を乗り越え前進を勝ち取ったことでした。

仮に――兵庫県に勤労者山岳連盟が存在しなかったとしたら、兵庫県における登山と登山運動は、現在とは大きくちがった姿になっていたことでしょう。

わたくしは、この 50 年の歩みをきちんと総括し、引き継ぐべき教訓や未来へ方向性を導きだしていただきたいと思います。

わたくしたちはいま、高齢化社会の進行にともなう組織登山者の減少と、組織・未組織を問わぬ遭難事故の増加といった、憂慮すべき事態、そして、登山と登山文化の発展を阻害する経済的・政治的悪条件――とりわけ登山にとって欠かすことのできない自由と民主主義、平和を根底から覆しかねない現政権による憲法〝改正〟（改悪）の企図に直面しています。

しかし、労山 57 年の足跡には、そして兵庫県連盟 50 年の足跡にはどんな困難や障害にも毅然として立ち向かい、がんばりぬいてきた歴史がくっきりと刻みこまれています。
どうか、その歴史に誇りと確信をもって 60 周年、70 周年に向かって前進と発展の道を歩まれんことを！

ともに、力を合わせようではありませんか！

仲間のみなさんのご健勝を祈念しつつ。

５０周年に寄せて

兵庫県山岳連盟
会 長　中 西 研 一

兵庫県勤労者山岳連盟さんが５０周年という節目の年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。皆様とは共に兵庫県内での登山の普及や安全登山の推進、自然保護等の活動を行っているところですが、貴連盟は実に多くの加盟団体と会員を擁しておられ、早くから活動の根幹をなす自然保護憲章を作り、この憲章のもと兵庫の山からごみを一掃する運動などのユニークな活動をはじめ先駆的な六甲全山縦走等も実施されています。また、会員の皆様が勤労者という絆で強く結ばれているだけに横への広がりも大きく実に多彩で活動的な事業を数多く実施され、 加えて会の運営も会員の皆さんの総意でもって自主的に行われ、そのようなことが評判に評判を呼び、大きく発展してこられたと推察いたすところです。

今登山界では大きなうねりが起こっています。昨年には長年の懸案であった「山の日」がスタートし健康や自然志向の高まりと相まって山に親しむ人が増え登山界の裾野が広がっていることは誠に喜ばしいことであります。一方でスポーツクライミングも東京オリンピックを追い風に若者を中心に急速に人気を高めています。しかし年齢に制約なく行える登山の魅力は他に代えがたい味があります。競うでなく山・自然に溶け込み、仲間と楽しみを共有しながら健康の維持、増進に繋がる生涯スポーツと言えますがその実態は中高年登山者が圧倒的多数を占めており、いかにして若返りを図るかが山岳団体共通の課題と言えます。若者の取り込みとともに一人でも多くの人が登山に必要な知識や技術、安全登山の基礎を学んでもらい、たくさんの登山経験を通じて自ら計画し行動できる自立した登山者の育成を図る必要があると思います。兵庫県山岳連盟も登山者のお役に立つ連盟として、皆様方と歩みを同じくしながらこれらの課題に向け努力するとともに、多様な登山の発展と遭難事故の防止を目指し、併せて豊かな自然を守り育てて行きたいと思います。

今日のように変転きわまりない世の中で、５０周年を迎えられることはやさしいことではございません。この歳月の中に幾多の困難を乗り越えてこられた先人の皆様のご努力やその間に刻まれた歴史の重みを感じます。これから世代を超えて皆さんが一体となって更なる飛躍を目指してほしいと願います。

兵庫県勤労者山岳連盟さんの益々のご発展とともに会員の皆様方のご健康、ご多幸を祈念しお祝いの言葉といたします。

兵庫県勤労者山岳連盟
創立 50 周年に寄せて

大阪府勤労者山岳連盟
理事長　　園　敏雄

創立 50 周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。
半世紀の長きに亘り、常に先進的であり、革新的である貴県連の活動と、全国で第 2 の会員数を誇り未組織登山者に門戸を広げた活動に、改めて敬意を表する次第です。

何よりも自然保護活動で、ハイカーの多い関西で人気の六甲山の登山道にもちこまれたゴミがそこ、此処に捨てられている状況から「六甲山からゴミを一掃する」思いのもと毎月第一日曜に各山域を各会ごとに担当を決め、延々と数 10 年も活動を続けられ、その活動を、兵庫県、環境省が顕彰するという、画期的で全国でも例のない名誉な実績を挙げられたことです。同じ山仲間として誇りに思いますし敬服いたしております。まさに自然保護活動を通じて登山というスポーツ文化の権利を国や行政が認めたことを示すものだと思っています。

そして先に述べましたように、全国でもハイキングクラブの手本として、安全登山を優先しランク制を取り入れた活動をされている西宮明昭山の会はじめ、地域に根差した大型山岳会、クラブなどが多数あるということは、多くの登山愛好者に門戸を開く活動をされている事の実証であると感心し大阪府連も見習わなければならないとつくづく実感しています。

現在、大阪では自会で教育できないクラブが多くある中、これまで続けてきた初心者のためのセミナーや中級登山学校のほかに、3 年前から初級アルパインリーダー学校や、気象、読図、テーピングなどの単発講習会を開催して技術の向上を図る活動を始めています。そのなかで学ぶ要求の高さを改めて発見しているところです。
平和と登山の分野でも、国民平和大行進の通過地域ごとに、地元の労山が担当され多くの会員が兵庫県連のゼッケンを着けて参加されていることに大いに学ばされています。
大阪でも兵庫のような活動ができるように努力しなければと常々思いながら、この 10 年は大阪府下 8 日間で、のべ 100 名前後の参加者で頑張っています。その他には年間を通じ 2 ～ 3 か月のペースで戦跡ハイキングを行ない、平和の有難さを実感する特徴ある活動をしています。

近畿ブロックでそれぞれの特徴を持ちながら交流を続け、お互いに共に発展して行けるよう活動を旺盛に取り組んでいきましょう。

その牽引車として兵庫県連がますます発展、活動されますよう願って、兵庫県勤労者山岳連盟 50 周年に寄せた言葉といたします。

兵庫県勤労者山岳連盟
創立５０周年おめでとうございます。

京都府勤労者山岳連盟
会長　田原　裕

私たち京都労山は兵庫労山が結成された数か月後に産声を上げました。以来５０年、労山の旗を高く掲げ運動を共に出来てきたことを誇りに思っています。

兵庫労山の５０年の歩みは私たちの手本となるものです。六甲の全山縦走や自然保護活動は全国に先駆ける運動であり今も精力的に続けて展開されています。救助隊を中心にした遭難対策でも近畿協議会の中で機関車的役割を果たしておられます。私ごとになりますが雪崩講習会の活動では全国でまた近畿で兵庫労山の方々に基礎から教えていただき、学び運動する筋道を京都労山の仲間に紹介することができました。心より感謝いたしております。このような全国の労山をけん引する活動を進めるうえで兵庫労山は大変な艱難辛苦を乗り越えてこられたものと拝察いたしております。それには仲間を大切に仲間と団結することが必要であったでしょう。そのご努力ご尽力に改めて敬意を表するものであります。さて平和の問題です。自民党安倍内閣はトランプ米大統領に媚びへつらいながらごり押しに通した戦争法を一つ一つ既成のものとして進めています。労山は趣意書の精神「平和なくして登山なし」の旗の下、平和と山岳活動の関連を明確にしてきました。憲法違反の法案が国会を通過しても憲法違反は憲法違反です。これから山に熱い情熱を燃やすであろう若者たちに言い訳をしないで済むよう、山岳界が戦前戦中を通して犯した過ちを再び繰り返し歴史に汚名を残さないよう、私たちには戦争法の稼働を許さずこれを廃止にする運動を進めていくことが求められています。山紫水明と詠われる日本の山を愛し世界の山に目を向ける私たちは我が日本が世界のどこでも戦争をする国になることを黙ってみていてはならないと思います。

昨年１１月に全国登山研究集会が催され、その中で浦添理事長の趣意書に基づく報告がありました。５０年の年月を経て山岳界の様子は大きく変化いたしております。この変化を元に戻すのではなくこの変化から新たな運動を模索することが求められていると思います。その指針として労山の趣意書は大きな力を秘めています。これからの更なる５０年を展望するときもう一度趣意書の精神に立ち返りこれを普及することが大きな意味を持ってくると確信いたしております。更なる労山発展のために共にがんばりましょう。

僭越ではございますが兵庫県勤労者山岳連盟創立５０周年記念誌発刊に寄せて京都府勤労者山岳連盟を代表してのことばとさせていただきます。

２０１７年3月吉日

創立50周年をお祝いします

滋賀県勤労者山岳連盟
理事長　友 永 芳 和

創立50周年おめでとうございます。一口に50年と言っても様々なご苦労があったと思います。先輩がたの貴重な経験を受け継ぎ、日々の活動を継続されて大きな成果をあげられたのだと思います。

海外登山、登山教室、ハイキングセミナー、六甲全山縦走などにとどまらず、登山を安全に行うための様々な講習会や、六甲を始め武田尾の廃線跡の活用などの活動を通して幅広い県民の方に登山の文化と自然保護活動を広めていかれた事に敬意を表します。

50年は長かったと思いますが、まだまだ労山の歴史は続きます。今後とも近畿ブロックの中心的な連盟して活動し、発展に大きく寄与していただきますようにお願いします。

滋賀県連も兵庫県連にお力とお知恵をお借りしながら、活動を継続し発展させていこうとおもっています。今後ともお力添えよろしくお願いします。

改めて創立50周年おめでとうございます。

2017年 4月吉日

兵庫労山５０周年記念に寄せて

奈良県勤労者山岳連盟
理事長　前　圭一

兵庫県勤労者山岳連盟が５０周年記念を迎えられたこと、心からお喜び申し上げます。

当奈良県連は１９７７年に結成され、今年４０周年を迎えますが、これまで１０年先輩にあたる貴連盟の先進的な取り組みにいつも励まされてきました。思い起こせば、スーパー林道の建設に反対する氷ノ山の自然を守る登山集会や、六甲山からゴミを一掃する宣言など、継続的で規模の大きい取り組みをされてきたことは特筆に価するもので、私達の胸に深く刻まれています。これらは全国連盟の趣意書に沿ったすばらしい取り組みであったと思います。

貴連盟は、また近畿ブロックで行われてきた搬出技術講習会や全国的な取り組みであるクリーンハイク、女性委員会の交流などにおいて、全国有数の県連として近畿の労山を牽引する役割を果たしてこられました。

当連盟は、３００名足らずの組織ですが、大峰山脈の立ち枯れ問題や春日原始林の保護問題などの自然保護活動や、安全登山のための捜索訓練や搬出講習会、女性委員会による山筋ゴーゴー体操講習会などの取り組みを行ってきました。しかし、会員の高齢化とともに会員数も減少傾向にあり、組織を維持すること自体が困難な状態になりつつあるのも現実です。このような中で、貴連盟の取り組みに励まされながら、前進していける道を模索しております。

今後も近畿ブロックの連携を深める中で、貴連盟からの力強いサポートを期待しております。

貴連盟の益々の発展を祈念しております。

兵庫県勤労者山岳連盟
５０周年記念誌に寄せて

和歌山県勤労者山岳連盟
会　長　山下紀和

兵庫県勤労者山岳連盟結成５０周年、おめでとうございます。

兵庫労山の多彩な取り組みには、和歌山で実行できるか否かは別にして多くの刺激を受けています。中でも今年３月に５１回目を迎えられた六甲全山縦走大会には和歌山の会員も参加させていただいており、兵庫県連の皆さんの献身的な運営に心を打たれたとの感想をしばしば耳にします。和歌山県連では大阪府との境にある紀泉山脈での長距離縦走を毎秋に実施し、昨年度で４３回を数えました。距離・人数などは六甲全山縦走大会とは比較にはならないものですが、参加者の安全確保にかける思いは同じであり、今後とも学ばせていただきたいと思っています。

また、昨年の神戸市環境功労賞をはじめ数々の表彰を受けている「六甲山からゴミを一掃しよう」活動や廃線跡をハイキング道として整備することにつながった武庫川清掃などの自然保護活動は、地域の山や自然を愛する行動であるとともに、労山の存在意義を広く知らしめる息の長い取り組みだと思います。労山の社会貢献活動のモデルとして、和歌山でのクリーンハイクなどの活動の参考にさせていただきたいと考えています。

昨年４月から一部カラー化された機関誌「兵庫労山」は見た目のインパクトが以前より増したことと従来からの充実した内容と合わせて、全国屈指の見応え読み応えのある機関誌だと思います。今年３月号に掲載された西宮北口労山事務局長・坂西美和子さんのインタビュー記事には、偏見や攻撃と闘いながら労山活動を続けられたことが書かれており、元地方自治体職員として読みながら胸が熱くなりました。先達の多くの苦労と情熱をもとに現在の労山があることをあらためて確信しました。

和歌山も例にもれず、会員の高齢化や世代交代の問題に直面しています。兵庫労山の「会員数を増やし続けている会の活動に学ぼう！」をテーマにした地域別交流会議や機関誌連載「なぜ会員を増やすのか」などの取り組みは加盟会の活性化や発展につながるものと注目しています。昨年の５０周年記念式典で原水章行兵庫労山初代会長が示された将来展望を考える視点のうち、「登山愛好者の要求をつかむ」「労山の魅力と値打ちを考える」「原点（何のために労山を作ってきたか）に返る」は、私たち和歌山労山にもあてはまるものです。このことを基盤に、人口比全国１位の会員数を誇る兵庫労山の背中を追いながら、和歌山でも労山会員の拡大に努めて、近畿ブロックや全国労山の発展に寄与したいと思います。兵庫労山がますます発展し、私たちの目標であり続けていただくことを心より祈念します。

「労山結成50周年おめでとうございます」

新日本スポーツ連盟兵庫
会長　　青木公一

私が最初に出会った「労山」は、弱小の新体連に1000名を超す組織の団体加盟(1975.1/30)の時でした。当時私は、新体連兵庫県本部(1967.6/10結成)と神戸支部で活動していました。とはいっても、テニスラケットでボール打つことや、野球バットを使っての競技などは行っていませんでした。つまり当初指導者集団としての運動と活動を進めていた組織でした。でも私は、学生時代からやっていた軟式テニスができると思っていました。残念ながら仲間や施設確保が大変厳しかったのも現実でした。しかし神戸支部では、バスケットボールが中学校卒業OBの加盟員と顧問をされていた、増井先生がおられて細々と活動していました。増井先生は、のちに出る中学校の運動場施設開放に尽力されました。

新体連全国連盟が主催して、全国青年スポーツ祭典と称して各地の組織で取り組まれました。兵庫県でも青年スポーツ祭典「運動会的な企画」を神戸の中学校の運動場を借りて行われました。入場行進時に、労山のメンバーが登山の服装に「ザック」を背負って行進されていたのを鮮明に記憶しています。運動会開催でも徒競走のセパレートシステム採用で「その制度？どうするの」など、競技種目での専門家もいない中で行った苦い記憶がありました。

個人加盟の組織拡大が徐々に進み、兵庫区大開に神戸労山・六甲労山と合同で事務所を持つことが出来ました。

1975年にサッカー76年に野球・スキーの種目結成、79年には、軟式テニス、80年に卓球、その後続々と剣道・硬式テニス・バトミントン水泳と協議会が結成されることになりました。種目別の活動も試合や初心者指導・運営改善や審判養成にも活発に展開され、結成当時からの個人加盟からクラブ組織に大きくシフトして、新体連から1996年の全国総会で「新日本スポーツ連盟」と名称変更がされ、実質的にスポーツ団体として成長してきました。2016年総会時の組織現勢は、13種目2345名となっています。

しかし残念ながら「労山」の組織離脱がありましたが、今年も2017年1月8日に開催した「第43回武庫川新春ロードレース大会」は、スポーツ連盟加盟組織全ての種目はもとより、今でも友好団体としての関係を築いている「労山」の無線委員会メンバーのご協力を頂いております。初回開催から要員として継続協力に心から敬意を表します。

民主的なスポーツ運動と活動を推進する両団体として、尚一層の連帯と友好を深め更なる発展に努力を続けていければと願っています。

兵庫県勤労者山岳連盟の生成と発展

原 水 章 行
(元・県連会長・県連事務局長・西宮労山会長・西宮明昭山の会名誉会長)

勤労者山岳会のスタート

1960年５月、東京で伊藤正一氏（北ア三俣蓮華小屋などの経営者）らが中心となって、東京で「勤労者山岳会」（後に東京勤労者山岳会）が結成された。これは「日本山岳会」あるいはイギリスの「アルパインクラブ　Alpine Club」のような単一の組織をイメージしたものであろうか。

当時の結成趣意書の呼びかけ人には、かの「日本百名山」（１９６４年刊）の著者深田久弥氏、「花の百名山」の田中澄江氏らをはじめ当時の進歩的な学者、芸術家、文化人、政治家が名を連ねていた。

「勤労者山岳会」は、当時登山界の主流となりつつあった勤労青年の間に大きな反響をよび、結成間もなく会員が１千人にもなったといわれる。しかしこれも束の間、その後は活動が停滞し、一挙に２００人ほどに減ってしまった。予測を超えた規模、組織に経験不足と有能な組織者に欠けていたからであろうか。

安保闘争と登山

1960年といえば、安保改定反対闘争のころである。安保闘争という国民的な盛り上がりの中で、労働組合も総評を中心に、かってなく団結が強まっていた。青年労働者が大いに発言力をもち、初任給が大幅に上がり、大きく開いていた賃金格差が見直された。

かくいう私、いつの間にか労働組合の執行委員から西宮地労協（西宮地方労働組合協議会）の青年婦人部長、“安保反対青年共闘会議”の議長として勇ましく走り回っていた。その前、１９５７年に私は神戸Ｙ山岳会（兵庫岳連）に入会していたが、もはや山どころでない。こんなはずじゃーなかった！に。しかし、安保闘争の後、政治的に追い詰められた政府・資本の一先ずの譲歩であろう、給料は一挙に千円単位で大幅に上がり、休暇などその他の労働条件も改善した。思えばこの時期に、登山がそれまでの、資産家とその子弟たる学生に代わり、勤労青年が主流に変わっていった。政治を変えなければ、くらしも、スポーツも、登山もよくならない、肌身で感じた。労山が安保闘争と機を一にして生まれたのは偶然ではなく歴史的必然であった。

1956年に日本山岳会の槇有恒氏らがマナスルの初登頂に成功、勤労青年たちにも強い感動を与えていた。これが大きな契機になって、その後職場や地域に山岳会が次々と結成され、「3人寄れば山岳会」という言葉も生まれるほどになった田口二郎氏（東大山岳部OB、ジャーナリスト）がその著「東西登山史考」（岩波）でこのころの情勢について指摘している。『現代登山技術は大衆スポーツを地盤として新たに生まれた。現代登山技術を支えるのは伝統的な上流層、教養層でなく、広い勤労者である。新しい社会層が熱情的にそれを支えた』。加えて1960年代後半の好景気と大量消費社会の背景があった。

しかしながら、当時、山は若者の世界、勤労者とはいえ、中高年は仕事と育児に追われて“蚊帳の外”、山どころではなかった。週休２日制、医療保険制度の充実、経済的時間的ゆとりが生まれ、登山道の整備が進み、優秀な装備、ウエアが安価

に普及し、交通が便利になるまで待たなければならなかった。思えば「明昭」が生まれた1975年ごろがその端緒であろうか。1980年ころからの中高年の登山・ハイキングブームは、技術・経験を蓄えた当時の青年たちが、年金制度や医療制度に支えられて、再起した姿であった。

西宮わかもの山岳会の結成へ

1960年に「勤労者山岳会」が結成されたのち、各地でも勤労者山岳会が結成され始めた。1963年7月、いくつかの勤労者山岳会が結集して日本勤労者山岳連盟がついに結成された。とはいえ、伊藤正一氏からいただいた結成総会の議事録には、出席したのは東京・京都・横浜・松本・徳島など僅か5会、ほかに不参加として記載されているのは、木曽、金澤、福岡、東海など4会にすぎない。同じころ、私は安保闘争後に職場につくった山岳会を率いて剣岳に登っていた。

私たちが西宮勤労者山岳会の前身、西宮わかもの山岳会（1965年に改称）を結成したのは、日本勤労者山岳連盟（以後全国連盟と略）結成2ヶ月後の1963年9月7日である。近畿では京都労山に次いで2番目、全国でも10本の指で数えられる。“彗星”のように出現したこの会は、彗星のように消え去らなかったばかりでなく、その後の兵庫の労山運動の大きな推進力になった。

安保闘争が一段落したころ、当時、私が入っていた兵庫県岳連傘下の神戸Y山岳会は、鹿島槍ケ岳の厳冬期のバリュエーションルートの登攀を目標として活動していた。しかし1958年10月にルート偵察に出かけた先輩の1人が悪天の北俣本谷を下降中に低体温症で遭難死、同じ時、私は、先輩2人とテントを担いで吉野から大峰山上ケ岳に登り、翌日神童寺谷：蓮華坂谷を下降、途中ビバーク1泊して帰ってきた。

遭難者を出したY山岳会は活動を自粛、再開の目途が立たなかった。目標を失った私は、やがて団結の一助にと職場で山岳会を結成、アルプスへも出かけた。それを聞いて職場外からも”連れていって～“と何人も参加し始めた。その頃は西宮市でも山岳会は皆無、アルプスは“高嶺の花”であったのだろう。それならいっそ、地域的な山岳会をつくろう、憧れの女の子もいっぱい入れようと、一杯機嫌で話し合ったのが、1963年7月の夏山（剣岳～剣沢～仙人池～阿曾原）の仙人池ヒュッテであった。その時は、登りも下りも山頂でもわれわれだけの静寂境、今思えば信じられないくらい登山者は少なかった。それもそのはず、給料に比べて、登山用具は滅法高かった。登山路は今のように整備されず、例えば剣岳でもカニの縦バイはボルトだけ、横バイには今のような鎖は何もなかった。山岳会は少なく、登山技術も勉強する場も無かった。

下って剣山荘に入ると、主人が飛んできて“明日はどこへ下るか？”と聞き、われわれが仙人池へ下ると知ると大喜びで、身内の青年を送り届けてほしいとその青年を引き合わせた。

翌日、預かり物？者？（北海道大学の司鷹某君）を仙人池ヒュッテに無事送り届けると、食い放題、飲み放題の歓待を受けた。仙人池の畔でくだをまきながら、新山岳会の結成を論じあった。9月に発足、名前は“西宮わかもの山岳会”、できたての勤労者山岳連盟に加盟することまで決めた。何しろ一杯機嫌、決まるのは早い。

兵庫初の労山の誕生

１９６３年9月7日、剣岳で決めたように西宮わかもの山岳会の結成に漕ぎ着けた。人が集まるやろか、心配をよそにビラがどこへ回ったのか、何と20歳前後の若者が30人ほど、会場は熱狂的な空気が立ち込めた。不肖、独身青年、張り切らざるをえない。

席上、私は“全国の山仲間と手を携え、会を発展させよう”とか全国連盟への加盟を訴えた。労働組合で鍛えられているのでアジはうまいものである。その後すぐに伊藤正一氏に手紙を出し、勤労者山岳連盟の資料をお願いした。

私が伊藤正一氏や勤労者山岳連盟を知ったのは、1963年7月に発行された著書『勤労者登山教室』（新興出版社・真昼文庫）を偶然書店で見つけたからである。初歩的な技術書であるが、序章の短い行間に、登山の大衆化を訴え、『登山は勤労大衆のもの……より進歩したアルピニズムはよりよき社会機構の中から生まれるもの…あなたが山を愛するならば、この日本の社会にも目を向け、平和な住みよい社会であることも愛してほしい。そして登山の正しい大衆化のために力を出していただきたい』に、これや！と心をゆさぶられた。

孤軍奮闘　西宮わかもの山岳会

さて　西宮わかもの山岳会結成後、早速全国連盟に加盟を申し込んだ。しかし東京からはナシのつぶて、さんざん宣伝した手前、引っ込みがつかない思いであった。年が明けて2月、ようやく東京勤労者山岳連盟の事務局からハガキが舞い込み、秋に穂高で遭難者を出し、その処理に追われていた、と釈明されていた。しかも、1000人いると聞いていた東京労山は“ただいま50人”とあった。これには、びっくり、がっかりであった。頼るどころでない。機関誌も連絡も交流も皆無、連盟の実態はなかった。略称、マーク、旗のデザインは？。こうなったら自分らで1からやるしかない、と腹をくくった。労音に習って定例の山行を“例会”としたのは今日では広く普通になっている。会員をまとめる会報、集会、民主的に運営するためにそれまでの山岳会のように少数のリーダー会で全て決定することを反面教師としながら、運営委員会を設け、総会を最高決議機関にするなど、労働組合の方式を取り入れた。　登山バス、スキーバスなどは会員の創意であった。今では普通のことばかりであるが、当時は、エッ、バスで山へ行くの？！とびっくりされた。

組織つくりと運営は労働組合の経験が、また山の技術面などは山岳会時代の経験が役に立った。結成の翌年には鳴尾公民館から頼まれて登山講座を開いた。武庫川女子大のワンゲルの部員が団体で参加したり、日本山岳会のバッジをつけた人が受講者の中にいて、冗談でっしゃろと緊張した。 以来、毎年講座を開き、会員を獲得した。彗星のように現われた会が燃え尽きなかったのは、登山技術・理論面で山岳会の伝統を引き継ぎながら、組織面では民主的な運営を心がけたことにある、と思っている。また、活動の経験の中からつかみとった運営の原則『自主的、民主的、科学的、組織的、現実的』はいつでも、今後一層重要である。

全国連盟のリニューアル・スタート

1965年も近くなって、時代は急速に動き始めていた。勤労者山岳会も全国的に結成の動きが盛んになった。それらの多くは、登山技術面でも組織活動でも手腕があり、有能な幹部が中心になっていた。東京でも東京南部山岳会などの大きな働きもあって、1965年8月に「第1回全国登山祭典＆全国連盟第2回総会」が開かれることになった。会場は上高地の奥小梨平であった。これに向けて西宮わかもの山岳会は、6月に臨時総会を開き、会名を西宮勤労者山岳会に改めた。私も30歳を超え、“わかもの”でもなかろう胸をなでおろした。

上高地祭典には、西宮労山から4人が参加した。太郎平から雲ノ平、黒部五郎岳、槍ヶ岳へ縦走、槍沢を駆け下っての参加であった。会場はすでに若者たちがいっぱい、色とりどりの旗がはためいていた。

われわれの旗はその日の空のようにスカイブルー、くっきり一際あざやかであった。

総会とはいえ正式の代表は少なく、1ケタで、近畿勢は京都とわれわれだけ、大多数は各地からのオブザーバーで、参加者は22都道府県からの91人であった。大勢のオブザーバーが固唾を呑んで見守る熱気のこもる総会は今も瞼によみがえる。

その夜のバンガローは、松本労山と同室で、プロのガイドも加わる松本勢は山の雰囲気も一際、話がはずんだ。アルコールが次々と現われ、夜を徹しての自主交流会、どのバンガローもそうであったろう。それでも翌日の分散会では、皆ケロリとして夢中でしゃべりあった。なにしろ20歳代の山男・山女の集団である。

この総会の最大の成果は、「数百の会、数万の会員」をスローガンに、労山の拡大強化を打ち出したことである。すでに会員100人を超えて経験豊かに活発に活動していた西宮労山は“創意的かつ情熱的”と評された。

燎原の火のように燃え広がる

この総会・登山祭典をジャンプ台に、労山は全国に燃え広がり始めた。以後、核となった東京近郊の会を中心に事務局が確立し、組織整備が進んだ。事実上の連盟の発足と言ってよかろう。吉尾弘さんや高橋伸之さん、その他著名な登山家が加盟するなど人材も厚くなった。

1965年11月には、第1回登山学校が富士山で開かれ、吉尾弘東京都連会長（当時）が校長兼コーチであった。これには西宮労山からも受講生を送った。

1966年2月には、初めての機関誌「全国労山」が創刊され、ようやく連盟らしくなってきた。われわれも兵庫に何としても複数の会を、そして県連をつくろうと決意した。上高地祭典後の西宮労山第3回総会では、『兵庫に700人、西宮に200人の会員を』と自主目標を決め、分厚い議案書を大量につくり、全国に送りつけた。

それからの西宮労山の各方面への働きかけは熾烈であった。自会の拡大に取り組むとともに、少しのコネをつかむと山の会をつくろうと口説いた。会員の分離・独立も考えた。尼崎、宝塚、芦屋、神戸そして大阪までも。

兵庫県連成る！

翌1966年2月には、尼崎と宝塚に、そして3月にはついに県都神戸に会が生まれた。すでに3月に結成準備会を開き、4月16日に県連結成を決めた。西宮わかもの山岳会以来2年と6ヶ月である。この頃にはお隣の大阪でも東大阪労山など数会が生まれ、2月の東京に次いで一足先に大阪府連を発足させていた。兵庫はこれに次ぐ3番目の都府県連である。

1966年4月16日、県連結成の会場西宮中央公民館に集まったのは、４つの会からの約50人、当時の様子を5月14日発行の「労山兵庫県連」創刊号がよく伝えている。

翌4月17日には摩耶山で記念集中登山が行われ、約50人が集まった。奥摩耶山荘横の盆地の中央に大焚き火を燃やし、それを囲んでウタゴエ、フオークダンス、ゲーム、はては騎馬戦まで、何しろ半世紀前、若さがはじけていた。

県連の発展

県連の結成は、その後の県内の労山運動の強力な推進力になった。4つの会が一体となって、強力な推進力になった。４会が緊密に連携しながら、どの会も自会と県連の拡大強化に真摯に取り組んだ。その有力な手段は、①山岳会結成の働きかけ、既存山岳会に加盟の働きかけ、②分離・独立、③分割、である。今日の多くの会のルーツをたどれば、これら４会に行き着くことが多いことからもよくわ

かる。それかあらぬか、兵庫の各会は、よく“金太郎あめ”といわれた。県連結成２年間に、芦屋を始め次々に会が結成され、８会 400 人に倍加、県連としての活動も講演会、映画会、岩登り教室、登山バス、スキーバスなど続々と行われた。

1966 年、発足の年の年末には早くも今に続く六甲全山縦走大会がスタートした。参加者は 62 人。塩屋からスタート、高倉山も健在で細々と荒れた感じ、鷹取山は萩の寺からの岩稜ルート、加藤文太郎のころからの伝統コースであった。1975 年からの神戸市の全山縦走より９年早い。

県連の今後の課題

県連は２０１２年の第 49 回定期総会で〔50 周年を会員数３０００人、連盟費納入者数を 2500 人を目指す〕と決定した。以後、第 50 回～ 53 回総会まで総会のつど議案書には力のこもった名文が載る。しかし残念ながら、それから４年、3000 人という目標は、はるか雲の上を漂っている。昨 2016 年、50 周年を迎えたが、2012 年４月現在の会員数 2504 人から 2016 年には 2627 人、約 120 人前進したが、3000 人にはあと 400 人、遠く及ばない。

４年で 120 人前進したとはいえ１年平均 30 人、これでは 400 人は１３年かかってしまう。私をはじめお互い生死が危うい。５～ 10 年後の高齢化を考えると、若い後継者が続かない会は、“劇的に”消滅するであろう。各会が自らの運命を〃切り開くのか、また多くの登山者のために何が出来るのか、会員を何人にするのか、目標の無い運動には成算は無い、達成可能な目標を立てようではないか。

高齢化を食い止め、若返りを

2012 年と比較して、会員増加 20 会、不変 10 会、減少 15 会である。不変の会、減少の会も 20 の会に続きたいものである。とはいえ、全国の労山、岳連の多くが会員を減らす中で、とにかく増やしている兵庫労山の踏ん張りは評価してもよい。特に大型の会だけで 145 人を拡大している。2012 年現在、80 人以上の大型会は７会の内６会が会員を伸ばし、2016 年には６会が 100 人以上に成長している。また、20 人台の小規模の会の健闘にも目を見張る。７会のうち増加 5、不変 1、減少１。その結果、20 人台から 30 人台に成長、力をつけた会も見られる。新しい仲間を迎える効果は、単に数以上に大きいことは、皆さんがよく知っているとおりである。

昨年 11 月の全国研究集会でも、県連地区交流会でも、会外に打って出る活動、会の外にも目を向けた積極的な活動、各種講習会、などを積極的に行っている会は会員を増やしている。加えてホームページ、チラシなども。

県連結成半世紀、われわれ自身も、登山界、山、国、世界も激しく変わった。スポーツ、登山も非常に多様で複雑になった。

来る 2020 東京オリンピックでは、スポーツクライミングが正式競技種目に決定され、会場も東京都の青梅アースバン・スポーツ会場に決定している。これに伴い、2018 年４月から日本山岳協会が「日本山岳・スポーツクライミング協会」と名称を変えることになった。近畿の各山岳連盟を始め全国で異論が多く出たと聞くが、五輪大会は何が何でも成功させなければならない、と結局は決定された。文部科学省所管の日本体育協会に組み込まれている宿命であろう。労山や新スポーツ連盟が国の権力支配から距離をおき、「自主的・民主的」を掲げている意義がここに鮮明である。

県連も新たな発想で先頭に

「拡大は各会で」だけではなく、県連もその先頭に立ち、直接、間接にできることを考えよう。例えば、大阪労山は、「ハ

イキング・セミナー（夏山）（冬山）」を毎年開き、修了者でつくった会が 15 会に及んでいる。

また、大阪府岳連は、「個人会員制」を 10 数年にわたり続け、多くの会員を増やしている。兵庫岳連も 2015 年から「個人会員制」を創始した。ともに未組織の登山者を集め教育し、大きな成果を挙げている。

県連も各会の人材を登用し、宣伝資料を整え、一般登山者に向けた大規模な働きかけ、講習会、独自の「個人会員制」、空白地域の既存の会、グループの受け入れを考えよう。それには、講師の派遣、資料など各種の要求に応える努力ともに、れ可能な、柔軟で、懐の深い対処が必要と思われる。全国の労山はもちろん、大団体をかかえる兵庫県岳連やにこたえる努力とともに、連盟費をタブーとせず率直に実情を知り、小規模の会、大規模の会ともに、受け入大阪府岳連などにも謙虚に学ぼう。

兵庫県連の立ち位置

2016 年４月末現在、団体数は 45、会員数は約 2500 人である。これは、全国連盟では 2800 人の東京都連に次いで２番目である。また歴史と伝統のある兵庫岳連と比べて人数面ではほぼ対等になった。府県の人口に占める労山会員の割合＝普及率は 2500/5200000 ＝ 0.05％、全国の労山の中では普及率第１位である。とはいえ、神戸市、姫路市、西宮市などの大都市をかかえ、六甲山、北摂、丹波、播磨、但馬など、豊かな山岳に恵まれ、古い経験と伝統をもつ兵庫県の登山愛好者の数からみれば兵庫県岳連と合わせても微々たるものである。試みに各市町村人口に占める各会の会員数比率を当たってみよう。神戸市は、0.004％、西宮市は 0.04％、姫路市ほか空白の地域はまだまだ多い。登山者を組織する地域のセンターとして道半ば、しかしながら、未来の登山界に向けてようやく準備が整ってきたといえよう。結成 50 周年を迎えた今、半世紀の歴史を振り返り今後の課題と未来を洞察したい。

教育活動

渕上勝之

教育委員会が現行体制になったのは2013年6月からです。それまでは4部会（登攀教育部・ハイキング教育部・無線教育部・気象教育部）がそれぞれ独立したかたちで運営されてきました。名前だけ教育委員会という名前はありましたが委員会としての活動はなく各部がそれぞれの課題に取り組んでいました。

2013年から教育委員会として4部会の責任者が一堂に会し会議を持つようになりました。そして2014年からは「登山学校」も教育委員会の所管になり5部会で運営されるに至りました。

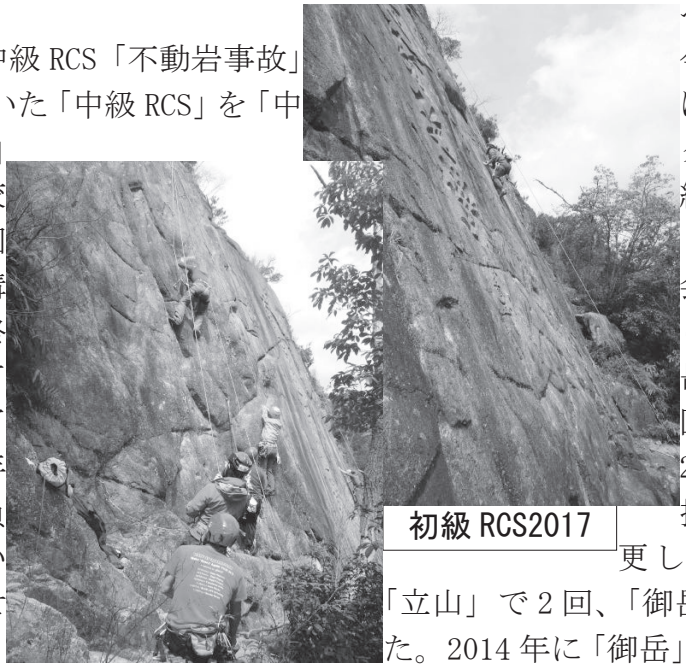
現在教育委員会では各部会の報告・予定を中心に日程調整や登山学校へ横断的に協力する体制を整えています。こうしたことで5部会の連携がすすみ県連の教育活動が徐々にではありますが進みつつあります。

登攀教育部

河尻和重

登山技術（主に登攀）のレベルアップ、一般登山愛好者への登山技術の普及、及び、「錬成山行」を中心とした登攀教育部員の技術向上を目的として2007年以降の10年間活動してきました。

2004年5月の県連中級RCS「不動岩事故」により、一時中断していた「中級RCS」を「中級登山学校2009夏」として5年振りに開校し、2014年まで6回実施して47名の受講生が終了しました。終了後は会の中心として活動を行っている修了生もいます。「2014年夏」を最後に実行委員会体制が確立できないために開校していません。現在は「フリークライミング」が中心で「アルパインクライミング」を行う人は減少していますが、登山文化の継承のためにも「アルパインクライミング」を取り組む必要があります。登攀教育部を中心にして、県連盟の仲間の協力を得ながら検討します。



初級RCS2017

労山会員を対象とした「初級クライミングスクール」を2008年9月に開校し24名の受講がありました。2010年からは春に開校して、2016年で8回目です。2013年からは一般募集にしました。今までに125名（一般19名）。一般受講生の半数近くが県連盟へ入会しています。今後も一般を対象に「初級クライミングスクール」を取り組んでいきます。

「各会雪山交流会」は2008年から3年間、「南八ヶ岳」と「大山」で3回取り組みました。2011年から「雪上技術講習会」に変更して、2013年までに「立山」で2回、「御岳」で1回行いました。2014年に「御岳」で計画しましたが、参加申し込みが3名なので中止して現在に至っています。「大山・雪上技術講師研修会」は2011年から2013年まで3回実施して講師の技術向上を計りました。「錬成山行」は2011年1月に「八ヶ岳東面」を取り組みましたが、悪天候のために途中下山しました。登攀では「宮崎県・比叡、鉾岳」へ3回実施、他に「雪彦山」2回、「北ア・涸沢岳幕岩」「錫

杖岳」「小川山」2回を実施しました。

2008年と2009年には「剱岳合宿」も行っています。「各会クライミング交流会」として2007年以降「小豆島・吉田の岩場」を5回実施しました。2014年以降は「雪上技術講習会」「雪上技術講師研修会」は取り組んでいません。「錬成山行」も2015年以降は計画がありませんでした。会員の高齢化もあり「講習会」を計画しても参加者が少ないこともありますので、参加しやすい1日だけの「講習会」等を検討します。「錬成山行」も無雪期の登攀を中心に検討します。

ハイキング教育部

藤井　勉

ハイキング教育部の前身は「ハイキング委員会」で、2003年度に組織の見直しがあり、教育委員会所属のハイキング教育部とハイキング安全対策部に分割されました。

教育委員会は所属部会の体制が整っていない部会があり、実質的には活動が行われず、ハイキング関係はハイキング合同部会として活動を行いました。2005年度に再度組織の見直しがあり、ハイキング教育部とハイキング安全対策部がハイキング教育部に統一されました。2013年度からは、教育委員会所属の4部会の体制がほぼ整ったこともあり、教育委員会として新なスタートを切りました。ハイキング教育部も教育委員会の所属部会として活動を行い現在に至っています。

ハイキング教育部は、一貫してハイキング志向者に対する「登山技術の向上・安全確保・ハイキングの多様性」を目標に掲げ教育活動を行ってきました。

2015年中級ハイキングセミナー白馬嶽

2006年度から統一されたハイキング教育部として、ハイキングリーダー講座・地図コンパス講座・雪山ハイキング講座を中心に教育活動を行いました。

ハイキングリーダー講座20年の実績を踏まえて、山登り基礎講座（2回）、中級ハイキングセミナー（3回）と講座名は変更しましたが、一貫してハイキングのリーダー養成・これから本格的な山登りを目指す方に対する山登りの基礎教育活動、スキルアップのため地図・コンパス講座・カシミール講座を行ってきました。また、ハイキングの多様性に着目した「スノーシュー」は2006年から兎和野高原、2010年からは美方高原で10年間実施してきました。この取り組みが功を制し兵庫労山にスノーシューの

2016年中級ハイキングセミナー硫黄岳

2017年スノーシュー美方高原

取り組みが定着したと自負しています。

一方では、部員のスキルアップを目的に、岩稜帯の安全通過（ロープワーク）・ウォーターハイキング（沢歩き）・スノーシューハイキング・練成山行・ＰＣ勉強会の取り組みを行っています。

今後は、上記の講座等の内容を吟味して、より質の高い講座講習会を実施する一方で高齢化した社会に対応する講座講習会を模索して行きます。

中級ハイキングセミナー
南路通過実技

無線教育部

大村冨栄

１９９４までは、アマチュア無線はハイキング委員会の所管で、受験講座・運用講座を行ってきましが、１９９５に発生した阪神淡路大震災で、西宮勤労会館が避難場所となり使用できなくなりました。その影響で講座が出来なくなり、無線に関する教育活動はその後できなくなりました。１９９７年に発生した氷ノ山での遭難事故の捜索で無線有用性が認められ、無線の活動が無線委員会として２００３年に再開しましたが、「兵庫の山々一斉登山」・「全縦」等の無線サポートが主な活動でした。無線委員会とは名前のみで予算付けもありませんでしたが２０１０年度からは受験講座を再開しました。

２０１２年の組織の見直しに伴い、教育委員会所属の無線教育部として再編され予算も認められ現在に至っています。

２０１３年から受験講座のほかに年に１回から２回の割合で運用講座を開催しています。

２０１６年の受験講座では一般からの受講生枠をもうけ、２０１７年の運用講座から、一般の受講生を受け入れています。

それと並行するように、各行事に業務無線機の運用を取り入れました。業務無線は資格がなくとも、容易に無線連絡が取れるため、正確な情報交換と迅速な安全確保に役立てることが可能になりました。業務無線の利用は、アマチュア無線の電波法規を遵守した上で実用面においても威力を発揮しています。正に連絡網の新時代到来と言えるでしょう。

2017 年 4 月運用講座

気象教育部

藤原　昭

２００６年「気象勉強会」の時代

十年前は、まだ「気象教育部」という名ではなく､「気象勉強会」という名前でした。会員数は約２０人。小鯛叡一郎氏（神戸カタツムリの会所属）指導の下、県連事務所を借りて、気象の勉強を月に１回～２回開いていました。

この勉強会の存在を風の便りに聞いた気象予報士の資格を持つ方から「見学させて下さい」と、申し入れがありました。その後も、気象予報士から、アドバイスや講義もして頂きました。今でも、その気象予報士から指導を頂いています。

２００９年「気象テキスト」創作の時代

県連教育委員会・「気象教育部」に昇格しました。県連事務所の部屋の合い鍵を貰い、事務所で打ち合わせをすることが多くなりました。

ラジオを聞いて天気図が描けるようになることが基本中の基本で、その上に、大気現象のしくみや高層天気図を学習していきました。一方、講座の基礎となる「統一した気象テキスト」を作ろうと、打ち合わせを何回もしました。テキストを試作し、また壊すという繰り返しが続きました。

2010 年の「気象講座」

２０１２年ようやく「気象講座」が軌道に乗る

念願であった気象講座用の「統一したテキスト」が完成して二年目を迎えました。実際に講座で使うと、より易しく文章を書きかえ、大胆にカットするなどの工夫が求められました。誤字、脱字もあって、小さな訂正は、その後も毎年続きました。

一方、受講生の数は毎年１５名以上の応募があって、資金面で安定するようになりました。

２０１６年、実践的な講座も始める

時代の変化なのでしょうか？ラジオを聞いて天気図を描くためのNHK放送「気象通報の時間」が、一日三回の放送から、一日一回の放送に変わりました。この変化に応じるかのように、「天気図を描く講座」の受講生が減少して来ました。

一方、新しく始めた講座「実践気象講座」は、堅調な受講者数を確保しています。「実践」＝理論ばかり追わず、先ず履行すること（広辞苑より）。気象現象を説明するより、活用方法に重点を置いた気象講座です。講師が気象予報士であることも、成果を上げている要因であると、言えるでしょう。

これからの気象教育部

今は、インターネットで、気象情報が素早く取り出せる時代です。問題は、活用方法にある、と言えるでしょう。

知ってはいたけれど、「まさかと思って、行動には移さなかった」ことが後悔を生む事故に繋がった。そんなことが無いように、私達は考えなければなりません。

そのためには、これから、何をしなければならないのでしょうか？問い掛けながら、努力をしていきます。

六甲全山縦走

田中朋芳

六甲全山縦走大会は、早くも県連結成後の6か月後である1966年12月に第1回が開催された。それ以来、中止は第4回だけで、これは強い雨のためであった。それまで六甲全山縦走は、山岳会が小規模に自主的に、または強力な山岳会のある特定の大きな職場がまれに行うに過ぎず、一般登山者に開かれた、だれでも参加できる大規模な行事はなかった。当時はもちろん神戸市も行っておらず、組織的な取り組みとして我々県連の六甲全山縦走大会が草分けと言える。

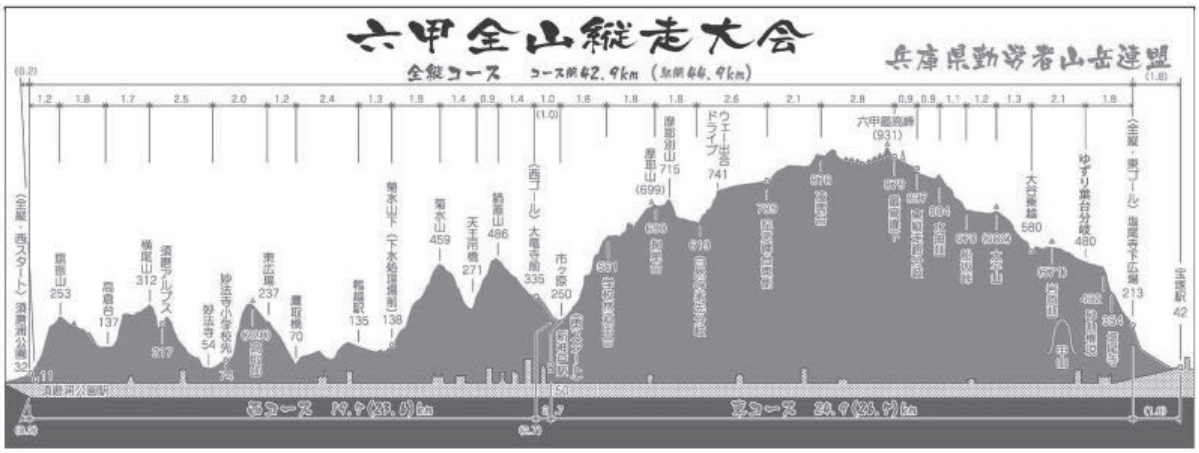
この全山縦走大会の目的は、各会の会員の交流をはかるとともに、一般の登山愛好者に参加する機会を提供するとともに、日ごろ鍛えたトレーニングの成果を試す機会ともする、ということにあった。そのため、登山靴をはいたり、重装備で歩く参加者もあった。

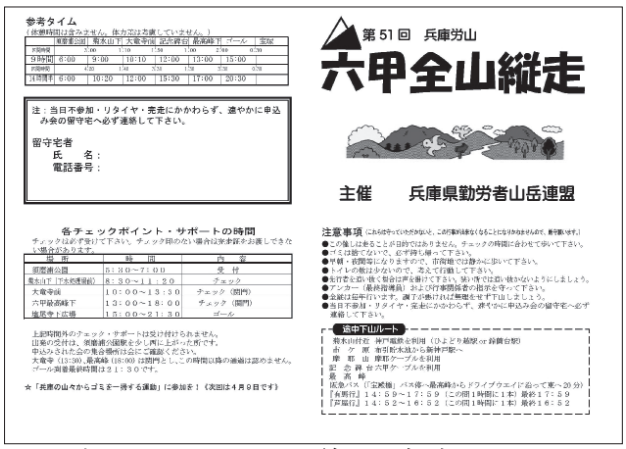
第1回は、1966年12月4日、参加者は62名、サポーターが20名、合計82名で行われた。県連の人員が約200名の時代である。参加者の中には、県連外の登山グループも含まれている。

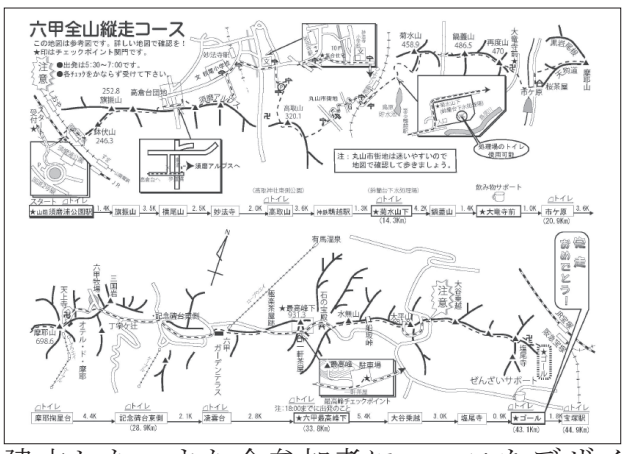
当初から12～13年は塩屋スタートで、今では想像がつかないが、あの荒れた感じの高倉山の縦走路も健在で、萩の寺から高取山に登り、須磨アルプスも通る加藤文太郎の時代からの伝統コースそのものであったことである。

初めの頃はタイムリミットも設けなかったので、最後のゴール到着は23時を大きく上まわり、サポートのメンバーが終電で家に帰れるかどうか、という有り様になった。さすがに安全上からも、10回を過ぎた頃からタイムリミットを設けるようになった。参加者も、サポーターも皆若い。熱気あふれる雰囲気であった。その後、県連組織も大きくなり、また評判が高くなったのか、1973年（第8回）以後は参加者が大きく増え始めた。1981年から1994年ごろまでは天候の影響により変動があるが、申込者が1500人から2000人を上下していた。申込者の最高は1986年の2089人、参加者の最高は1942人である。

しかし12回頃から、まずスタートの塩屋が、住民にとって早朝からの騒音公害ということで通れなくなり、神戸市の海の埋め立ての材料として高倉山が削られることにより、また萩の寺も通過を断られ、やむなくコースを変更せざるを得なくなった。スタートの塩屋は須磨浦公園に変わり、須磨アルプスは参加者が増え続けて多人数ではコースが危険と考え、須磨アルプスと高倉山は大きく迂回したコー







スとなった、六甲の修了試験といわれたコースが軟弱になって魅力が減ったことは否めない。

30回の1995年（阪神淡路大震災）から高齢化した会員にも参加し易く一般参加者にもトライしやすくすることで参加者の減少を止める手立てとして、全縱走のコースを半分から始められるよう東六甲コースを、32回からは西六甲コースを追加したものの、参加者減少は止まらず、41回では申込者が1000名を切ることとなった。

その41回からは、加盟各会からアンケートで意見を集約した結果、これまで続けてきた飲食サポートを取止めと共に、コースを須磨アルプスを通るコースに、開催時期を3月第2日曜日に変更し、参加費も値下とした。

この10年間では45回が東日本大震災の2日後であり、行事の中止も検討したが、参加者に訴えて被災者を励ますため義捐金を呼びかけたところ、急な呼びかけにもかかわらず24万円余りが集まり、神戸新聞厚生事業団を通じて被災地へ託した。

また47回からは申込者が1000名を超え、48回では大学のGPS六甲縱走路調査に協力を、50回記念大会では東北3県労山より33名の招待のうえ、環境省及び神戸市の許可を得て、山頂に震災鎮魂碑を建立した。また全参加者にコースをデザインした日本手拭を記念品として配布した。

申込者が増加に転じた要因は、加盟各会の協力とともに、委員会の補強、宣伝ビラの配布や全縱専用ホームページの作成等が考えられる。

しかし、一般参加者の比重が年々増えて行き、会員の参加が減少しているという現状に、行事の運営に新たな困難が生じている。また会員の高齢化が影響していることは否めない。

私たちが始めた「全縱」＝「六甲全山縱走」ということをこれまで以上に定着させたい。

【引用】

西宮明昭山の会原水章行氏の40周年記念誌執筆文

六甲山頂に震災鎮魂碑建立

《六甲全縦参加者数》

回数	年	月	日	申込				参加者（出走）				完走				備　考
				全縦	西六甲	東六甲	計	全縦	西六甲	東六甲	計	全縦	西六甲	東六甲	計	
1	1966	12	4					62			62	53			53	
2	1967	12	3					125			125	101			101	
3	1968	12	1					143			143	121			121	
4	1969	12	7	雨天中止												
5	1970	12	6					156			156	89			89	
6	1971	12	5					235			235	166			166	
7	1972	12	3					219			219	141			141	
8	1973	12	2					405			405	297			297	
9	1974	12	1					435			435	351			351	
10	1975	11	30					701			701	576			576	
11	1976	11	28					823			823	687			687	
12	1977	12	4	1,072			1,072	940			940	718			718	
13	1978	12	3	1,061			1,061	930			930	819			819	
14	1979	12	2	1,389			1,389	1,393			1,393	1,104			1,104	
15	1980	12	7	1,550			1,550	1,378			1,378	1,277			1,277	
16	1981	12	6					1,839			1,839	1,644			1,644	
17	1982	12	5	1,834			1,834	1,942			1,942	1,521			1,521	
18	1983	12	4					1,645			1,645	1,597			1,597	
19	1984	12	2	2,068			2,068	1,862			1,862	1,684			1,684	
20	1985	12	1					1,810			1,810	1,584			1,584	記念バッチ作成
21	1986	12	7	2,089			2,089	1,851			1,851	1,667			1,667	
22	1987	12	6	1,637			1,637	1,456			1,456	1,183			1,183	
23	1988	12	4	1,750			1,750	1,634			1,634	1,495			1,495	
24	1989	12	3	1,802			1,802	1,626			1,626	1,555			1,555	
25	1990	12	2	1,768			1,768	1,574			1,574	1,476			1,476	記念バッチ作成
26	1991	12	1	1,630			1,630	1,519			1,519	1,413			1,413	
27	1992	12	6	1,881			1,881	1,646			1,646	1,546			1,546	
28	1993	12	5	1,940			1,940	1,697			1,697	1,547			1,547	
29	1994	12	4	1,874			1,874	1,665			1,665	1,493			1,493	
30	1995	12	3	1,499		116	1,615	1,349		105	1,454	1,216		105	1,321	記念バッチ作成 大震災
31	1996	12	1	1,464		201	1,665	1,275		148	1,423	1,154		143	1,297	
32	1997	12	7					1,401	83	138	1,622	1,006	59	90	1,155	
33	1998	12	6	1,227	46	162	1,435	1,117	43	144	1,304	1,026	41	141	1,208	
34	1999	12	5	1,191	80	178	1,449	1,027	68	149	1,244	951	66	144	1,161	
35	2000	12	3	1,084	60	155	1,299	970	57	138	1,165	893	56	129	1,078	
36	2001	12	2	976	52	151	1,179	867	41	140	1,048	799	41	127	967	
37	2002	12	1	977	41	196	1,214	902	34	162	1,098	803	34	157	994	
38	2003	12	7	899	55	184	1,138	795	48	157	1,000	726	48	151	925	
39	2004	12	5	825		200	1,025	635		130	765	564		122	686	
40	2005	12	4	818		201	1,019	728		151	879	405		90	495	
41	2007	3	11	588		206	794	494		179	673	349		167	516	コースなど大幅見直し・値下
42	2008	3	9	440	50	180	670	380	46	156	582	293	44	148	485	ｽﾀｯﾌﾊﾞｯｸﾞ
43	2009	3	8	415	48	175	638	370	41	151	562	311	35	140	486	
44	2010	3	14	478	58	196	732	420	52	172	644	353	47	150	550	
45	2011	3	13	550	52	192	794	449	30	138	617	385	23	128	536	東日本大震災
46	2012	3	11	569	92	209	870	506	83	193	782	416	76	173	665	
47	2013	3	10	689	88	224	1,001	601	80	184	865	426	54	149	629	天候急変・暴風雨
48	2014	3	9	730	150	264	1,144	645	129	229	1,003	500	114	214	828	スタッフバッグ・値上
49	2015	3	8	833	160	370	1,363	753	144	326	1,223	583	126	305	1,014	以後ｽﾀｯﾌﾊﾞｯｸﾞ
50	2016	3	13	984	181	380	1,545	903	156	340	1,399	724	109	315	1,148	+記念手拭作成
51	2017	3	12	820	183	308	1,311	754	161	277	1,192	640	137	264	1,041	

第26回（1991.12.1）にはこの年の平和行進通し行進者 錦織さんも完走。
第41回より須磨アルプス通過などコース変更、開催日も3月第2日曜日に変更、飲食サポート中止。
第43回、塩尾寺ゴール飲み物サポート、第44回大竜寺、塩尾寺ゴール飲み物サポート。
第50回　東北3県　33名招待、山頂に鎮魂碑建立

海外登山

大杖哲司

兵庫労山は1966年の結成以来、兵庫県内をはじめ近畿周辺さらには日本アルプスなどで登山やハイキングを楽しみ、県民に広める活動を地道に行なって来ました。当時はヒマラヤ登山等は夢のまた夢でもありました。1972年に全国連盟が全国の労山会員に呼び掛け100余名がヨーロッパアルプスを登る一大イベントがありました。兵庫からも10名ほどの会員が参加しモンブランやマッターホルンなどを登りました。

兵庫労山は1975年の第10回臨時総会で結成10周年記念事業として長野県労山と合同で初めてインドヒマラヤのナンダデビィ峰に登山隊を送ることを決めました。1977年以後の兵庫県連と加盟　山岳会が取り組んだ海外登山を報告します。

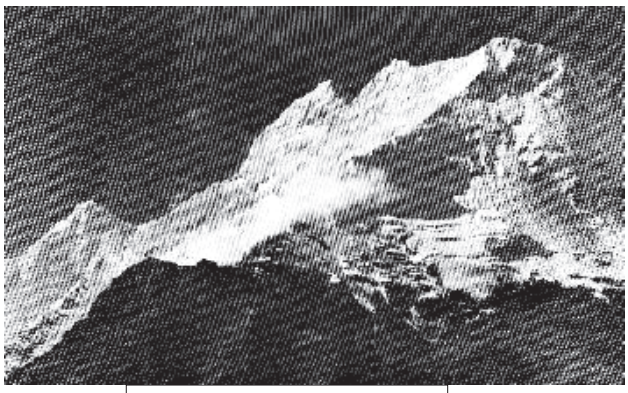
＊ 1977年日印合同ナンダデビィ登山隊
（7816ｍ）

総隊長：武原　勉（48、武庫労山）
隊　長：森田稲吉郎（36、長野・上小労山）
副隊長兼登攀隊長：倉内司郎（35、西宮北口労山）
マネージャー：赤松　暁（36、神戸労山）
隊　員：羽二生直人（30、北海道・札幌ピオレ山の会）、槌田　洋（27、大阪・吹田労山）、神津一男（30、長野・佐久アッセントクラブ）、太田正博（28、長野・上小労山）、小平忠美（24、長野･伊那山仲間）、村西豊克（32、西宮北口労山）、赤鹿克明（32、甲子園労山）、坂西美和子（31、西宮北口労山）、田渕常雄（29、東灘労山）、本部　肇（25、摩耶 山友会）
インド側隊員４名

この登山は日本勤労者山岳連盟創立15周年記念事業として取り組まれたもので兵庫県連と長野県連が主管した。登山隊の行動概要は1977年7月26日に先発が、8月5日に本隊が出国した。登山隊はインドで友好親善活動の後、9月2日からキャラバンを開始し8日にＢＣに到着した。その後約１ヶ月間登山活動を行なったが、ルート変更による装備不足や天候悪化等で登頂を断念した。

最高到達高度は10月2日のＣ４予定地6850ｍであった。登山隊は10月20日にニューデリーに帰着した。その後、登山隊の隊員を中心に12名がインドからの帰路ネパールを訪れ、ネパール警察登山 探検財団チームとラムジュン（6983ｍ）ＢＣで合同訓練を行った。

なお、この登山隊を物心両面で支えるために兵庫県連を挙げてカンパ活動、カレンダー販売、隊員の家族支援活動を行なった。



ナンダデビィ

＊ＣＢ１２　女子登山隊
（インドヒマラヤ　6248ｍ　初登頂）

隊　長：吉本　満（30、須磨労山）
隊　員：福隅さち子（29、山岳会ホワイトピーク）、足立寿子（26、逆瀬川労山）、吉田寛子（25、山の会かじか）、生駒隆子（24、山岳会ホワイトピーク）

この登山隊は県連で活動する５つの会の女性ばかりの有志で組織された。1979年7月26日に出国した、8月6日にキャラバンを開始し9日にＢＣを建設した。9日から登山活動を行い、18日に全員が　登頂を果たした。9月3日に全員無事に帰国した。

＊ 1980年兵庫県勤労者山岳連盟
日印友好シブリン登山隊

（インドヒマラヤ・ガンゴトリ山群　6543 m）
隊　長：倉内司郎（38、西宮北口労山）
副隊長兼登攀隊長：小林孝雄（32、西神戸山の会）
隊　員：猪原絹子（33、甲山労山）、栢　正頼（32、逆瀬川労山）、井上義行（31、武庫労山）、足立寿子（27、逆瀬川労山）、山崎勝治（27、甲山労山）、岩佐正敏（26、須磨労山）、西江博司（26、山岳会ホワイトピーク）、峯崎和子（26、武庫労山、）井上幸隆（23、山の会かじか）

この登山隊は個人が登山許可を取得し、有志に呼びかけて組織され兵庫労山が後援をした。３年前のナンダデビィ登山隊の総括が出来ていなかったためである。1980 年 5 月 10 日に先発、18 日に本隊が出国した。23 日からキャラバンを開始し、6 月 1 日全員がＢＣに入った。20 日に小林副隊長と井上義、西江、井上幸の３隊員が登頂に成功した。これは外国人としての初登頂であった。７月４日に帰国した。登山隊は登山の前後にバレーボールを寄贈する等の友好親善活動も行なった。また、隊長と足立隊員は直前に休暇が不承認とされ、参加できなくなった。

＊ 1982 年須磨・神戸中央合同
チュルー・ウエスト登山隊
（ネパールヒマラヤ　6612m）
隊　長：三宅静夫（33）
隊　員：近藤義夫（26、神戸中央労山）、中尾康彦（24）、西川則子（神戸中央労山）、永峯奈美子、畑美恵子（神戸中央労山）

この登山隊は須磨労山の労山加盟 10 周年記念事業として取り組まれた。3 月 21 日に神戸みなと労山のパーティーが八ヶ岳中岳沢で雪崩に遭遇し 11 名が死亡する遭難が起こった。兵庫県連ではこの遭難を受けて山行を自粛し、再開に向けて山行の安全点検を行なっている最中であった。

4 月 9 日に出国し、登山活動を行なったものの天候と隊員の力量不足でチュルー・ウエストは断念した。替わりに同山塊のグサンピーク（6511 m）を 5 月 1 日から 4 日までに全員が登頂することが 出来た。

＊ 1982 年ネパール・兵庫合同
キャリオルン登山隊（ネパールヒマラヤ・ロールワリン山群（6681 m ）初登頂）
総隊長：倉内司郎（41、西宮北口労山）
隊　長：Yogendra Thapa(37)
マネージャー：Babu Ram Pu（n 38）
日本側リーダー:井上義行（34､武庫労山）
隊　員：藤井宗平（30、神戸港山の会）、岩佐正敏（28、須磨労山）、西江博司（28、山岳会ホ　ワイトピーク）、中原万亀男（26、東灘労山）、中尾康彦（24、須磨労山）、矢田久美（31、山岳会ホワイトピーク）、西村牧代（26、山歩渓山岳会）
ネパール側 6 名

この登山はネパール警察登山探検財団から合同登山の申し出を受けて実施された。キャリオルン峰は当時ネパールが解禁しているリストの中で「ネパール隊もしくはネパール人を３人以上含んだ外国隊にのみ許可される」Ａグループに属する数少ない未踏峰であった。

1982 年 9 月 17 日、本隊がネパールのカトマンズに到着した。20 日、キャラバンを開始し、28 日ＢＣに入る。当初予定していた西壁ルートが困難なためルートを北面からぐるりと一周し、東面から登ることにした。10 月 1 日より登山活動を開始し、31 日と 11 月 1 日に渡り全員が登頂を果たすことができた。11 月 11 日と 13 日に全員帰国した。

＊ 1985 年兵庫ケダルナート登山隊
（インドヒマラヤ・ガンゴトリ山群 6968 m）
隊　長：岩佐正敏（31）
隊　員：狩野千之（41）、平尾一幸（32）、馬庭節男（32､伊丹労山）､吉谷隆男（30）、斉藤茂 樹（29、山の会アルプ）

この登山隊は須磨労山を主体として構成された。岩と氷が張り付いたケダルナートの南壁を登るという意欲的な登山隊であっ

た。1985年9月7日に先発が、14日に本隊が出国した。17日からキャラバンを始め、21日ＢＣを建設した。22日から登山活動を開始したが、10月8日雪崩によって斉藤隊員が行方不明となった。事故現場周辺を捜索したが、手掛かりもなく19日捜索を断念し、登山も中止となった。10月26日帰国した。

＊1990年兵庫ガンゴトリⅢ峰登山隊
（インドヒマラヤ・ガンゴトリ山群6577ｍ）

隊　長：三宅静夫（42、山の会アルプ）
副隊長：馬庭節男（37、伊丹労山）
隊　員：西村牧代（34、山歩渓山岳会）、三浦晴行（45、西宮北口労山）、川村隆志（43、アルペン芦山）、河尻重和（37、垂水労山）、宮本正宏（33、明石労山）、西中節子（42、摩耶山友会）、山崎智代（29、甲山労山）

この登山は兵庫労山創立25周年記念行事として取り組まれた。県連9つの会の有志9名で登山隊　が組織された。1990年9月6日先発隊が、12日に本隊が出国した。14日にキャラバンが始まり、18日にＢＣに到着した。20日から登山活動を始め、10月3日に川村、宮本、西村の３隊員とコックのラックスマンが登頂に成功した。帰路ＩＭＦを訪問し、ヒマラヤの自然保護活動の一助としての寄付金を手渡した。10月14日、全員無事に帰国した。

＊1991年神戸中央ムルキラ登山隊
（インドヒマラヤ・セントラルラホール山群6517ｍ）

隊　長：近藤義夫（35）
隊　員：久保　昌（38）、豊富葉子（28）、宮本正宏（36、明石労山）、清郷雅秋（34、明石労山）

この登山隊は神戸中央労山結成10周年行事として取り組まれたもので同会から分離独立した明石労山の仲間も参加した。1991年8月14日に出国した。23日キャラバンを開始し28日にＢＣに着いた。29日から登山活動を開始し、9月11日に宮本隊員とハイポーターのラックスマンが登頂した。なお、前日に頂上直下52ｍで近藤隊長が滑落、両足捻挫の事故があった。そのサポートもあって他の隊員の登頂はならなかった。9月25日に帰国した。

＊1991年神戸メラ・ピーク登山隊
（ネパールヒマラヤ・クーンブヒマール（6654ｍ））

隊　長：玉井進吾郎（49）
隊　員：大塚大三（51）、井口恭光（50）、坂本雄次郎（48）、有元眞理子（36）

この登山隊は旧大蔵省の出先の職場の山の会の有志が登山隊を組織した。同時にこの山にちなんで「メラピークＫＯＢＥ」という会を結成し兵庫労山に加盟した。1991年9月20日に出国し、24日からキャラバンを始めた。29日にＢＣに入り、10月2日に大塚隊員を除く４名が登頂した。帰路ルクラからタンボチェまでトレッキングを行い、18日に帰国した。

＊1994年7月に兵庫労山RC研がアメリカ・ヨセミテでロッククライミング（Zodiac他）を行っている。この後県労山の中でもフリークライミングが広がり、海外でのクライミング活動が行なわれるようになった。

＊1994年神戸トウクチェピーク登山隊
（ネパールヒマラヤ・ダウラギリ山群（6920ｍ））

隊　長：玉井進吾郎（52）
隊　員：湯浅俊治（55、摩耶山友会）、朝日文雄（45、伊丹労山）、有元眞理子（39）

トウクチェ・ピークをバックに

この登山隊はメラピークＫＯＢＥが主体となって組織した。1994 年 9 月 3 日に先発が、8 日に本隊が出国した。なお、本隊は開港したばかりの関西空港発であった。14 日にキャラバンを始め、25 日にＢＣに入った。26 日から登山活動を始めて 10 月 7 日に隊長と朝日、有元の２隊員およびとシェルパ１名が登頂した。隊長は両手指及び足指に凍傷を負った。10 月 24 日に全員帰国した。

＊ＪＷＡＦ横断山脈登山隊９８
（中国四川省・蓮花夕照連山主峰　5704ｍ　初登頂）

隊　長：山岡人志（39、はりま山岳会）
隊　員:近藤義夫（42、岩と雪の会こぶし）、白井良岳（26、神奈川・相模労山）

この登山隊は未知未踏の岩壁を求めオリジナリティーのあるクライミングを行った。1998 年 9 月 12 日出国し、19 日に外国人が初めて入ったというＢＣに入った。30 日と 10 月 6 日の２次に渡って　全員が登頂した。10 月 15 日に帰国した。

＊２００５年、ブルダール
（パキスタンヒマラヤ　5620m）

隊　長：有元眞理子（50）
隊　員：大杖哲司（50）、斉藤留美子（西宮労山）

国内登山でも休暇を取るのが一苦労、ましてや１ヵ月を越える海外登山などもってのほか、と言うご時世である。ところがメラピークＫＯＢＥの２人と西宮労山の会員からなるこの登山隊は二週間でヒマラヤを登ろう！と計画を立てた。

2005 年 6 月 2 日に出国し、パキスタンのラホールからイスラマバードに入る。カラコルムハイウェイを走り、8 日にＢＣに到着した。11 日にハイキャンプからプルダール峰にアタックするべく出発したが、前夜の降雪で登頂を断念した。帰路、キルギットを経て中国国境のクンジュラブ峠まで足を伸ばし、18 日に帰国した。

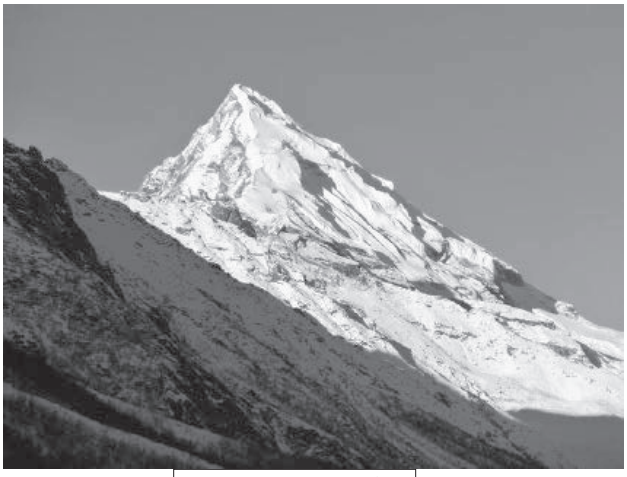
＊２０１１年、無名峰
（ネパールヒマラヤ ６１５９m、６０２２m）

隊　長：大杖哲司（56）
隊　員：伊部美穂（54）、清水玲子（38）、加藤孝子（62）

メラピーク KOBE 創立二十周年記念登山としてネパール西部のムグ地区に登山に出かけた。天候不順で目標の山は逃したが無名峰ふたつに登りひとつは初登だった。帰路は西ネパール横断トレッキングをしたが大雨で橋が流され、道は崩れて苦難の日々となった。それでもチベット国境の峠を訪れるなど充実した旅となった。2011 年 5 月 26 日出国し 8 月 25 日に帰国した。３か月に及ぶ山旅でひと夏をヒマラヤで過ごした。

＊２０１４年、ロレチュリ
（ネパールヒマラヤ　６２４６ｍ）

隊　長：大杖哲司（59、メラピーク KOBE）
隊　員：岩佐正敏（60、須摩労山）、小野田五月（63、須摩労山）、長岡平助（64、春風山岳会）、島田徹（64、神戸労山）



ロレチュリ峰

兵庫労山で会員教育などにかかわってきたメンバーが退職を機に登山隊を結成した。ネパール極西部のフムラ地区にある未踏峰ロレチュリの登頂を目指した。５０００ｍの峠を二つ越えて目標の山のふもとに着きＢＣを設営。川の対岸に渡る飛び石を置く作業などして４８００ｍにハイキャンプを作ってルート工作を５４００ｍまで進めたところでサイクロンの襲来で大

雪となる。雪のなかったＢＣでも１ｍ積もった。これにより上部に設置したロープなど装備類が雪崩に流されたため登頂を断念して帰った。２０１４年９月１４日出国し１１月２日に帰国した。

＊２０１６年、タクプヒマール
（ネパールヒマラヤ　６１３０m､５９２０m）

隊　長：大杖哲司（61、メラピーク KOBE）
隊　員：松本光司（67、明石山の会）、後藤富夫（66、北摂山の会）、中村清孝（65、明石山の会）、河尻重和（63、垂水労山）

タクプヒマールの無名峰（5920 m、右）

極西ネパールのチベット国境地域は聖山カイラスに隣接する山域で、その地域ある山はかつて謎につつまれていた。外国人の入ることがあまりなかったこの地域に兵庫労山の有志で登りに行った。２つの山に登りひとつは初登頂となった。チベット高原をさすらうようなキャラバンで牧畜民のテントではおいしいヨーグルトを味わった。

1995 年の阪神淡路大震災以後は兵庫労山及び加盟各会での海外登山はほとんど取り組まれていない。労働条件の悪化で休暇取得が困難になったり、会員が高齢化して来た影響ではないかと考えられる。一方、全国連盟が主催する高所登山学校や公募登山隊に参加した会員は何人かはいるようである。中でも 1989 年の全国連盟第２回高所登山学校・ハンテングリ峰（7010 m（旧ソ連邦））登山隊に参加した山歩渓山岳会の西村牧代さん(33)は８月６日に登頂に成功した。なお、兵庫労山の会員で 7000 m峰のサミッターは現在でも西村さんだけである。その後 2009 年に全国連盟隊に参加した近藤謙一さん（61、メラピーク KOBE）がマナスル（ネパール、8163 m）に登頂して兵庫労山会員として初めての８０００m峰登頂者となった。

【引用】

メラ・ピーク KOBE 玉井進吾郎氏の 40 周年記念誌執筆文

県連盟内におけるこれまでの遭難事故

吉谷　隆男

兵庫県勤労者山岳連盟の遭難事故は結成以来、２０１７年の４月末時点で、３０件で５０名もの仲間の尊い命が失われています。このほかにも傷害や後遺症を残す事故も少なくありません。

遭難事故を見る限り、年齢、性別を問わず、季節を問わず、初心者ベテランを問わず、高山、岩登り、ハイキングを問わず遭難事故は起きています。またその原因も「転・滑落、雪崩、凍死、水死」等多岐に渡っています。いつでも誰でもどこででも起こりうる事故として受け止め、それぞれの事故から教訓を学びとり語り伝えていく必要があります。詳細はそれぞれの事故報告書を参照していただき、概略を記載します。

１　前穂高北尾根遭難事故（１人）

岩登り技術の訓練とリーダーの養成、加盟山岳会の親睦と交流を目的として、1973年10月５日（夜）～10日の予定で第２回兵庫県連盟合同合宿が取り組まれた。参加者12名。10月５日夜神戸発、６日上高地から涸沢へ、15：30BC、７日前夜来の雨で、予定の屏風岩登攀を中止し停滞。８日前々夜からの雨のため、予定の前穂東壁・四峰正面の登攀を変更して、前穂北尾根を５・６のコルから前穂に向かうことになり、11：00、２パーティーに分かれて出発。11：40、４峰の登りで神戸労山のＮさん（女性23）が約150ｍ涸沢側に転落し全身打撲により即死。転落の瞬間は誰も目撃していないため直接原因は不明だが、浮石によるスリップか、手にした岩が崩れてバランスを崩したと推測された。県連盟結成７年目にして経験した初めての死亡事故であった。

２　武庫川渡渉訓練事故（１人）

芦屋勤労者山岳会が1975年８月に予定していた黒部・上の廊下遡行の渡渉訓練を武庫川において３人で行うことになり、７月20日23：11国鉄道場駅に到着。近くの広場で車中ビバーグ。翌21日朝、合流するはずの１人が来ないので、２人で出発。最初の国鉄鉄橋下から渡渉を開始。道場駅から３つ目の鉄橋を過ぎ、６回目の渡渉地点においてリーダーの後に続いて泳いで深みを渡っていたＦさん（男性24）が力尽きて泳げなくなり、リーダーが助けようとしたがもがき合いながら沈んでいった。死因は急性心不全。

３　奥穂高岳・ロバの耳遭難事故（１人）

1976年３月17日（夜）～22日、県連盟第３期リーダー学校の終了山行として奥穂高から西穂高への縦走が取り組まれた。参加者は６名。17日夜大阪を夜行で出発、涸沢岳西尾根森林限界で幕営。翌19日朝６：10出発、11：30白出のコル、14：00馬の背とロバの耳のコル着。ロバの耳のトラバースにおいて１名がスリップ、引きずられた者と２名がザイルに宙吊りになる。その救出作業が夜に及び、ロバの耳を越えた地点でビバーグとなる。テントの入ったザックはザイルに吊り下げられたままでこの日は回収できず、予備のテントは先行した１名がジャンダルムの基部ですでに幕営していたため、フライシートに着の身着のままのビバーグとなり、翌20日朝西宮労山のＹさん（男性25）が凍死、ほかに４名が凍傷により手足の指を失う。

４　鹿島槍・赤岩尾根遭難事故（１人）

尼崎労山の春山合宿が1977年４月29日～５月６日後立山連峰周辺に取り組まれた。参加者は３隊で合計13名。そのうち赤岩尾根隊８名は５月１日夜大阪を出発、２日大谷原から高千穂平着BC設営。３日BCから鹿島槍往復で冷池山荘着。Ｕさん（男性

27）は布引岳から鹿島槍への途中で体調が悪くなり、アイゼンの一部を紛失。冷池山荘泊、上田さん嘔吐、おかゆを食べる。4日上田さんの体調回復、メンバーのアイゼンを借りる。7：10発～8：50高千穂平BC、雪上技術訓練の後テント撤収、13：30出発したが、14：20縦走隊と無線交信ができたためBCから800ｍ下方に幕営、17：50全員が集結した。5日9：10出発、上田さんは6番目。9：40、遭難レリーフの手前で上田さんが西俣側にスリップ、一度はピッケルで停止するが、ピッケルを支点に立ち上がる時に再び左足がスリップ、標高差150ｍを滑落し頭部挫傷、口と鼻から出血多量、10：15呼吸・脈拍停止。死因は脳底骨折。

5　八ヶ岳遭難事故（１１人）

神戸みなと労山は1981年度初級冬山教室の終了山行として雪上技術・雪上生活を実践するため、1982年3月19日（夜）～22日の日程で八ヶ岳山行を取り組んだ。参加者は13名。19日大阪を夜行で出発。翌日7：50美濃戸口発、雪が断続的に降る中を11：10赤岳鉱泉着、BC設営。13：00～15：00中山尾根北側斜面にて雪上訓練。21日4時起床、水気を含んだ重たい雪が降っていたため縦走を中止する。しばらく天気待ちをしていたが、みぞれが雪に変わってきたため、阿弥陀岳往復に計画変更、8：00出発、行者小屋を経て中岳沢に入る。9：35頃阿弥陀岳と中岳のコル直下150ｍ付近を登行中、中岳側・阿弥陀岳側の両側斜面から雪崩が発生、神戸みなと労山パーティーを含む16名がまきこまれる。4名は救出されるが、みなと労山のＡさん（男性62）、Ｈさん（男性42）、Ｙさん（男性32）、Ｋさん（女性31）、Ｇさん（女性28）、Ｋさん（男性28）、Ｒさん（女性27）、Ｓさん（女性25）、Ｔさん（女性24）、Ｔさん（女性24）、Ｓさん（男性21）さんの11名と他1名は沢筋を約200ｍ流され50cmから4ｍの深さに埋没し、窒息死する。

6　五竜岳遠見尾根遭難事故（１人）

西宮労山創立20周年記念として北アルプスの全ルートを走破する計画が決定され、その一環として1983年8月12日（夜）～17日の後立山幕営縦走が取り組まれた。参加者4名。12日夜21：40神戸労山のバスに同乗して西宮北口を出発。13日朝松本で列車に乗り換え白馬駅～猿倉7：30出発～12：10白馬テント場着。テント設営後白馬岳往復。１４日テント場発4：00～天狗山荘着6：25～唐松岳着10：10～五竜山荘テント場着13：05。テント設営後昼寝。19：00就寝。夜半雨。15日4：30起床外は濃いガス、台風6号の接近で天候の回復は望めないので遠見尾根から下山することになり、6：45出発。7：55大遠見を下った所のザレ場で2番目を歩いていたＴさん（男性45）がバランスを崩して滑落、約100ｍ転落。救出作業の途中、14:30全身打撲により死亡。

7　南アルプス・赤石沢遭難事故（１人）

西宮北口労山例会として、1984年８月10日夜～14日の日程で南アルプス大井川源流の赤石沢遡行が計画された。メンバーはサブリーダーのＫさん（男性42）を含めて３名。10日夜大阪発、11日9：10椹島発、牛首峠～イワナ渕渡渉～二段ナメ滝～ニエ渕と遡行し14：50～15：10の休憩、15：30頃ニエ渕上部ネジレの滝左岸をラストで登攀中滑落。確保していたザイルで引き上げようとしたが引き上げられず、下流へ流して救出。心臓マッサージと人工呼吸を試みるが蘇生せず死亡。死因は心臓破裂。

8　東六甲縦走路転倒事故（１人）

甲山労山は1984年10月に一般募集での

八ヶ岳登山バスを計画していたが、そのトレーニング山行として9月30日、東六甲縦走コースから六甲山への山行が取り組まれた。8：45阪急宝塚駅発、9：35塩尾寺着9：45発、10：45大谷乗越上部着11：00発、船坂峠から15分ほど過ぎたところで、突然会員のMさん（男性70）が倒れる。右後頭部に切り傷。メンバーの一人（医師）が脈拍､瞳孔を診るが反応なし。すぐに人工呼吸、心臓マッサージを試みるが、蘇生せず。死因は急性心不全。参加者18名中、Mさんは13番目を歩いていた。森井さんは7月に狭心症でドクターストップがかかっていたが、9月に解除され、トレーニングでの体調がよければ登山バスに参加するつもりであった。

9　鹿島槍遭難事故（４人）

宝塚山の会は1984年12月29日夜～1985年1月7日の日程で、後立山・爺ヶ岳～白馬岳縦走を計画した。参加者はYさん（男性29)、Aさん（女性31)、Tさん（男性31)、Oさん（男性31）の4名。12月29日22：29大阪発、30日8：00扇沢発、14：45爺ヶ岳南尾根2,200m地点で幕営。31日8：00出発、9：35爺ヶ岳、11：05冷池山荘、13:40南峰下部到着、幕営。1月1日8:15出発、9：10南峰。キレットへのトラバースの途中に表層雪崩に巻き込まれたと推測され、全員東谷側に転落。10次に及ぶ捜索活動の結果、8～9月になってから大滝で全遺体を発見、収容した。

10　インド・ケダルナート峰遭難事故（１人）

1985年、須磨勤労者山岳会が中心となって「1985兵庫ケダルナート登山隊」が組織された。9月14日出国、10月16日登頂、27日帰国予定で参加者は須磨労山4名、伊丹労山1名、山の会アルプ1名の合計6名。9月7日先発隊が出発、インドヒマラヤ・ケダルナート峰(6,968m)登山が開始された。9月21日BC(4,150m) 建設、26日から登山活動に入る。10月8日、旧C１直下の岩壁のルンゼを登攀中雪崩に襲われ一人はフィックスロープにユマールで止まったが、Sさん（男性29）は雪崩に巻き込まれ行方不明となる。以後18日まで捜索活動を続けるが、降雪・雪崩による二重遭難の危険性が高まってきたため捜索を断念した。斉藤さんは今もケダルナート氷河に眠っている。

11　西穂高岳独標遭難事故（１人）

1986年12月29日から1987年1月1日にかけて神戸勤労者山岳会のKさん（男性32）は元職場の同僚と2人で西穂高岳登山を計画した。12月29日車で神戸を出発、30日未明新穂高温泉着。ロープウエイを利用してこの日は西穂高岳山荘テント場に幕営。翌31日独標を経由して西穂高岳に向かったところまでは確認されたが、以後行方不明となった。1月5日からの第1次捜索活動では発見できず、結局第5次捜索活動中の5月4日になって独標手前の通称お花畑で雪の中から発見された。この山行は日頃からあまり会活動に参加していない会員の無届による個人山行であった。

12　扇ノ山遭難事故（１人）

1994年8月13日から15日にかけて明石勤労者山岳会のNさん（男性29）は扇ノ山へ単独山行を取り組んだ。12日夜行で大阪を出発、翌13日浜坂からバスで温泉町田中へ、霧滝渓谷に入る。霧ヶ滝を見た後旧トロッコ道まで登りツエルトでビバーク。翌14日旧トロッコ道を西へ、扇ノ山を目指すが、トンネルが土石で埋まっていたため高巻きをして再び6～7m下の旧トロッコ道に降りようとして墜落。肋骨と右足を骨折、沢の方に移動しようとして滑落、岩に頭をぶつけて死亡したものと推測される。死因は頭蓋底骨折による即死。この山行は会へ計画書は出されていたが、個人山行であったことや野口さんが入会して2ヶ月と日も浅かったため、18日になってお母さんから捜索願が出されてからの捜索活動になっ

た。単独山行のため実際の行動や事故の様子は推測するしかなかったため、捜索の範囲を確定するのに時間がかかり、19 日から捜索活動を開始したものの発見は 27 日になってしまった。この事故を契機に翌年県連に救助隊が結成された。

13　氷ノ山遭難事故（５人）

淡路勤労者山岳会のＵさん（男性 49)、Ｉさん（男性 53)、Ｋさん（男性 61）さんの３名と南但山歩会のＭさん（男性 42)、Ｋさん（男性 54）さんの２名は 1997 年１月 25 日からの氷ノ山登山を計画した。淡路労山の３名は流れ尾から氷ノ山山頂泊、翌 26 日東尾根から下山、南但山歩会の２名は 25 日中の日帰り予定であった。25 日朝 8：00 福定で合流、9：00 流れ尾より登山開始、12：40 山頂避難小屋着。13：40 淡路労山の２名は下山を開始するが、猛吹雪のため流れ尾への取り付きルートを発見できず山頂小屋へ引き返す。翌 26 日吹雪の中を全員で流れ尾を下山中、ルートを間違えオオダニ方向に迷い込み雪崩に巻き込まれ、4 名は雪崩に埋まってしまうが、1 名は脱出、スキー場の手前で力尽きたものと推測される。1 月 27 日から捜索を開始したが、全員が行方不明となったため遭難場所がなかなか確定できず、地元救助隊だけでなく、近畿ブロックの仲間も含めた大量の支援を受け、4 月 5 日から 13 日までの間に全員の遺体が発見・収容された。この事故で初めて県連救助隊も出動した。

14　金剛山登山中の急病死（１人）

1997 年 10 月 10 日西宮明昭山の会はＢランクの例会として「金剛山・久留野峠～紀見峠間縦走」を取り組んだ。当日の参加者は 28 名、2 班に分けて登山口を 10：00 に出発。10：40 久留野峠着。リーダーのＭさん（男性 65）の調子が悪く、ここまでに 2 回の休憩があった。11：15 頃高谷山の少し手前で先頭を歩いていたＭさんが又立ち止まり、サブリーダーを務めていた奥さんに疲れを訴えた。これまで立ち休憩を含めて 4 回も休憩していた。症状が悪くなり、激しい発作を繰り返し咳き込んできたので、無線機と携帯で救急車の手配を依頼した。例会は中止し、メンバーの看護婦さん二人が気道確保と心臓マッサージを行った。13：10 ようやく到着した救急隊員により蘇生作業が繰り返され、担架で移送されることになったが、心拍は停止していた。14：20 病院に到着。呼吸器を付け、心臓マッサージが施されたが回復しなかった。死因は心筋梗塞。

15　五竜岳ガス中毒事故（１人）

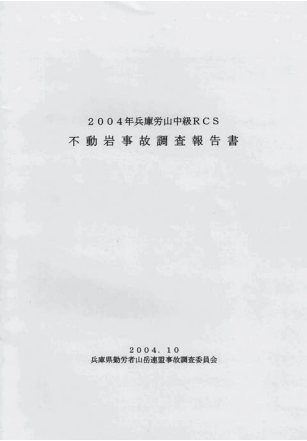
2002 年 3 月 20 日から 24 日まで神戸カタツムリの会のＥさん（男性 53）さんは職場の山仲間達合計 5 名で遠見尾根から五竜岳登山を取り組んだ。20 日夜行列車で大阪を出発、21 日 6：00 神城発、テレキャビン、リフトを乗り継いで 9：10 地蔵の頭着、12：30 大遠見着、強風のため雪面を 1 m掘り下げた穴の中にテント設営、風上にはさらに雪のブロックを約 70 ｃｍ積む。22 日 5：30 起床、8：20 出発、10：30 白岳山頂、10：40 五竜小屋に着くが、11：30 悪天のため引き返す。13：30 テント場着、23 日朝 8 時か 9 時頃一人が目覚めると頭がふらふらして立っておれない状態であり、Ｅさんら２名は死亡していた。死因は一酸化炭素中毒。この山行は職場の仲間との個人山行であり、会への計画書の提出はなかった。

16　愛知川沢登り遭難事故（１人）

西神戸山の会は 2002 年 7 月 13 日愛知川に日帰り沢登り例会を取り組んだ。参加者はＨさん（男性 52）他 4 名。7：30 新長田を自家用車で出発、9：40 愛知川林道駐車場着、沢登り装備を装着し 10：10 取水堰から入渓。3 日前の台風 6 号の影響で水量が多かったがので、急流部は適宜巻きながら遡行。天狗滝には予定より 1 時間遅れの

14：40 着。15：00 沢通しに下山開始、Hさんは終始積極的に沢芯を探して泳ぎ下りを楽しんでいたが、16：40 ツメカリ谷出会いを過ぎて落差 150 ｃｍほどの樋状落ち込みを滑り降りようとして途中の流木に引っかかり、流れが急なためすぐには救出できず溺死。搬出は翌 14 日になった。

17　不動岩転落事故（１人）

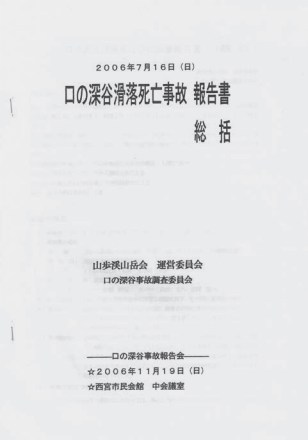

２００４年兵庫労山中級ＲＣＳ
不動岩事故調査報告書
２００４．１０
兵庫県勤労者山岳連盟事故調査委員会

兵庫県勤労者山岳連盟は 2004 年 5 月 12 日から 9 月 17 ～ 20 日の終了山行間で座学 7 回実技 10 回の「2004 年中級ロッククライミングスクール」を取り組んだ。5 月 23 日その第 1 回実技が裏六甲不動岩で実施された。受講生であったメラピーク KOBE のＹさん（女性 53）は東壁すなかぶりルートを登攀後の 12：55 頃、同ルートを懸垂下降時にザイルが解け、支点位置より約 30 メートル転落。14：12 ヘリにて病院へ搬送されたが、翌 25 日 10：12 全身打撲により死亡。事前に講師団が学んでいたザイル結束の末端処理について、その方法を間違えると解けてしまうという問題点が明らかになった。

18　富士山遭難事故（１人）

2005 年夏には全国連盟のガッシャブルムⅠ峰遠征が計画されていた。そのメンバーであった西宮勤労者山岳会会員Ｔさん（男性）は 2005 年 4 月 24 日他のメンバー有志 3 名と共に高所順応訓練を兼ねて富士山登山を取り組んだ。8：00 馬返し 1 合目出発。10：00 ５合目佐藤小屋着、12：45 ７合目着小屋横にテント設営。24 日 4：00 起床 5：45 出発 9：45 富士山頂着。それまで同じ行動をとっていた西宮労山パーティーも遅れて到着。10：00 下山開始、確保の練習のため土屋さんはメンバーの一人に確保されながら下降し、ピックで次の支点づくりをしている時にバランスを崩し滑落、すぐ頭が下になりハーネスが脱げ頭を下にして 200 ～ 300 ｍ滑落し、頭を強く打つなどして死亡。又救助に向かう途中で西宮労山の 1 名も滑落したが 30 ｍほど下で夏山登山道の鉄柵とロープに引っかかり停止。股関節の脱臼と打撲で動けなくなりヘリコプターで救出された。

19　比良・ロノ深谷遭難事故（１人）


２００６年７月１６日（日）
ロの深谷滑落死亡事故 報告書
総 括
山歩撲山岳会　運営委員会
ロの深谷事故調査委員会
――ロの深谷事故報告会――
☆２００６年１１月１９日（日）
☆西宮市民会館　中会議室

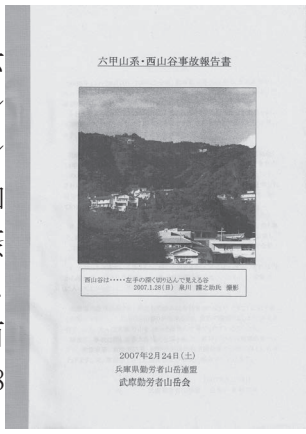
2006 年 7 月 16 日山歩渓山岳会は夏山・北鎌尾根のトレーニングも兼ねて比良・ロノ深谷の沢登り山行を取り組んだ。参加者はＭさん（男性 65）他 3 名。7：30 西宮の事務所を自家用車で出発、9：15 葛川坊村に到着。10：00 頃林道出合いから入渓、牧さんはハーネスもヘルメットも着けていなかった。12：52 頃流木に阻まれた斜瀑の右岸を高巻き中に滑落し、頭蓋骨損傷、頭部陥没により死亡。当初事故場所が特定できず、また折からの梅雨の長雨で搬出活動は捗らず 22 日になって搬出された。

20　前穂高岳遭難事故（１人）

2006 年 10 月垂水勤労者山岳会は前穂高山行を取り組んだ。コースは北尾根～前穂～岳沢～上高地にいたるもので、メンバーはＹさん（女性 50）他 2 名。10 月 6 日 9：00 大阪駅を出発、松本から電車、バスを乗り継いで上高地に入る。16：45 徳沢着、テント設営。7 日 5：00 徳沢発新村橋から奥又白谷を経てパノラマコースに入る。7：00 途中から遅れ気味だった 1 名はＹさん達の足に合わせて歩くことができないことから、屏風のコルから涸沢へ抜けて上高地へ

下ることになり別れる。10：40、5・6のコル着。幕営予定を変更し先へ進む。14：45前穂着、雪がちらつき始めた。岳沢へ向かうが、16：00頃ルートの間違いに気づき、そこでビバーク。ポールを落したためテントが張れず、テントを被ってシュラフに入って寝る。8日積雪は10㎝位だったが前日よりも天気は回復。8：00前穂へ上り返し、再び岳沢へ下り始めたが、又ルートを間違え崖に出てしまう。ふたたび上り返すが15：30頃Ｙさんが「目が見えない」と訴えたので再びシュラフに入りテントを被ってビバーク。翌9日3:30頃Ｙさんは冷たくなっていた。死因は凍死。

21　六甲・西山谷転落事故（１人）


六甲山系・西山谷事故報告書

西山谷は・・・・・左手の細く切り込んで見える谷
2007.1.28(日)　泉川　霧之助氏　撮影

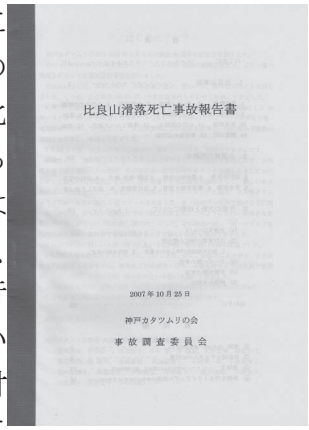
2007年2月24日(土)
兵庫県勤労者山岳連盟
武庫勤労者山岳会

2006年11月26日武庫勤労者山岳会は六甲山西山谷にハイキング部主催企画ハイキングを取り組んだ。参加者は8名。8：40JR摂津本山駅に集合、バスで渦森台へ、9：30西山谷に入る。10：38西山大滝右岸の高巻きにかかる。4番目に登り始めたＩさん（女性64）さんは滝の上部直下で転落、下部（水深30ｃｍ）まで約15ｍ落下し、頭部損傷、意識不明となる。すぐに救助要請、12：20ヘリによる吊り上げで病院へ収容されたが、13：09死亡。死因は脳挫傷。

22　氷ノ山不動沢遭難事故（１人）

2007年3月4日、但馬労山のＮさん（女性54）は、単独で氷ノ山に出かけた。登山口ポストに入れてあった計画書には14:40に入山し、18:00に下山予定であった。氷ノ山越に17:09着、その帰りに沢に迷い込み、本人から京都在住の娘さんへ18:00～19:00の間に5回にわたって「滝のそばにいる、大変寒い、助けて」と留守録メッセージが入っていた。5日3:00前に京都府警から養父警察へ捜索依頼があり、8:00頃から捜索が開始された。労山連盟へ電話が入ったのは5日早朝となるが、23:00頃には県連救助隊10名が車で神戸の事務所を出発した。6日10:20頃県連救助隊のメンバーが、不動滝上部の滝壺に浮いていたＮさんを発見、搬出したがすでに死亡していた。所属会にも連絡なしの単独山行であった。

23　比良山遭難事故（１人）


比良山滑落死亡事故報告書

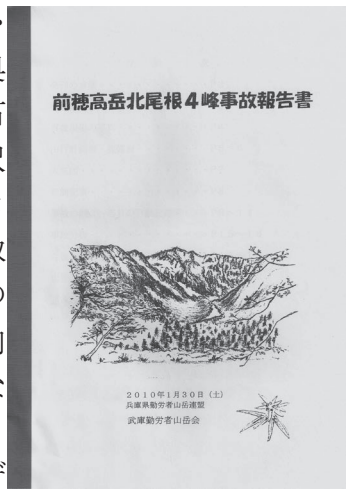
2007年10月25日
神戸カタツムリの会
事故調査委員会

2007年7月25日に神戸カタツムリの会のＹさん（女性71）が比良山で滑落、亡くなられました。メンバーは（Ｙさん、女性（63）、女性（61）の自主山行（会に計画書が出ていなかった）7/24坊村から入山し、牛コバに向かう、口の深谷と奥の深谷の間の橋のところでテント泊。7/25　6：30出発。二つの谷の間にある尾根で岩を巻く感じのところで、２番目を歩いていたＹさんが滑落（30m）する。メンバーがＹさんを救助し、装備等を回収している時に岩場を登ろうとして、再び落ちる。頭から出血していた。もう一人のメンバーは、救助要請に行っていた。消防等が現地に到着した時、既に死亡していることを確認した。※ 登ったルートは国土地理地形図では登山道の表記はない。（一般道ではない？）Ｙさんは膝を傷め、まだまだ山へ行きたいと手術をし、リハビリ中であった。他のメンバーはこのコースについては知らなかった。

24　前穂高岳四峰遭難事故（１人）

2009年8月19日～23日の予定で武庫労山のＫさん（男性70）他１名で前穂高岳四峰正面（北条・新村ルート）を登る計画で19日上高地から涸沢に入山。20日3:30涸

沢出発　5:20　5・6のコル　8:30奥又の沢　9:00落石を避けるためにC沢からT１へのアプローチ（２級程度）取り付く。音がしたのでメンバーが振り向くとテラスで動けない状態。懸垂で降り救助する。互いにザックを担ぎ懸垂で降りる。11:30下山しようと雪渓に渡ったKさんが滑落し、シュルンドに落ちる。メンバーも覗き込んだ時にシュルンドに落ちる。



一人では救助できないと判断し、メンバーが徳沢まで救助要請に行く。夕方救助隊によりヘリで救助された時は、死亡していた。詳細内容については、現段階では、判明していません。

25　奥穂高岳遭難事故（３人）

2009年12月30日に涸沢岳西尾根(2400m)付近から奥穂高岳を目指した東灘労山のZさん（男性52)、Hさん（男性59)、Iさん（女性58）の3名は、奥穂高岳頂上直下付近を最後に消息を絶ち、行方不明になりました。1月4日にHさんが他パティーの証言により鎌田富士のプラトー付近の稜線で発見され県警のヘリにて収容される。6月30日に蒲田富士よりチビ谷側150m付近の斜面にて県警ヘリの捜索によりZさんが発見され収容される。9月4日に中部台地を捜索していた兵庫のメンバーによりIさんが発見され、11日に県警のヘリにて収容される。まだ、遭難事故の詳細については判明していません。

26　台高・蓮川 ヌタハラ谷遭難事故（１人）

2010年8月22日に神戸労山のMさん（男性50）さんと他１名が、複数所属していた山岳会主催の沢登り交流会に参加し、夫婦滝（2段100m）の下部滝20mを高巻き中に握っていた木が折れ約２５m転落し脳挫傷にて死亡される。

27 武庫川河川敷廃線後ハイキング遭難事故（１人）

2011年11月4日に西宮明昭山の会のAさん（女性66）が、個人山行にて単独でハイキングに行き、武田尾から700m宝塚側に行った河川敷から川に転落しているのを他のハイカーが発見し、死亡が確認される。単独山行のため、事故に至ることは、わかっていない。

28 裏六甲・不動岩遭難事故（１人）

2012年1月19日にBERG松涛会のAさん（男性64）が、他会のBさんと不動岩にクライミングに行き、東稜「ウリウリ」ルートにトップロープをセットするために一人で終了点から懸垂下降をしながらクイックドローをロープにセットしながら下降中に片側のロープが流れ、12mほど墜落する。ヘリにて病院に収容されるが、左頭部の脳挫傷、左側肋骨がすべて折れ、死亡される。

29 遠見尾根山スキー遭難事故（１人）

2016年1月16日から18日にかけて白馬・小谷周辺山スキーに神戸山スキークラブのYさん（男性66）他２人が大学山岳部OB会の山行として自家用車で出かけて下山日になっても帰宅しなったため警察に通報する。計画書により捜索するも発見に至らず、計画書の予備のルートに記載されていた遠見尾根のスキー場にて車が発見され、遠見尾根の村尾根ルートを捜索するも発見に至らず雪崩による２次遭難を考慮し初動捜索を中止する。その後も定期的に大学山岳部が中心に捜索され６月に遺留品とメンバーの１人が発見される。翌日にYさんと他１人が発見される。

30 台高山脈　池木屋山遭難事故（１人）

2016年８月１１日から１２日にかけて台高山脈迷岳と池木屋山へ単独で行くと家族に伝え山行された山歩渓山岳会のＴさん（男性65）が８月１２日になっても帰宅しないと家族が警察に通報され１３日まで警察が捜索されが発見されず、１３日に他会に所属されている家族の親族の方から所属労山へ連絡が有り、その会を通じて山歩渓山岳会へ遭難の連絡が入る。山歩渓山岳会の仲間が捜索に加わり１４日に池木屋山の猫滝の滝壺にて倒れている本人を発見され死亡が確認される。無届けの単独山行なので詳細不明。

31 八ヶ岳遭難事故（１人）

2016年10月26日朝に会員より会長へ西神戸山の会のＫさん（男性63）の遭難記事が新聞に出ていたと連絡が入り家族に事実確認の電話を入れ１０月１７日から２０日下山の予定で八ヶ岳へ出かけたが帰らないので２３日に警察へ通報する。２４日から２６日にかけて警察による捜索するも発見に至らず捜索が打ち切られ行方不明となる。無届けの単独山行なので詳細不明。

自然保護活動

村上悦朗

兵庫の山（旧名六甲山）からゴミを一掃する運動

兵庫労山は１９７８年（昭和３９）に「六甲山からゴミを一掃しよう」とアピールし、統一行動で取り組むことを決議し、毎月１回取り組むようになった。〈現在は兵庫の山から〜〉２０１６年（平成２８）までの３８年間の活動で、清掃に参加した人は累計で述べ１６５,０００人、収集したゴミの量は実に３７万５千トン余りに達している。

このたゆまない活動が１９９８年（平成10）10月に兵庫県知事賞「くすのき賞」の授賞に繋がり、２００４年（平成１６）７月には環境大臣賞を受賞することになった。そして２０１６年神戸市より３７年間にわたりクリーンハイキングを通じて六甲山の美化活動に取り組むと同時に、育樹活動に取り組んでおり六甲山の環境保護に多大な貢献をしている、との理由で神戸市環境功労賞を授賞することになった。

私達はこの活動が多くの登山者の意識を変えさせ、現在では山のゴミを持帰るのが「登山者のマナー」として定着し、登山道からはゴミはなくなってきた。現在のゴミ問題の課題は「車からのポイ捨て」や「不法投棄」のみになっている。登山者だけでなく一般市民や公園、市街地の関係者、自然保護団体、自治体等と協力・共同の関係をさらに進め、広範な活動を模索しながら運動を続けている。

六甲山系での植樹活動（労山の森づくり）

１９９５年（平成7）１月に発生した阪神淡路大耐震災により山腹崩壊が発生したことを受け、国・県は土砂災害の防止、無秩序な市街地の拡大防止をはかり安全に自然と親しめる場の提供を目に見える形で行うようになった。その具体的対策として、神戸市垂水区から宝塚市に至る１,６００ｈａの区域を対象に六甲山グリーンベルト事業を展開している。又、山腹整備と共に用地取得した森林において、災害に強い「森づくり」を進めている。兵庫労山では１０年前の労山４０周年に記念植樹をしたいということで、

この「森づくり」に参画することになった。

２００６年（平成１８）３月に第１回目の植樹を初めてから捕植を含めて７回の植樹を実施している。又、その植樹を育てるために毎年２～３回、労山会員と地元の有志が参加して下草刈を実施する等、定期的にメンテ作業を実施している。２０１６年（平成２８）10月には10周年を迎えたので記念行事を行った。又同年、この住吉谷に「小水力発電を実現する会」が労山の森の中で活動を始めたので協力している。今後とも、地元住民が主力になるよう仕向けながら、この活動を継続し多くのハイカーと市民が集う「労山の森づくり」の場として発展させてゆきたい。

武庫川渓谷廃線跡ハイキング道の一般開放

渓谷美を楽しみながら枕木やトンネル・鉄橋が残る道を歩ける、武庫川渓谷廃線跡ハイキング道が２０１６年（平成２８）１１月１５日にやっと一般開放された。この日はウイークデイだったが紅葉の最盛期でもあり、待ちに待った人達で廃線跡は人、人、人の渦となった。

廃線跡は生瀬（西宮市）～武田尾間（宝塚市）の武庫川沿いの４．７キロで、そこでJR西日本は２０００年（平成１２）に宝塚市と西宮市の２市に上流、下流に分けて廃線跡遊歩道の委託管理を依頼した。上流の１．５キロは宝塚市が借り切り、２０００年（平成１２）１２月より日常管理を引き受けている。下流の３．２キロについて西宮市は施設の管理に費用が掛かりすぎるとの理由で引き受けず、交渉が長期化していた。

私達はその状況を知り、何とか打開できないものかと西宮市の前市長に会談を申し入れた。関係課長が５人ほど出席してくれたが、はっきり言って彼らは廃線跡周辺に関して殆ど知識がなく話が通じず３０分ほどで散会となった。

私達はこれでは何時までも話は進まない。JR西日本および、西宮市に対し考えるための知識を持ってもらう必要があると考えた。そこで効果のある順に　①年間の訪問者数の調査や、②トンネルをはじめとする福知山線の歴史の調査、（１００頁を越すガイドブックに仕上がっている）③ハイキング道全体の要安全対策箇所のリストアップ、④ハイキング案内マップの作成等を行い両者に提出した。

特に訪問者数調査で私達が出した、年間６４，０００人という数値は各方面から注目を集め、朝日新聞、読売新聞から問い合わせが来ている。

私達はこれまでの「署名一本」「懇願一本」のやり方を見直し、「相手が知りたい資料」を作り提供するという戦略を選択したことがJR西日本、西宮市両者の話し合いのモチベーションを高め、早期解決への道を開いたものと理解している。上記の経過で歴史に残る改革につながったと考えている。

最も大きなことは、この一般開放されたことで、今まで渓谷に入れなかった西宮市をはじめ近郊の小、中学生が学校の授業としてこの素晴らしい渓谷に入り、自然観察が出来るようになったことである。

一般開放以後は訪問者数は急激な増加を示すものと推測され、今回の決定によりこの渓谷が結果として西宮市の大きな観光資源となり発展してゆくことは間違ない。駅からの道標、男女各２個のトイレ、安全対策として鉄板だけを無造作に置かれた名塩川等２ケ所の橋の改造、土砂崩れ対策、トンネル床面の平準化、第２鉄橋の中央通路化、数ケ所のベン

中央を通るようになった第２鉄橋

チを配置した休憩所の設置等全体的には見ばえ良く出来上がっていた。

安全面で大いに気になることは「照明の無いトンネルにしておきながら、事故が起きれば全て自己責任である」と言い切っているところである。西宮市という自治体が日常管理を行うのだから、これでは通らないと思もう。一刻も早く訪問者がライトを必ず持参するよう義務づける策を講じて頂きたい。（説明図の上部に書いているものは字が小さくて役に立たない）　　もう一つは、トイレの恒久施設化である。現在は道路上に仮設してあるが出来るだけ早い段階で恒久施設にすることを要望する。

武庫川円卓会議の解散

（武庫川を愛する会、２１世紀の武庫川を考える会、兵庫県勤労者山岳連盟で結成した運動体）

私達は２００２年（平成１３）に武庫川円卓会議を結成して以来、１５年の間、武庫川流域のことを親身になって考え、より良き環境に変革して行くべく活動してきた。その結果、「武庫川ダム建設問題を建設中止」に追い込み、近畿地方のハイカーが等しく待ち望んでいた「武庫川渓谷廃線跡ハイキング道を一般開放させる」という２つの大きな実績を残すことが出来た。他には地質学の髙本先生による広島水害に関する講演会、兵庫県阪神南センターによる武庫川改修工事の出前講座を２回開催する等地域の皆さんに対しても関心の高い問題に対してサービスを行ってきた。

一方、兵庫労山が１９９９年（平成１１）から１８年続けてきた２５０人規模の武庫川渓谷清掃作業も２０１６年で終了することにした。

この大きな実績を誇りに感じながら、２０１７年（平成１７）２月２５日をもって武庫川円卓会議という運動体の活動を終了する。

今後の活動については、「２１世紀の武庫川を考える会」と「兵庫県勤労者山岳連盟」とで協議し、「武庫川渓谷ハイキング道を育てる連絡会」を結成し、ハイキング道に関する問題に対応して行く。

県連盟特例組織

生涯学習塾「めばえ」

村上悦朗

生涯学習塾「めばえ」は２００８年（平成２０）７月、山岳以外の環境問題も勉強したいという意図で、村上悦朗氏を中心に兵庫労山の会員８名で設立した。以後一般からも入会者があり、最大７１人（２０１３年）にまで成長した。

【活動内容】

１．社会貢献活動・・・・社会に向けて行動する支援活動、講演会等を行う。

２．月例・例会活動・・・環境問題、社会変遷等で勉強になる項目を選び見学する。

めばえ最後の活動「成ケ島清掃」

３．例会活動　９１回／８年、参加者　２，４１４人／８年

西日本を中心に約８年間にわたり環境改善活動と社会探索活動を中心に行動し、岡山県の西粟倉村を支援する活動などを通じて兵庫県や神戸市にも「健全な環境団体」として名前が知られるようになった。

【具体的活動内容】

西粟倉村シンポジューム in 神戸、神戸市医療産業都市、山陰ジオパーク、柿田川と信玄堤、東北訪問・慰問と畠山重篤氏自宅訪問、伊賀上野遊水地見学、四国カルスト台地見学、大阪中央卸売市場、沼島探索、直島廃棄物処理場、鞆の浦環境問題学習、淡河疏水見学、パナソニック・リサイクル工場、隠岐の島散策、備中高松城見学、家島群島散策、能登輪島・朝市見学、大阪造幣局見学等々。

しかし、残念ながら「めばえ」として労山からの後継者を育てることが出来ず、２０１６年４月１５日の「成ケ島清掃」を最後に会活動を終了した。

障がい者ハイキング

中井　護

兵庫労山では40年以上にわたり、障がいを持つ人々と一緒に楽しみながら登山・ハイキングを行ってきました。最初は１９７６年頃に大台ケ原への山行をおこない、以後不定期な形で交流山行をおこなってきました。

１９８１年からは「兵庫視覚障害者の生活と権利を守る会」と交流山行を続け、その中で2003年６月に「ハイキングクラブカメ２００３」（以下「HC カメ 03」）が誕生しました。

視力障がい者の交流登山は３６年におよび、サポートする多くの労山会員も６０歳を超えています。ながい取り組みが続けられるのも２３００人の兵庫労山のバックアップがあってのものです。

日本勤労者山岳連盟に加盟する山岳会で唯一「HC カメ 03」だけが、障がい者だけで構成される山岳会です。

そのＨＣカメ０３も平均年齢が高くなってきました。

今後会を維持していくには若い方の入会を待たなければなりません。

神戸市の視覚障害者福祉協会の中に入り数名いる若い人の入会を進めていこうと考えているところです。

引続き「HC カメ 03」を中心に据えた活動を進めてゆきます。

サポーターからの一言

視覚障がい者と健常者が助け合って、山と自然と人の輪と和を楽しむ会として発足をし、14年を経て「HC カメ０３」もサポートする側も高齢になってきました。

各会の皆さん「HC カメ０３」の目となり力となっていただきたく、お願いいたします。

大野光清（神戸カタツムリの会）

女性委員会

加納公子

1966年に兵庫県連が発足し、20代の若者を中心とした積極的な会運営・登山活動の取り組みが開始しました。しかし女性会員の多くは入会して3～4年経過すると、結婚や結婚適齢期等の理由で退会していき、女性リーダーが育たない、育ってもすぐ退会してしまい、女性リーダーの育成が課題となってきました。

1971年の第6回総会で、婦人部が設置され、「女性が山へ登り続けるために」というテーマで集会・学習会を持ちました。女性自身の精神の自立、経済的自立、これは女性会員のみでなく男性会員の意識の改革や協力も必要であると学ぶと同時に、女性会員の連帯も深めることになり、県連婦人部を中心に、研修会、学習会、登山技術の訓練と女性自身の自発的な活動に拡がっていきました。

2003年県連女性交流山行羽黒

全国的にも女性会員を中心としたより広い組織的な取り組みと運動が必要との議論が拡がっていき、1976年に、全国連盟の「第1回全国女性会員のつどい」開催を、兵庫県連主催で行われました。全国から417名の会員が集まり、山登りを通じてより良く生きていきたいという共通の熱い思いは感動的なものとなって広がり、その後全国各地で婦人部が創られていきました。

1984年　婦人部は、女性委員会と名称を変更しました。

女性委員会独自での講演会を、1975年から2005年までおおむね2年ごとに取り組み、伊藤康子･柴田悦子･山本茂美･岩村昇･早船ちよ･高山智津子・田部井淳子・寿岳章子・坂倉登喜子・渡辺一技・小倉のぶ子・大神田伊曽美・谷口凱夫・山野井妙子・渡辺玉枝さん達に来ていただき、山との出会いや歩みを聞くことで、会員自身が登山の姿勢を考え直す機会となりました。又、学習会や女性だけの雪山や無雪期の山行を取り組み、近畿や西日本の仲間との交流も行ってきました。

1982年から子育てを終えた女性を対象に、昼間「主婦のためのハイキング講座」を阪神と神戸で開催し、1995年に、名称を変え夜に「女性ためのハイキング講座」を取り組んできました。

女性の会員数も50パーセントを超え、女性リーダーが増え、会運営にも多くの女性が関わり、女性だけの会も3会誕生しました。女性の登山も、健康志向として欠かせないものとして奨励されるようになり、子育てを終え、束縛も少なくなり山を楽しむ中高年齢層が増えてきました。

40周年からの女性委員会の取り組み

2000年前後、山岳事故で中高年の女性の山岳事故が増え、万が一事故が起きた時、私たちは何をすべきかを考え、近畿ブロックの女性委員会で　搬出方法「女性でも出来るセルフレスキュー」を学び、搬出前に傷の手当をどうすれば良いのかを日赤で講習を受け、女性会員だけではなく、会員が参加しやすい講習会として「だれにでもできるセルフレスキュー」を行いました。

2007年「搬出法＆講演会」 2008年「搬出法＆応急手当」2009年以降は「山での応急手当＆講演会」を搬出は救助隊と、応急手当は安全対策委員会と共同で取り組んでいます。毎回100名程度の参加があり、山で事故対応の大変さ、安全に登ることの重

2003 年県連女性交流山行・鳥海湖

要性を伝えています。

又、各会の要請があれば、女性委員も講師として派遣する体制を作っています。

事故の対処法だけでなく、先ず事故を起こさない体力作り（山に登り続ける体力、筋力を維持するためには、年齢に関わらず継続した筋力トレーニング）が必要です。全国女性委員会では石田良枝先生を中心に、山で必要な筋力作りのデーターを採った冊子が作成されました。この登山に適した体をつくる「山筋ゴーゴー体操」を広げていくために、サポーター養成講座を受け、兵庫県連では、10 名のサポーターが生まれ、県連で講習会を持ちました。　例会時に「山筋ゴーゴー体操」を取り入れたり、講習会をされている会もありますが、まだ充分普及されていないのが現状です。より多くの各会が意識をもって筋トレを取り組めるように広げていくのが課題と考えています。

一般の方を対象にした、「女性のためのハイキング講座」は、2009 年から「女性のための山登り講座」に名称を変更し、受講生が若返りました。この講座は技術を講習するとともに、装備については、女性特有の細やかな説明に努め、ただ山行について行くのではなく、自立した山行を目指すことを講習の目的と位置づけ、安全登山に努めて取り組んでいます。受講生の一部は会員になり、そのうち数人は今の女性委員のメンバーとなり一緒に楽しみながら行事をこなしています。この講座を取り組むにあたっては、毎回テキストの見直しをして女性委員自身の技術アップ、問題意識を持って下見山行を行う中で、リーダーとしての力量アップの良い機会になっています。

女性委員会では、親睦をかね、近郊の山や、2 ～ 3 泊でテントや小屋泊の山行、宮城県の瓦礫撤去のボランテァの取り組み、岩手県や宮城県連の方との交流や山行、近畿ブロックや西日本女性委員会（2014 年は兵庫主催）の交流山行、全国女性委員会の会議に参加しています。自分の会だけでなく、県連内の他の会、他連盟の活動、全国女性委員会の活動にふれ、女性委員の共通の問題点や悩みを認識し、肩肘を張らず、女性の視点で安全に自立した山登りと運営をどうやっていくのか、今後も楽しくおしゃべりしながら新たな課題に実践していこうと思っています。

東北震災ボランティア

兵庫労山と国民平和大行進

砂川　延也

日本の原水爆禁止運動は、一九五四年のビキニ被災をきっかけに大きな盛り上がりをみせました。しかし､アメリカ､イギリス、ソ連による核実験競争は激化する一方でした。

この平和行進の発祥の原因となったビキニ岩礁で第５福竜丸が水爆実験の被害を受けた、マーシャル諸島では戦後アメリカが水爆実験を繰り返し行った結果、マーシャル諸島の住民も被災しているのです。このことはあまり知られていないようですが、平和行進の中で良く唯一の被爆国と云うことが言われますが、被爆国は日本だけでない事実があります。「核兵器禁止条約」を支持する国々が増えており、今年度は国連の中で、この条約が核保有国の意向にかかわらず、可決される可能性が生まれています。いずれ一握りの核保有国が追いつめられることは目に見えています。

日本勤労者山岳連盟は設立趣意書の中で、１５年戦争のため「登山の正常な発展は、軍国主義の支配と侵略戦争の拡大によって著しく阻害された」と、権利としての登山、平和あってこその登山であり、平和な社会でこそ登山文化の正常な発展ができると表明しています。

兵庫労山がこの運動に参加するようになった経過は、１９８４年に「神戸みなと労山」が会として国民平和大行進に参加し兵庫県内を歩き通した翌１９８５年からでした。

日本勤労者山岳連盟が国民平和大行進に参加するきっかけとなったのは、１９８６年に行われた全国連盟定期総会で発表された、この兵庫労山の活動報告がきっかけとなり、この年から日本勤労者山岳連盟の旗が、毎年の「原水爆禁止世界大会」へと東京から各県労山を経て、広島まで引き継がれています。

兵庫県内の国民平和大行進については、長年、国民平和大行進の先頭を県内通して歩いてきた阿部順一郎さんが２０１２年の国民平和大行進を前に病気入院となり、この年から常任理事が日程ごとに担当して実施してきました。

これまでの国民平和大行進については、いろいろ逸話が残っています。

阿部順一郎さんについて言えば、毎年、国民平和大行進団の先頭で横断幕を持って行進しており、行進に当たって絶えず言っていたことは、「労山のメンバーは先頭の横断幕の直ぐ後を歩くように」とのことでした。

２０１３年の国民平和大行進では当時の門脇理事長が阿部順一郎さんの遺影を胸に川西市を出発、その後、遺影を常任理事が引き継ぎ、最終日のＪＲ寒河駅まで歩き通しています。

２０１１年の平和行進では、「ＨＣカメ０３」山本正樹さんが全盲を圧して「神戸カタツムリの会」大野光清さんのサポートにより県内通し行進を行っています。

※総歩行距離：２０５ｋｍ　総歩行数：３５万５０２３歩

国民平和大行進団の人気者・愛称「ピースドック」、本名は「ポン」を連れた「垂水ハイキングクラブ」の釣順信さん、彼は自らの戦争体験から毎年、国民平和大行進を歩いており、公表はしていないが県内の通し行進者として行進団とともに毎年歩いています。

核兵器廃絶をかかげる国民平和大行進は、毎年１０万人が参加する国民的な運動になっています。

東日本大震災・熊本震災

砂川　延也

２０１１年３月１１日（金）１４時４６分頃に福島県、宮城県を中心に大地震発生
震源地：三陸沖（男鹿半島の東１３０ｋｍ付近）
規模：マグニチュード９．０
震度：７（栗原市）
震度：６強（石巻市）他
津波高さ：１０ｍ以上

この大地震は地震の被害のみならず大きな津波を引き起こし、東北から関東地方にかけて大きな被害をもたらしました。さらに東北電力・福島第一原子力発電所の爆発事故による放射能汚染が東北、関東、東海など広範な地域にわたり、地震、津波に加え被害に拍車をかけました。日本のみならず世界中に衝撃を与えました。

兵庫労山は常任理事会で被害に遭われた方に寄り添い、急遽、復興を支援する義捐カンパを各会に訴えてきました。兵庫労山では１９９５年の阪神大震災にあたり全国の仲間からの大きな励ましと支援を受けました。

直後（３/１３）に行われた兵庫労山の第４５回「六甲全山縦走大会」でも急遽、参加者にカンパを訴えて２４万円を超える募金があり、義捐金として神戸新聞厚生事業団を通じて被災地に届けました。

兵庫労山では３か月後の６月２９日常任理事会で「東日本大震災復興支援ボランティア活動協力のお願い」を各会に要請、現地への交通費補助を行うなどで支援活動の強化を図りました。

当初は多人数で集中してのボランティア派遣は現地の受け入れ態勢もあり、各会単位でボランティアの派遣活動をお願いしてきました。

兵庫労山隊としての取り組みが遅れていましたが、宮城県連盟の現地責任者・岡良一さんが、彼の地元の宿泊所の確保がほぼ決まり労山隊としての派遣が実現する運びとになりました。

震災後の兵庫労山からのボランティア派遣状況は下表のとおりです。

団体名	参加人数	現地への参加日程
県連盟	２名	６/４～８
メラピーク KOBE	４名	７/４～８
武庫労山	４名	７/１９～２２
山歩渓山岳会	４名	７/１９～２２
高御位山遊会	４名	７/２６～３０
摩耶山友会	５名	８/１９～２２
山の会かじか	４名	８/２２～２５
県連盟女性委員会	７名	８/２４～２８
北摂山の会	５名	９/１７～１９
西宮明昭山の会	20 名	９/２２～２６
第１次兵庫労山隊	35 名	１０/７～１１
西神戸山の会	４名	１０/２０～２４
摩耶山友会	５名	１１/１９～２１
第２次兵庫労山隊	８名	１２/１～　５
第３次兵庫労山隊（２０１２年）	19 名	３/２２～２６
第４次兵庫労山隊	13 名	７/１３～１７
第５次兵庫労山隊	11 名	１１/２２～２６
第６次兵庫労山隊（２０１３年）	18 名	１０/２５～２９
参加者合計	172 名	

現地でのボランティア活動の内容は、当初石巻地方の農地復旧に向けた作業の支援で北上川周辺の農地（大川小学校の対岸）での瓦礫撤去、汚泥処理が主な作業でした。その後、労山会員宅の復旧作業、男鹿半島の先にある金華山でのダム内の泥撤去作業、鮎川地区牡鹿ボランティアセンター指示で寺院内の竹林伐採整理作業、個人宅の墓地、庭園内の整備作業、水沼山ハイキング道の刈払による登山道の整備作業等々でした。

石巻市内で兵庫労山が現地でのボランティア活動をするにあたり、宮城県連盟の当時現地責任者だった岡良一氏には公私にわたり宿泊場所の提供、食事の世話など多大な支援と、お世話をおかけしました。

福島県へ第６次隊派遣について

第５次隊派遣からしばらく間がありましたが、第６次隊を福島県へ派遣することに

なった経緯は、第５次にわたる災害復旧支援ボランティアを宮城県石巻市に派遣してきましたが、現地での手作業での災害復旧支援活動は一段落しており今後の支援について検討した結果、福島県連の理事長・村松孝一氏からの支援要請にこたえて派遣をきめたことです。

福島県は面積が広いのに会、会員数が少なく山での線量調査が十分にできない事情からぜひ福島の山に来て、山の放射線測定に手を貸してほしいとの支援の申し入れが兵庫にあったことです。

福島では登山道での放射線測定作業で阿武隈山系（東吾妻山、安達太良山、磐梯山）を３パーティーに分かれて放射線測定作業を行いました。

全国連盟は早くから登山道の放射能汚染測定マップ作製のためプロジェクトチームを始動させていました。それは登山者の安全を確保し安心して登山を楽しむためには登山道での放射能汚染マップを作成して、登山者の安全、安心を確保することが求められていたからです。これを実行できるのは登山者、登山団体でしかないことです。その結果は福島はじめ東北、関東などでの測定結果をもとに「放射能と登山道」野口邦和監修にまとめられています。

東北関連支援ボランティア基金の終了について

・プロジェクト「東北の高校生の富士登山」
　主催：山と渓谷社・日本山岳遺産基金・田部井淳子
　２０１２年から２０１６年までの毎年行われてきたが、サポートしていた登山家の田部井淳子さんが１６年の１０月に亡くなりプロジェクトは終了しています。
・プロジェクト「福島の子供たちと夏休み」
　主催：静岡県勤労者山岳連盟

上記、２件のプロジェクトへ東北支援のボランティア基金から２０１６年度にカンパを行い基金会計を終了しています。

熊本震災

2016 年 4 月 14 日 21 時 26 分及び 4 月 16 日 1 時 25 分に熊本県熊本地方を震源とする最大震度 7 の地震が起きた。

全国連盟からの要請により、現在のところ救援募金に取組みにとどまっている。

組織の消長と発展について

藤原稔彦

2006 年の連盟結成 40 周年以降この 10 年の間に、新たに兵庫労山に加盟したのは、山の会ささやま、神戸山スキークラブ、神戸ｸﾗｲﾏｰｽﾞｸﾗﾌﾞ、神戸ﾊﾑ&ﾊｲｷﾝｸﾞｸﾗﾌﾞの４会であり、逆にＨＣ丹波山遊会、すずらん山歩会、岩と雪の会こぶし、ベルグ松濤会の４会が解散、姫路山の会、ＨＣ徒歩徒歩、六甲ハイク、あすなろの４会が連盟を脱退しました。加盟した山の会ささやまは丹波地域に大きな地域的発展をもたらしました。神戸山スキークラブ、神戸ｸﾗｲﾏｰｽﾞｸﾗﾌﾞ、神戸ﾊﾑ&ﾊｲｷﾝｸﾞｸﾗﾌﾞについては、会の山行志向と活動内容が明確な特徴あるクラブの加盟となりました。解散した岩と雪の会こぶしとベルグ松濤会はと共にアルパイン、クライミングを志向するために誕生した会でしたが、会としての例会山行は行わず、個人山行が主体の会運営で会の組織的活動が事実上ないという状況の中で解散にいたりました。姫路山の会、ＨＣ徒歩徒歩、六甲ハイク、あすなろはハイキングが主体の会でしたが、気軽にハイキングを楽しむ

だけなら労山加盟の必要性を感じないとの判断から脱退にいたりました。それと共に姫路山の会以外は、会員の高齢化や家庭の事情等で思うように動けない会員が増え、会運営が困難となってきたことも脱退の大きな理由でした。

会員数等については、40 周年当時は 49 会 2090 人が 50 周年の現在は 45 会 2124 人（何れも全国連盟への登録会員数）となっています。登録会員数には大きな変化がないようですが、連盟規約で大型会の会費の逓減措置を行っているため、現在の実会員数は約 2800 人（2016. 11 時点）となっており、過去最高水準に達しています。しかし、加盟山岳会の多くは会員数において漸減又は横這い状態が続いており、全体の四分の一程度の会の健闘が会員数の増加につながっています。40 周年の時は 5000 人の連盟を目指す目標を掲げていましたが、達成できなかった教訓から、連盟では 2010 年に「組織強化プロジェクト」を発足させて中長期の組織強化と会の活性化を目指す組織方針を策定し、会員拡大目標として実会員数 2500 人を 3000 人に組織拡大する方針を決定しました。現在 2800 人に到達していますので、3000 人は手の届くところにきているといえます。会の健全な活動を継続させ、活性化させていく上からも、各会が目標を持って新しい仲間を獲得していくことが求められます。

県連盟交流行事

兵庫労山交流囲碁大会

村上悦朗

兵庫労山は労山第二の勢力を維持していて、組織の結束力が強いと云われている。その源は「ゴミを一掃する運動」で培われた多岐にわたる行事の豊富さであると考えている。

その流れの中で生まれてきたのが、兵庫労山交流囲碁大会である。初回から大会を牽引してくれているのは「山の会・かじか」の宮崎信敏氏である。呼び掛け人には副会長の村上悦朗氏が当たっている。

第４回大会から実行委員会制度（５人）を採り入れ、大会の運営面や参加者の拡大に努めるようになった。これにより情報の共有がはかれるだけでなく、前向きな提案が出され議論できるようになったことは大きな前進であった。

第１回は２０１２年（平成２４）で参加者は３６名で殆どが労山会員か ＯＢであった。此処から年毎に参加者を少しずつ増やし、第６回の２０１７年（平成２９）には当面の目標であった５０名を超え５１名参加の大会に成長した。

参加者の棋力は上は７段～下は６級で実施されている。まだまだ情報が浸透しておらず、参加する会が限られている。できるだけ多くの会から参加していただけるようお願いしたい。兎に角、「顔みしりになる」ことが「兵庫労山の発展」更には「各会・クラブの発展」に繋がると実行委員は信じ続けている。

第６回労山囲碁大会表彰式

西宮山岳会

西宮山岳会の結成は、1963年の夏、当時、北アルプスの「仙人池ヒュッテ」に集った若者たちが「勤労者の立場に立った大衆的な山岳会を作ろう」と相談して、同年9月7日に兵庫県下で初めて「西宮わかもの山岳会」を発足いたしました。当時の会報によると会員は様々な職場や地域の若者と学生達を加えた37名でスタートしました。直後の山行計画では、9月は六甲山で足慣らし。10月は中装備のトレーニングで中秋の名月を山上で望むキャンプ。11月は大峰山or大台ケ原へ紅葉狩り。12月は重装備の歩荷トレーニング（男は２５kg）と会員同士の親睦を図りつつ基礎的な体力向上に苦心された様子が伝わってきます。

今では、会員数も80名ほどで中規模の会を目指して活動しており、発足当初と同じように、会員同士が助け合い登山技術の向上に努めており、山を愛する気持ちは先人達と変わりません。２０１３年に５０周年を迎え、「つなごう未来へ、わかもの山岳会の熱き想い！」を合言葉に会活動を展開し、歴史ある山岳会をさらに発展させていきたいと思います。

尼崎山の会

私達の会は１９６６年２月１５日に県内２番目の労山として設立され、昨年の２月に創立５０周年を迎えました。　総合山岳会として冬季後立山縦走を目標として活動していましたが参加者の減少でつなげることが出来ず断念。　現在は高齢化とともにハイキング中心の活動となっています。

今までにシリーズものとして１年ほどもかける六甲全縦距離測定、大阪湾周遊山行（加太から和泉山脈、北摂、六甲、淡路島を山をつないでの縦走）、琵琶湖一周、山陽道、干支の山など。マイカーでの近畿圏のハイキングも行っていましたが安全のこともあり交通機関を利用しての山行にしています。

あまりハイカーの姿のない山を歩けるようにしています。

神戸勤労者山岳会

「結成50年を迎えた神戸労山」

神戸労山も昨年結成50周年を迎え記念登山、記念誌発行、祝賀会などを滞りなく行うことができました。

その時代その時々で会のために頑張ってこられた多くの先輩方や現会員の方々の神戸労山を愛する熱い思い、山への情熱など脈脈と現在も受け継がれてきた結果であります。県連盟の結成以降　各地域で山岳会が次々と誕生し、会員が増えた神戸労山も大きく発展して摩耶と西神戸の3つの会に分離独立しました。

神戸労山の現在の会員はこの数年は70名前後で推移しています。会員の努力で年4回～5回の登山教室・講座を開催してそこからの入会者を迎え入れています。ホームページも充実しており、山行意欲の高い会員の山行記録などはタイムリーに更新して発信しています。

しかしその反面、登山の多様化や長時間労働など社会的な環境の変化で、会の運営そのものが難しい時代であり、これからの神戸労山はどう進むのか、ビジョンを持った運営が求められているところです。幸い神戸労山は「アルパイン登山」が昔からの伝統であり、そのような意欲を持つ会員が結集して現在も精力的に山に取組んでいます。

このような神戸の強みを更に外に向けて発信していくこと、そして全ての会員が、神戸労山の仲間である、との認識の下で、それぞれの立場で活動をすることで会は発展していくと考えています。各会の発展無くして連盟の発展はあり得ません。60周年、70周年・・・共に頑張っていかなければならないと思います。

アルペン芦山（ろさん）

近代登山発祥の地、芦屋市を拠点とする総合山岳会です。

1966年１０月７日創立。兵庫県下で５番目の勤労者山岳会として誕生しました。

７５年には芦屋、東灘、北神の三つの会に分離独立しました。９０年の兵庫労山２５周年記念海外登山「ヒマラヤ・ガンゴトリⅢ峰遠征隊」にも隊員を送り出し、登頂を果たしました。

会員は男女ほぼ４：３。ハイキングや岩登り、沢登り、雪山、また日本アルプスなどの本格登山をやっています。そのほかノルディックウオーキング、マラニック、歴史ハイキングなどのユニークな催しがあるのも特徴です。合計すると例会は年間１３０回にも上ります。ハイキングなどは会員以外も参加できます。

2016年には創立５０周年を盛大に祝いました。記念事業の一環として、道なき道を含む日本海から瀬戸内海に至る山のルート「兵庫縦断トレール」を開拓しました。

お互いの興味や得意を生かし、初心者からベテランまで楽しめる会を目指しています。

須磨勤労者山岳会

当会は神戸市役所の有志が作った「ワンダーフォーゲル六甲」が１９７２年に兵庫県勤労者山岳連盟に加盟にあたり会名を「須磨勤労者山岳会」に改めました。現在はクライミングを中心として活動しています。主な活動場所として、近郊のクライミンググレンデ（烏帽子岩、不動岩、堡塁岩、蝙蝠谷）や雪彦山、備中、帝釈などがあります。また、マルチピッチでのクライミングや冬季クライミングも行っています。会員数は現在３０名です。阪神淡路大震災で事務所を無くしてしまいました。月に１回（基本的に第２土曜日）兵庫県勤労者山岳連盟事務所にて全会員集会を行って活動報告や予定を話し合っています。

当会では年齢を問わず新入会員を募集しています。これまでのクライミングや山行の経験は問いませんのでやる気のある方は入会をお待ちしいます。

神戸カタツムリの会

1968年（昭和４３年）１月９日、１２名にて発足しました。現在１００名の会員数ですが発足会員は2名のみとなってしまいました。機関紙も2017年4月号でNo.582号にもなります。1995年は阪神淡路大震災にて会事務所は崩壊し装備その他何も取り出せない状況でしたが、全国の仲間からの支援と県連盟事務所での機関紙印刷で滞ることなく発行できました。カタツムリの歩みといえば

1971年（昭和４６年）第1回スキーバス〔戸倉〕を出し2013年〔志賀高原〕まで続く。

1978年（昭和５３年）兵庫労山第1回六甲山からゴミを一掃する行動に参加、現在に至る。

1983年（昭和５８年）兵庫県縦断リレー縦走を7月～１２月、9回に分けて和田岬～浜坂まで山を巡りながらの縦走。

1987年（昭和６２年）六甲全山リレー縦走須磨～宝塚を4回に分けての縦走、ただし途中3回になり現在は2回にて。

2002年7月～8月　北アルプスリレー縦走、日本海親不知～朝日岳～白馬岳～針ノ木岳～野口五郎岳～双六岳～槍ヶ岳～奥穂高岳～西穂高岳～焼岳～中の湯温泉までの大縦走。

ほんの一部ですが列記してみました。海外の山、沢、岩、厳冬期の山、ハードな山、ゆっくりハイキング等々。多彩な山行をする総合山岳会です。又、最近ではお天気入門（観天望気）ハイク、山でのケガのシミュレーションハイク、会独自での心肺蘇生法の講習を毎年行っています。現在までたくさんの人が入会をし、又、退会しましたが、いろんな人の厚意と努力で５０年続いてきました。

来年（2018年）１月には５０周年を迎えます。創立５０周年に向けて記念山行、記念誌、記念セレモニー、記念講演等々、準備で頑張っています。

春風山岳会

「春風山岳会」は1969年西宮労山主催の登山講座が春風公民館で行われ修了の後に誕生しました。私たちは地域に根差した活動を合言葉に活動、成人式を迎えた方を迎え祝賀会パーティを公民館で行い交流ハイキングをして新聞に載りました。招待状を出す為に市役所で名簿を閲覧しました（個人情報保護法などなかったのです）また生野高原方面にバスハイクを出し地元の若者たちと親交を図り、当日は登山道の草刈りをしていただいたことも。他の会に先駆け妙高高原には３回、信州の高原や瑞牆山にもバスハイクを行い登山講座もしました。また市内の野外活動グループと交流をもち、バスハイクでキャンプファイヤーを楽しみました。自然保護活動を通じて氷ノ山や南アルプスなど積極的に山行を組み得意な山域となりました。六甲山の清掃ハイキングは当時、ゴミを背負子に積んで何回もロックガーデンを下りました。事務所は始め古い文化住宅を借りました。その後３回の引っ越し後、震災に合いＪＲの貨車に一時引っ越しその後今のところに落ち着きました。

甲山勤労者山岳会

西宮のシンボルの山を会名とする私達の会は、2017年3月末現在、会員数84名の総合山岳会です。会の歴史は1963年の「西宮わかもの山岳会」に始まり、1971年に「西宮労山」から対等分離して現在に至っています。

会の魅力的なところは、まず和やかな雰囲気の会風にあります。

山行以外にも会員個人の山荘を皆でリフォームして例会に活用したり、街歩きや援農など幅広い活動もしています。県連恒例の六甲全縦ゴールで喜ばれるぜんざい。あのお餅は、会員の農場で栽培された無農薬米なのです。

近年、会員の平均年齢は65才を超えていましたが、この１年で岩登り志望者の入会等もあり、少し若返りました。

さて、これからどうなっていくのかは誰もわかりません。

ただ、山の会は山に登り続けよう。山に関連する事の面白いことをやり続けよう。会の雰囲気を大切にして、山の会として成長を続けたいと考えています。

山の会かじか

当会は第一次オイルショックの最中１９７２年１月、県職員を中心として２０歳代の若者９名で創立され、本年無事４５周年を迎えることが出来ました。

この間、安全山行を第一に掲げた会運営に徹しかつ諸活動に取組んだ結果、創立以来山行中の人命にかかわる事故はまったく発生しておりません。

これは会員個人の安全山行への強い意識とリーダーの勇気ある撤退を含む冷静、的確な指示判断の賜物であり、胸を張って誇ってよいと思います。

創立後２０周年頃より、多くの愛好者に自然に親しむ機会を提供する活動を始め、市民ハイク、バスハイク、自然保護を大きな柱として活動した結果、会員数、活動内容が着実に前進し２００１年には１４２名の大型山岳会にまで発展するに到りました。

一方、労山の一員として氷ノ山の自然を守る運動にも積極的に参加しました。また、兵庫労山の最大の行事「兵庫の山からゴミを一掃する運動」は現在年１０回実施しています。

しかし、３０周年以降１０数年間は会員退会の歯止めが利かず、会員数は漸減し、現在ピーク時の半分以下となっています。最近徐々に会員は増えつつありますが、５０周年に向けて、今一度原点に返ってかじかの展望を見直す必要があります。

※　１０年節目の記念山行

屋久島、槍ヶ岳集中登山、キナバル山、北漢山合同登山（西宮明昭山の会と）

山の会かじか会長　田中 巖

神戸みなと勤労者山岳会

みなと労山は、1972年3月10日に１２名で発足した「神財労山を」前身に職場外からも会員を迎え入れ､同年11月18日名称を「神戸みなと勤労者山岳会」と改め、神戸の地域に根ざす働く者の山岳会としてその第１歩を記した。その後会員も順調に増加するなかで、活動もハイキングから夏山や雪山、ＲＣ、秋には登山バスを、冬にはスキーバスを出すなど、総合山岳会として着実に発展していった｡会員数が８０名を超えた５年後の1977年、尼崎以西の会員を中心に「山岳会ホワイトピーク」を分離独立した。

しかし1982年3月14日会創立１０周年を祝い記念行事を大々的に行ったそのわずか１週間後、八ヶ岳中岳沢で雪崩に遭遇し１１名の仲間を失うという山岳史上稀にみる大事故を起こすところとなった。その結果会員は大幅に減少し、さらに事故の事後処理と会活動を中心になって支えてくれたＳ氏の転勤・退会により会活動は長期低迷状況に陥ったが、夏山登山教室・修了山行等の外に目を向けた取り組みを契機に新しい会員や復会会員が増え、数年前２１名まで減った会員が2017年４月１日で４２名に増加し、積雪期山行など会活動も多様化・活発化し、未結集会員がほとんどなく皆意欲的に行事に参加するなど会活動は活性化してきている。ただ、新入会員も含めて高齢化が近未来の不安要素である。

武庫勤労者山岳会

武庫勤労者山岳会は、１９７２年６月２５日、尼崎勤労者山岳会から分離独立して今年で４５周年を迎えます。

発足した頃の会員数は、５０名程でしたが雪山入門講座、夏山講座、岩登り講座、登山バス等の活動の成果としてゆっくりですが、会員数も増えています。

近年、中高年層の山岳会になりつつありましたが、５年位前から、若い会員が増え始めて会の活動の巾が拡がって来ました。

発足した頃からのこだわりがありまして、安全な登山を目指しつつ、毎年の登山バス、積雪期は雪山へ、会の事務所の維持をと活動をしています。

登山バスは、日帰りになりましたが、小屋泊での雪山、岩登り、沢登り、山スキー、平日企画山行から無雪期の長距離縦走と各会員の力量に合う山行活動をしています。

伊丹勤労者山岳会

伊丹労山も1972年6月新体連（現・新ｽﾎﾟ）と県連の援助を得て伊丹の地に労山を結成しました。今年で、創立45年を迎える事になりました。

「会を維持して行くのがやっと」の時期もありましたが、ここ数年各会員の頑張りもあり何とか此れからの展望が見えて来たかなと言うのが正直のところです。

山行に於いては「女性だけでアルプス登山を取り組んだ」事は一つのきっかけになりました。近郊ハイキングの充実は今では月８～10回の例会を企画する事が出来。何よりも、「ハイキング教室」の取り組みは6名の受講生全員が入会した事です。念願だった「市広報」は大きな効果がありました。

また、市公民館からは講習会の講師として要請され、方針の一つの「地域に根付いた活動」になりつつあります。今後、「夏山登山教室」など開催予定です。

これからの課題として、如何に若い会員を増やすか、これが無ければ会は消滅します。そのニーズに合った活動をして行く事。会員全員が参加して行く活動をする。そして各取組を継続させていく事。何よりも事故を起こさない会の気風を作る事です。

西神戸山の会

西神戸山の会は1974年5月旧神戸勤労者山岳会（神戸労山）を発展的に3分割した１つとして37人で発足しました。会報は「三角点」と決めました。氷ノ山の自然を守る運動、六甲山からゴミを一掃する運動など積極的に取り組みました。子供の冒険学校にも取り組みました。阪神淡路大震災発生前年まで会員が三桁に達しました。最高時は117名でした。
2017年４月現在で63名です。震災で会事務所は消失しました。会再建を進める中で会員の励ましハイクを行い避難所で炊き出しも行いました。震災からの再建が軌道に乗っていた2002年沢登り事故が発生会員を亡くしました。沢事故以降、リストラ、病気、介護等で会員減少が続きました。2012年創立40周年アピールを定期総会で採択し会活動の活性化、会員拡大を全会員の運動とすることを開始しました。2013年に会事務所は7回目の移転で新長田から板宿北市場に移りました。この事務所を拠点に地域密着型の活動を行っています。

山岳会ホワイトピーク

快晴の１９７７（昭和５２）年６月２６日、尼崎市立産業郷土会館において、神戸みなと勤労者山岳会から発展的に分離・独立することになった１６名の会員が結集して結成総会を開催し、会名には労山旗の白い峰をイメージした『山岳会ホワイトピーク』を、会報には『雲海』を総意で決定しました。

会活動を通して、一時５０名超えの会員を有していましたが、その後、転勤・結婚・子育て等で１０名程まで減少したものの活動はなんとか継続し、元会員の復帰や入会者もあって、現在は１６名です。会員の男女はほぼ同数、年齢層も親子会員の子を除けば５０歳代より上で、アットホームでコンパクトな山岳会です。

最近は、月１～２回の例会ハイキングや宿泊山行などの登山以外の活動で、サイクリングにも取り組んでいます。

５年前に初めて会結成３５周年記念集会を開催しましたが、今年は会結成４０周年を記念して海外登山や記念集会、記念ポロシャツの製作などを企画しています。

摩耶山友会

創立４３年を今年迎えます。とにかく「山を楽しむ！安全にしかも安く！」をモットーに総合山岳会を目ざしています。活動の柱は毎年開催している一般の方向けの【夏山登山教室】です。全ての教育・学習活動がこれに結びついています。3月に実行委員会を立ち上げ、5月初めの締め切りまでサポーター講習会・宣伝活動。5～7月に座学4回と実技講習4回＋修了山行トレーニング4回。7月下旬～8月初旬に修了山行、8月下旬の「受講生の集い」で終わりますが実に丸半年間の実践となります。この間の実行委員は前年の受講生が主となり「ご恩返し」を行い、多くの体験・知識習得を行います。班の組み方、リーダー選定、計画書の書き方、先輩とのやり取り、と組織的勉強が身についてゆきます。「やまなかま」の表紙は会発足当初から、会員の手書きによる会員の似顔絵を続けておりこの4月で創刊より510号を数えました。今後も引き続き【やまなかまを大事にする】視点で続けて行きたいと考えています。

西宮明昭山の会

1975年6月1日、17人のメンバーにより「中高年のハイキングクラブ」として創立された。2017年3月現在、会員数は839人に発展した。年間約80人近い入会者がある一方で、高齢・病気・家族の介護などで退会せざるをえない会員も多い。会の後継者の確保とハイキング愛好者のためにつくし、組織化をすすめること＝会員拡大はわが会にとって永遠の課題である。この３月の例会企画数は113回、4月の138回は史上最高記録である。昨年度の例会企画数は1345回に達し、１ヵ月平均112回である。1980年、現名誉会長原水章行氏が事務局長当時からランク制を創設、脚力の合うグループごとにハイキングを楽しんできた。年を経るごと、会員数が増えるごとに会員の実情にそえるように制度の見直しを行っている。

2015年は創立40周年記念行事を盛大に実施した。194ページに及ぶ記念誌を発行、峰山高原集中登山は230人が集う。記念パーティ・講演会は“ミニヤコンカ奇跡の生還”の松田宏也氏をお招きし、271人が参加して盛大なパーティとなった。サークル活動も活発で、コーラス・スケッチ・俳句・オカリナ、クロカン・スキーなど約200人が大いに楽しんでいる。

東灘勤労者山岳会

１９７５年6月1日、芦屋労山より分離独立し、アルペン芦山と東灘労山の2会が発足した。東灘労山は創立当時には60名から70名ほどの会員がいた。

会の活動は、月４回の近郊例会、春夏冬のアルプス方面の山行、一般募集の登山バス、登山教室と多岐にわたって活発に行っていた。

2009年末の奥穂での遭難事故後、30名強いた会員がポツリポツリと退会していき、現在では実質7名の会員情勢である。月に3回程度のハイキング、クライミング例会のほか、春夏秋冬には力量に応じたテント泊山行も実施している。（春夏は北ア方面・秋は泊付きのハイキングを中心とした登山・冬は比良山）

会報は、年に3回から4回の発行である。

いつ消滅してもおかしくない情勢だが、現在残っている会員で会活動を続けて行くよう頑張っている。

但馬勤労者山岳会

1975年7月に但馬に労山が出来てから40年になります。書棚から機関紙「千本杉」No1号が出てきました。手書きのガリ版刷りです。30ページの紙面は、山行記録や行事案内、なんと似顔絵入りの会員紹介が19ページもあります。会活動も機関紙部、山行部、女性部や運営委員会もあったように思います。大山登山バスは恒例となり、北アルプスにもバスを出し、元気がありました。会員も順調に増え70人を超えました。そこで会を北但と南但に分割することになりました。

双方が活発に活動出来れば良かったのですが、活動家の分散で会活動も少なくなり衰退していきました。1997年に起きた南但山歩会と淡路労山会員の氷ノ山遭難事故は但馬における大きなニュースでした。捜索には県労山の仲間たちや、多くの山岳会の山仲間の支援に助けられました。2007年にも会員が氷ノ山で亡くなる事故がありました。

現在会員は5名。但馬から労山の旗が消えないように、会としての活動は出来なくても山への思いは持ち続けたいものです。

平和でなければ山へは登れない！夏の平和行進には必ず参加し、日本海コースの「労山旗」を引き継いでいます。

県連からは遠隔地の労山です。

県連行事にはなかなか参加できませんが、迷惑にならないよう、お荷物にならないように「旗」を守っていきます。

西宮北口勤労者山岳会

前身は「宝塚勤労者山岳会」（1966・2・26 結成　会員 28 名）県労山結成に参加。10 年後には、会員が 100 名を超えたため、1975.4 分離独立を決定。

大阪方面の会員を主として西宮北口勤労者山岳会と宝塚周辺の会員を主とした逆瀬川勤労者山岳会（現宝塚山の会）に分離した。

1975.7.15 に西宮北口勤労者山岳会結成。会員 46 名でスタート。最盛期は 60 名を越していたが、現在は 29 人、男 11 名、女 18 名。平均年齢は 67.5 歳、男性 68.8 歳、女性 66.6 歳。居住分布は西宮市 4 名・阪神間 11 名・大阪・京都 7 名・東京・広島・岡山に 7 名と広範囲。転居しても会員を継続。私たちが出かけた際に山行を共にしている。在籍年数も宝塚労山結成時からの会員は 3 名。在籍年数 30 年以上の会員 19 名と多数。

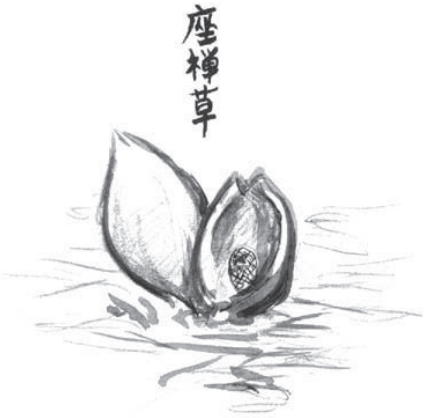
山行は、岩・雪・沢はできなくなり、ハイキングが中心。スキーはゲレンデだが年 4 回は楽しんでいる。

垂水勤労者山岳会

垂水労山は 1976 年(昭和 51 年)に発足し、昨年で創立 40 周年、色々な分野で節目の年でした。一口に 40 年は長く貴重です。会員数は 41 名、今も在籍 40 年の会員が数名います。新旧の会員で構成している運営委員会では「全員が参加できる・・」を目指し実践しています。その中でも六甲山系からゴミを一掃しようという熱い思いは毎月の「清掃ハイク」、会員の 8 割が参加。「週毎の例会ハイク」、ジャンル分けで構成の「グループ別ハイク」、「気象勉強会」、「地図読み」、「パソコン学習会」、「応急手当」と、多彩な勉強会なども企画し、知識習得の啓発にも努めています。機関誌部員だけでなく、全員が寄稿し、印刷作業をする機関誌「たるみ」は４５０号を発行致しました。全縦に向けて「六甲全縦のコース」を毎月の例会で歩いています。垂水労山の目玉ハイク「四国遍路ハイク」も長時間の忍耐力つくりに貢献。平均年齢６７歳・・とはいえ、クリーンハイクのサブコースの CL を務める 85 歳のメンバーは昨年笠ヶ岳に登頂。まだまだ数えきれない「たるみ」の良さは一言でいうと「アットホーム♪」当時 20 代の若者たちで数組のカップルも誕生。父娘二世代の会員もいました。私たちのこれからの課題は、先輩たちから受け継いできた「40 年」を、家族を守り育んでいくように、健康で安全な登山を目指し、仲間つくりをしていくことだと思っています。

神戸港山の会

宝塚山の会



山歩渓山岳会

山歩渓山岳会は1963年「西宮わかもの山岳会」から生まれた西宮勤労者山岳会から1976年6月20日に「対等分割」で誕生し、43名で活動を開始した山歩渓山岳会は現在、創立40年を経て120名を超える総合山岳会へと成長し、ハイキング、クライミング、沢登り、スキー、雪壁登攀、海外登山、海外登攀など、年間を通じて幅広い活動を続けています。

発足当初から楽しく安全な登山をしようと自分たちで登山教室を開催し、登山バスという形式で新しい仲間が入会し、山の自然の素晴らしさに目覚めた仲間が山歩渓の仲間づくりに励み、山や谷もありながら現在に至り、近年はホームページからネットを通じて、山歩渓の会員となりその中からより高きを目指す仲間はトレーニングを重ね自立した登山者を目指すことを活動目標にしています。

また県連主催の各種講習会で各山岳会の方々と交流し技術の向上を目指すことと兵庫連盟が主に活動する自然保護運動にも積極的に参加するようになりました。

会の運営に関しても、全員参加型をモットーに、個人の負担の集中がないように、行事や月のルーティーンを班単位で分担する、会長や運営委員の当番制、世代交替などに取り組み、風通しのいい会運営を目指し、何より安全で楽しい山岳会づくりを行っています。

淡路勤労者山岳会

私達淡路勤労山は、１９７９年９月２２日、兵庫労山３３番目の労山として発足。主に垂水労山からの分離独立、及び設立に賛同した淡路在住の人達１３名によって結成された。運営には未経験ながらも若いエネルギーを注ぎ込み、行事や山行、会報発行を続けた。登山バス、六甲全縦、島民ハイク等の、会の総力をあげての取り組みで、２～３年度には会員数は５０名を超えるほどにもなった。続く数年の内には、会員の職場、地域での社会的役割の高まりの中で、会活動へのウェートが相対的に低くなり活動の低迷をみたが、新たに全国的にも云々されている中高年の入会等もあり、会は続けられた。

１９９７年１月、他労山との合同山行の氷ノ山での遭難事故が発生。以降の３か月にも亘る県連の多くの方々の捜索支援が得られた。しかし、当時の会活動の要だった１人を含む３人を失い、その後の淡路労山は一気に力を無くし、低迷を余儀なくされています。

尼崎ハイキングクラブ

1980年に創立し今年36年を迎えます。ハイキングの会ですが夏はアルプスの3000m級の山や八ヶ岳なども挑戦しています。普段の例会はUU・UA・Aと3ランクに分け足に合わせて例会を組んでいます。我が会は人にはランクをつけていません。自分で判断しそれぞれのランクの例会を選んで参加するようにしています。会としての悩みは高齢化が進み毎年何人かが高齢のため退会者がありますが最近目立って多くなっているようです。CLをする人も高齢者が多いいのですが、若い人にCLを頼み今育っていこうとしているところです。例会を組むのも大変な仕事です、例会を組むとき気をつけていることはランク毎に参加者に合わせて組んでいます。ランク毎に参加者はほぼ決まってくるのでその中で1番足の弱そうな人を頭において例会を組んでいきます。そして気をつけなければいけないのが事故です。足首骨折や腕の骨折などの事故は一度起こると続いて起こっているようです。会としてはとにかく事故の無い山行を目指しています。

神戸中央山の会

神戸中央山の会　大森康宏

私が、当時の神戸中央労山に入会したのは23年前、52歳のときでした。会員は50名前後で、組織がまだ固まらず、あちこち雨漏りがする時代でした。一人三役で、50名全員が走りまわり、水を受けて回ったものです。今は、神戸中央山の会、と名称がかわり、会員も140名をこえて、兵庫労山でも大型のメンバー会として、その末席に名を連ねています。昨年は、県連50周年の記念行事に出かける機会が何回かありました。懐かしい仲間と旧交をあたためることができ、「やっぱり山の仲間、良いなあ！」と、たいへん嬉しく思いました。仲間の太いきづなと、四半世紀がたって後も、変わらぬ連帯の心の息吹を感じ、意を強くした次第です。心の若さ、山の仲間に共通しているのは、これだと思います。60，70はまだ序の口、80，90、いま、人間100年の時代に突入しました。ロマンの心を燃やし、心の若さを持ち続けたいと思います

神戸ハイキングクラブ

例会　毎週日曜日近畿一円日帰り登山、但し前日19時NHK天気予報に翌朝6時～18時の間に降雨40%以上の場合に山行を中止する。

夏期遠征訓練実施

2009年7月25～29日　尾瀬燧ケ岳至仏山

交通アクセスはすべて青春キップにて

2010年7月23～27日　燕岳、槍ヶ岳、南岳

2010年7月25～28日　黒岳､旭岳～旭山動物園(北海道旭岳)

2011年7月22～26日　九重連山

2011年8月1日～4日　西穂独標～上高地

2012年7月28日～8月2日　雲の平～水晶岳～双六岳

2013年　中止　戦場ヶ原～太郎山

2014年8月4～7日　白馬大池～蓮華温泉

2015年8月2～4日　木曾赤沢渓谷

2016年8月3～5日　榛名山～伊香保温泉（新幹線と併用）

※夏期山行遠征は俊通山行部長（満州より帰国後高校大学共山岳部に所属、山の指導による処が多くガンによる急逝の為中止した。

会員数推移

年度	合計	男	女
2010	27名	11	16
2011	21名	9	12
2012	26名	15	11
2013	26名	17	9
2014	20名	13	7
2015	18名	11	7
2016	17名	10	7
2017	20名	12	8

会員増員活動

神戸新聞に毎月一回選定山行案内

市ケ原桜茶屋掲示板に山行案内紹介（毎月）

※自慢一言創設以来会費月700円は不動

山の会アルプ

山の会アルプは、1984年1月29日に会員49名によって須磨勤労者山岳会から分離独立する形で創立しました。事務所をＪＲ兵庫駅の近くにもうけ、20歳台～30歳台前半の人達が中心に、軽登山・冒険学校・自然保護を柱として活動をスタートしました。夏山縦走、雪山ハイク、兵庫の山々などの山行だけでなく、登山バスや登山教室、市民ハイク、正月スキーなど一般登山者を迎え入れる活動も積極的に行なってきました。

会員の退会が続いたり、事務所が持てなくなったりときびしい状況が続いていますが、

2014年に創立30周年を迎え、2月には県民会館で元会員の方々も迎えて記念の集いを開催し、10月には記念誌を発行することが出来ました。

自分達も楽しみながら、社会へも目を向け、安全登山や自然保護、一般登山者を迎え入れる活動にこれからも取り組んでいきます。

南但山歩会

垂水ハイキングクラブ

１９８５年７月１４日、垂水勤労者山岳会から独立し、ハイキングクラブとしてわがクラブは産声を上げました。当時、会の年齢層や体力、家庭、職場環境の変化など会員の要求も多様化する中、山岳会では対応できない部分が出てきたことで数回の議論を経て、「垂水ハイキングクラブ」として２０名でスタートし、現在に至っています。

会の現状は新会員を迎える一方で、健康、年齢、家庭の事情などで退会者も出ていますが、会員数に変動はありません。

設立当初より「一人一人が主役、安全で楽しいハイキング」をスローガンに全員参加の会運営を心掛けています。

ハイキングも２ヶ月先までを企画し、最近は会員の体力等を考慮し、史跡ウォーキングも取り入れ、月３回程度は計画しています。今後も安全で楽しいハイキングをみんなで企画・実践していきたいと３０年を越えて思う次第です。

会長　鎌田　文男

北須磨山の会

北須磨山の会は1987年4月に事故のない安全なハイキングを普及する目的でハイキング愛好者を組織するために須磨勤労者山岳会から57名で発展的に分離しました。市民ハイクなどの取り組みで会員は70名ほどになりましたが現在は11名で活動しています。

月１～２回のハイキングと年一回はアルプス方面の山行に行っています。月に一回の運営委員会と２ヶ月に一度、機関紙「たんぽぽ」を発行しています。高齢化のために会員が減少しているのが現状です。公開ハイクやハイキング教室などを取り組み、会員拡大したいと思いますがメンバーが少ないため出来ていないのが現状です。会創立30年になりますので40年に向けて良い方向に進んで行きたいと思っています。

明石山の会

明石山の会は「神戸中央勤労者山岳会　現：神戸中央山の会」から、分かれる形で１９８７年１２月に「明石勤労者山岳会」として結成されました。当時の事務所は明石駅から３分ほど西側にあるグリーンヒルホテル明石のすぐ近くにありました。

その後、東人丸町を経て、３代目事務所として現在の西新町へ引越。２００６年６月には会の名称を「明石山の会」に変更。創立１０周年には子午線沿いに兵庫県を縦走。１５周年には兵庫県の一等三角点登山。今年創立３０周年を記念して山陽自然歩道を歩く企画を現在行っています。会員は３月現在５３名。総合山岳会として、安く、楽しく、安全な登山を目指し、健全な登山の普及と技術の向上発展を図り、かつ登山を通じて会員相互の親睦と心身の向上を図ることを目的とし、毎週１回以上の例会を企画。ハイキング以外に雪山、岩登り、沢登りなど年間通じて幅広く活動しています。例会のリーダー経験者が多いことも会の特徴です。

メラピーク KOBE

メラピーク KOBE は創立２６年になります。ネパールのメラピーク峰に行ったメンバー７名で発足して会員数は現在１８名です。山行内容は雪山とクライミング、縦走を中心に行なってきました。体力と技術が必要な山行が多いため入会すると夏山、クライミング、雪山の初級教育を受けるのが原則になっています。今は一年中新人の教育をしていますが指導する会員が自分の山行もあわせて追求するのは現役世代にとっては小さくない負担です。創立会員の高齢化によって働く現役世代が会運営を担っていますが仕事が忙しく思うように山に行けないのが大きな悩みです。それでも山行を休んでいる会員は少なくほとんどの人が山に行っています。そういう意味では山に打ち込む気風があると言えます。体力がいる山行は若い人でなくてはならず、そうすると暇のない現役世代が中心になるので少ない休暇と時間を効率よく活用して山に行く努力を続けています。

やまぼうし

兵庫県連盟女性委員会の構成メンバーにより、こどもが生まれても山に登り続けたいとの思いで、2年間の準備期間を経て、1981年12月19日「親子ハイキングクラブ」が結成され、およそ10年余り、親子で山の自然を満喫しました。こども達が成長し親だけの山行を取り組むようになり、1993年12月12日名称を「やまぼうし」と変更して今日にいたります。

やまぼうし創立当初は、働く女性会員が多く、仕事・家事・育児と忙しく、月１回の例会山行を取り組むのがやっとでした。

親子ハイク結成当初から、登山愛好者と手をつなぐ、安全登山をめざす、緑の番人として自然保護に取り組むなど、労山の趣意書の理念を会活動の基本に明記しました。それは、やまぼうしの会活動にも受け継がれています。初めは受け身だった会員も現在は自分のできることで会運営に携わり、山行においても自立した登山者を目指す努力をしています。「六甲山からアルプスへ」夢は大きく、年間70を超える例会を取組み、ウロウロ隊・しっかり歩き隊の両輪で、楽しく、安全に自然とかかわることを心がけています。

はりま山岳会

北摂山の会

北摂山の会は、労山の空白地であった北摂地域に労山としての山岳会を作ろうと、当時、武庫労山に所属していた北摂地域在住の６人が中心になって、約半年の準備期間を経て、2000年９月に誕生しました。当初１０人の会員でスタートしましたが、一昨年１５周年を迎え、現在４４人の会員で活動しています。会員数は増えたり減ったりで、大きな発展ははかれていませんが、会員教育と一般の方々に事故のない安全な登山を普及することを目的に、登山教室に重点を置いて取り組んでいます。　「雪山入門セミナー」は創立１年目から取り組んでおり、今冬で１７回を迎えました。

また他に「夏山登山セミナー」と「山で事故を起こさないためのハイキング教室」を隔年で実施しています。現在の会員はこれらの教室を通じて入会された方が多く、教室の取り組みは会の発展のために大きな役割を果たしています。　北摂の山と地域を活動のフィールドとすることを基本にしていますが、、クリーンハイク（清掃ハイク）は中山や大岩ヶ岳、大峰山など北摂の山域で行っています。会員の居住地も宝塚や川西、三田、また、大阪府下の池田、箕面、豊中、豊能など北摂地域在住者が多いのも特徴です。

北摂山の会は、近郊の日帰りハイキングからアルプス方面の雪山縦走まで総合的な山行が実践できる会づくりと共に、会の中で登山技術だけではなく自立した登山者として各々の会員が人間的にも成長できることをめざしています。なかなか難しい課題ですが、仲間との友情を大切にして頑張っていきたいと思っています。

地球クラブ

高御位山遊会

2000年７月に会創立に向けて初級夏山教室を中学時代の同窓生を中心に開催することになった。同窓生、友人関係を中心に「初級夏山教室のご案内」を配布した結果１２名の受講生で教室を開いた。その後、終了山行に８名が白山に参加、このメンバーを中心に仮称「高御位会」から、第１回例会を１０月８日（日）に実施、会の名称も「高御位山遊会」ときまり、１４名の会員でスタート、月１回、高御位山をホームグランドに例会を行ってきており、現在も第１日曜日を「高御位例会」（２０１７年８月から第２日曜日に代わる予定）として取り組んでいる。

①会報の発行

2000年１２月には「高御位山遊会・会報NO. １」の発行に至り、2005年９月の５５号から、会報の体裁を大きく変え「高御位」という新しい会報名を得て、新たな編集体制を確立、以来2017年５月で１９４号の発行となっている。

②「初めての山歩き教室」

高御位山遊会の設立は「初級夏山教室」から始まり、毎年実施してきており、現在、この教室は１年ごとに播磨地区の高砂加古川、加西加東、姫路を巡っており、今年2017年は加西加東地区で行っている。

③高御位例会は会活動の原点

2000年１０月以来、毎月１回の「高御位例会」を開き、定例行事として会員全員の出席を呼び掛けている。開催場所は原則として高砂市の「市の池公園・みどりの相談所研修室」で行っている。ミーティング終了後は高御位山縦走路の清掃登山「高御位山からゴミを一掃する運動」を東西のコースに分けて実施している。

④今後の高御位山遊会の運営について

会員の年齢構成から平均年齢の高齢化は避けて通れない現状がある。基本的には毎年行ってきている「初めての山歩き教室」からの入会者を迎えることによって、平均年齢の現状維持が保たれているのが現状である。

年齢を重ねても健康で文化的な生活を維持する場所として高御位山遊会の存在意義があるし、山歩きを通して健康年齢を重ねられることを会運営の軸に据え、今後も会活動を進めていく予定である。

ハイキングクラブカメ２００３

ＨＣカメ０３は２００３年の６月に誕生しました。

会員すべて視覚障害者という全国でも珍しいクラブ。

兵庫労山の皆さんの仲間の一員として迎えられたことは非常にうれしく感謝しています。

発足後１３年間多くの方にサポートとして参加してくださり、ありがとうございます。

発足当時から比べ会員数も減りメンバーも変わり、発足当時から残っているのは二人になりました。何とか視覚障害者の若い方にも入っていただき、名前の通り会が長く続くことを祈るばかりです。

そして山に登り多くの思い出を作ってもらいたいと考えています。

私も兵庫労山の多くの方と知り合い、多くの山に連れて行って貰い、大きな喜びとたくさんのオモイデという財産を作らせて貰いました。

これからもいろいろとお世話になると思いますがご支援宜しくお願いします。

ハイキングクラブはりま

≪山を楽しみ、仲間を楽しむ≫

2003年8月10日、加東市社町の三草山に25名が参加して本会の初例会がスタートした。「自分の行きたい山にリーダーとなって案内する」を山行の基本とし、当初は会則もなくシンプルな運営を旨としてきました。

その後会則を整備し、現在、15周年を前にして会員数54名（事実上の休会8名）、平均年齢68歳となっています。会員の高齢化等により、例会参加者数の減少、参加メンバーの固定化等の問題が生じています。このため会発足以来、初めての試みとして「会員交流会」を本年3月に開催し、抱える問題の解決策を探るとともに、様々な意見交換を通して、会員間のコミュニケーションを図りました。今後も自由に意見交換のできる会運営を心がけたいと思います。

労山は「安心安全な登山」を最大の目標としており、今後も事故のない山行を目指します。また、労山の自然保護活動である清掃登山に呼応して、地元の美しい山々を後世に残していくために、その役割を果たして行きます。

ハイキングクラブレディバード

山の会ささやま

２０１０年６月に山の会ささやは創設されましたが、準備段階で丹波山遊会（兵庫労山所属）が山の会ささやま（仮称）に合流しました。６月２０日の第１回総会で正式に承認され「山の会ささやま」が誕生しました。丹有地区（篠山市･丹波市･三田市･神戸市北区）を活動拠点として、地元密着型の会運営を行って、今年で８年になりました。

現在会員数は５０名を行ったり来たりしていているのが現状で、安定して５０名をなかなか確保できておりません。また、平均年齢も６５才を超えています。

２０１４年度から、篠山市役所（商工観光課）からの依頼により、慶佐次氏の著書「兵庫丹波の山　下」に掲載されている篠山市内の山域４２コースを１年掛けて調査を行い「篠山市登山道マップ」という形になりました。現在もコースの状況補完と季節の花ビューポイント等の最新情報の発信のため「登山道再調査」として継続して行っています。２０１５年度からは、丹波市にある丹波の森公苑が主催する、小学生を対象にした講座で山の登り体験があり、小学生の山登りサポートを行っています。

銀行のロビー・公共施設などで山の写真展を３～４ヶ月に１回開催しています。

神戸山スキークラブ

神戸山スキークラブは、2010 年 10 月に山スキーを主たる目的に設立された新しいクラブです。ゲレンデスキーだけではなく大自然の非圧雪パウダースノーを滑りたいスキーヤー、冬山登山の登り下りの手段としての山スキーを利用する登山者など目的はさまざまです。シールを付けたスキーで雪山を自ら登り、自然のままの斜面をスキーで滑降することで、この上ない充実した山行を行うことができます。

例年 11 月の立山や年末年始の白馬方面の初滑りから開始し、１、２月のパウダースノー山行、４月以降の残雪期のザラメ雪の春スキーまで、約半年間山スキーを堪能しています。時には、北海道や東北方面に遠征することもあります。オフシーズンは、夏山登山や岩登り、サイクリングなどメンバー各自の志向で楽しんでいます。

冬山は雪崩や滑落など命にかかわる危険と隣り合わせであり、知識や技能を高めることでリスクを最小限にして、安全で楽しい山スキーを目指しています。

神戸クライマーズクラブ

２０１３年６月の梅雨の合間の良き日、現会長と大ボスが遠路はるばる姫路まで出向いて下さって３人で御着の岩場でクライミングをしました。その後マックスバリュでお疲れ様会を行い、今後について話し合いました。当会が誕生したのはまさにその時でした。

それから間もなく４年が経過しようとしています。３人で始めた会は増減を経て、現在１４名（＋休会者１名）で活動しています。

当初は経験者が少なくて山行の幅をあまり広げることができませんでしたが、一昨年の総会での大ボスの「クライミング例会を始めよう」との鶴の一声でクライミングを定期的に行うようになりました。昨年には初心者を対象にしたアルパイン教室を実施し、修了山行として雪彦山で受講生と講師がつるべで登りました。その時の受講生の中から積雪期のバリエーションを目指す者も出てきて、少しずつ山行の幅が広がっています。

アルパインは一般登山よりも更にリスクが高い山登りです。今後もアルパインを進めていくにあたり、基本に忠実に取り組んでいきたいと考えています。

神戸ハム＆ハイキングクラブ

兵庫労山５０周年記念行事について

兵庫県勤労者山岳連盟
理事長　吉谷隆男

「現在の仲間・過去の仲間や会の成長を共に祝い将来の発展を目指すものにする」を基本的な考えで「エベレスト登頂者の渡邊玉枝氏講演会」、「労山の森づくり」、「氷ノ山集中登山大会」、「山本正嘉氏記念講演」、「記念式典」、「４０周年記念誌発行」と盛大に祝った結成４０周年から１０年が過ぎました。

私が兵庫労山所属の須磨勤労者山岳会に入会したのは「六甲山からゴミを一掃する運動」が始まった１９７８年でした。思い起こせば２３才の若者だった自分にとって当時労山は青春そのものでした。仕事が終わればなにも考えず会の事務所へ向かうのが日常であり、夜遅くまで機関誌「山っ子」作りや山行活動や会活動、大袈裟ですが個人の生き方まで真剣に話していました。仲間たちとの山行や会活動など楽しかった思い出、辛く苦しかった思い出など色々なことが思い起こされます。自分にとっては、兵庫労山５０周年は自分自身の登山人生を振り返る上で大きなものが有ります。しかし今兵庫労山を頑張って支えている仲間にとって５０周年をどう受け止めているだろうと思うと悩みました。常任理事会で討議を重ね、ただ５０年を振り返るだけではなく、今頑張っている兵庫の会や仲間が輝ける取組みにしようと決定しました。

六甲山集中登山集会（２０１５年１０月４日「摩耶山・掬星台」）

「六甲山からゴミを一掃する運動」（兵庫の山からゴミを一掃する運動）をはじめ「芦屋ロックガーデンの自然を守る運動」、「武庫川渓谷をダム建設から守る運動」、「労山の森づくり」など自然環境改善運動を行ってきました。私たち兵庫労山のホームグランドである六甲山に集まり「兵庫の山からゴミを一掃する運動」も３５年を超え、これまでの５０年の自然保護運動を次代に繋ぐために企画しました。

六甲山の各コースから６００人を超える兵庫の仲間が摩耶山「掬星台」に集まり、１３時から県連自然保護委員長が司会を務め始まりました。喜多会長の主催者挨拶の後、来賓として環境省自然環境局自然保護官「小舟美帆氏」、神戸市建設局公園砂防部森林整備事務所々長「重藤洋一氏」、神戸市環境局環境保全部地球環境課々長「横山民夫氏」、２１世紀の武庫川を考える会「小川嘉憲氏」を迎え御挨拶と各方面からメッセージ・祝電を頂きました。

基調報告を村上副会長が発表し、山の会からの報告として神戸中央山の会から「森守ボランティア活動」、西宮明昭山の会から「東お多福山草原再生活動」の活動紹介を行いました。

その他に自ら作られた詩の朗読「おもて六甲登山道」「六甲全山縦走路」（柴田悦子氏／西宮明昭山の会）やさくらんぼ合唱団のコーラス「やまびこ」により山の歌を合唱して六甲山集中登山集会を終えました。

「おもて六甲登山道」

１）ロックガーデン　登ってみよう　ざらざら岩が　よくすべる
　風吹岩で　一息つけば　眼下に広がる　街と海　頂上目指し　さあ出発だ
２）寒天山道　登ってみよう　みどりにかこまれ　風かおる
　むかし寒天　つくった場所だ　まったけ・きのこも　出ただろう　楽なやまみち　ルンルン進む
３）一軒茶屋から　下ってみよう　七曲がりは　ちょっと難所だ

冬は凍って　ツルツルすべる　夏はスヅメバチ　かくれてる　土樋割過ぎれば　バス停ちかい
４）むかしの男は　健脚ぞろい　深江から有馬へ　４～５時間
かついだ魚は　重かろう　帰りも六甲　越えたかな　いにしえを　偲んで歩く魚屋道

「六甲全山縦走路」

１）須磨浦（須磨浦）出発　夜明け前　旗振山（はたふりやま）で　朝日をおがむ
菊水・鍋蓋（鍋蓋）・市が原　ぼつぼつ足が気にかかる　一度はやりたい　全縦を
２）摩耶（まや）への登りは　天狗道　覚悟して　急登だ
ゆっくり　しっかり　一歩ずつ　追いぬかれても　気にしない　全縦難関　クリアーしたぞ
３）山頂ルートは　アスファルト　くるま気にして　ひたすら歩く
記念碑台を　横に見て　遠くに浮かぶ　船の影　さあ　あと半分　がんばるぞ
４）急な下りで　気はぬけない　夕闇せまる　縦走路　気持ちは急く（せく）が　足重い
やっと到着　塩尾寺（えんぺいじ）　何とか完走　よかったな

氷ノ山登山集会（２０１６年５月２８日～２９日）

５０年の歴史を振り返る上で１９７１年から１９８５年まで１４年間続いた「氷ノ山の自然を守る登山大会」を忘れることはできません。当時「県自然保護協会但馬支部」「関宮の自然を守る会」「兵庫県勤労者山岳連盟」により「氷ノ山の自然を守る会」が結成されました。「大幹線林道」と言う名のスカイライン建設から貴重な自然を守り、「地元の生活に役立つ林道」を目指して運動を展開。８５,０００人の署名を集め県に提出し、４回の設計変更を経て１９８８年「瀞川～氷ノ山」線が当初の計画より低い位置で地元に役立つ林道として開通する。 兵庫労山は、事務局を務め「氷ノ山の自然を守る登山大会」を１８回（最盛期は８００名を超えた）行う。兵庫労山の自然保護運動の基盤となった運動で全国労山自然保護運動の牽引力となった運動でした。

兵庫労山の発展の礎となった「兵庫労山の父なる山とも言える氷ノ山」において兵庫労山結成５０周年を祝い、各会と兵庫労山の今後の発展を誓い合う場とすることを目的に取組みました。この登山集会は、各会の交流を深めるための大交流会と氷ノ山の自然に親しむ氷ノ山登山、ハチ高原での散策や山菜採り、そして安全登山を誓い合うために「１９９７年１月に氷ノ山に逝った５人の仲間の慰霊登山を主な内容として取組みました。播磨、神戸、西宮、尼崎からマイクロバス２台と大型バス４台で出発、マイカーによる参加もあり３７労山から約２７０人の参加を得て盛大に開催することができました。登山大会や遭難捜索活動当時に大変お世話になった民宿を中心に宿泊場所とし、大交流会場横の運動場跡でのテント泊になりました。

２８日の昼から行われた慰霊登山には約８０人が参加し氷ノ山国際スキー場近くのオオダニにある仲間の慰霊碑にお参りし、安全登山を誓いました。ちなみに事前に地元但馬労山と南但山歩会の仲間が慰霊碑までのルートの草刈りを行ってくれました。別れて行われたハチ高原散策と山菜採りには約１６０人が参加しました。夕暮れから奈良尾の廃校した小学校の体育館で行なった大交流会では、兵庫労山結成時の創立会員をはじめ古参会員の健在な姿が見られ、若い元気な会員を交えて老若男女が大集合した兵庫労山５０年の歴史を象徴するような顔ぶれが

集まりました。歴代会長の面々での菰樽の鏡開きでスタートし、民宿の人の協力を得て用意したオードブルや民宿から差し入れの豚汁、アルコール飲料を飲んで食べての大宴会となりました。参加された会と仲間の自己紹介やアトラクションとして各会会員による「クロマチックハーモニカ演奏」「ニ胡演奏」「三線演奏」「マジック」が披露され、会場は大いに盛り上がりました。最後に山の歌の大合唱で締めくくり仲間の交流を深めることができました。

翌２９日は、各会パーティー毎を中心に「小豆ころがし」「東尾根」「大段ヶ平」ルートから氷ノ山登山を行いました。午後から頂上付近は霧雨交じりの風が吹く天気になりましたが、事故も無く氷ノ山の自然を満喫することができました。氷ノ山登山とは別にハチ高原への散策と山菜採りにも２０人程が楽しみました。大交流会で確認した兵庫労山の仲間としての連帯を大事にしながら、これからの会づくりと会活動を実践して行きましょう。

「記念式典」（２０１６年１０月２日　シーサイドホテル舞子ビラ神戸「六甲の間」）

兵庫労山初めての大きなホテルを利用しての記念式典は、全国連盟から西本武志会長、兵庫県山岳連盟から中西研一会長、新スポーツ連盟兵庫から青木公一会長と和田利男理事長、近畿ブロックの滋賀県連から友永芳和理事長、兵庫県連歴代会長の原水章行氏、大学肇氏、玉井進吾郎氏、理事長の清郷雅秋氏を来賓に迎えて１４０人の参加を得て盛大に始まりました。第一部の記念講演として「兵庫県設立の頃と未来の兵庫労山」をテーマに県連初代会長を務めて頂いた原水章行氏（西宮明昭山の会前会長）に話をして頂いた。第二部では基調報告「兵庫労山５０年の歩み」を私が報告しました。兵庫労山在籍４０年以上の会員及び会推薦の会活動功労者へ感謝状と記念品の授与を喜多会長から送って頂きました。第三部の懇親会準備の間、参加者全員で明石大橋を望む庭園で記念撮影をしました。

第三部は兵庫県連名誉会長の大学肇氏に乾杯の音頭を取って頂き始めました。来賓及び各会の出席者からのスピーチ、手品とギター演奏のアトラクションなど食事と歓談を交えて楽しく過ごしました。最後に労山の方が作詞作曲された「山は心のふるさと」を出席者全員で大合唱しました。村上副会長の閉会の挨拶で終わりました。式場内に「四季の山岳写真」パネル（平野恭一氏 / 西神戸山の会）と「新旧山岳映画ポスター」の展示（神戸港山の会）を協力を得て行いました。

兵庫労山在籍 40 年以上の会員

会　　名	氏　名（在籍年数）				
尼崎山の会	中山義明 (46 年)	山本久雄 (45 年)			
神戸勤労者山岳会	赤松　暁 (50 年)	井上徳治 (47 年)	水野隆幸 (41 年)	南山房啓 (41 年)	水野玲子 (40 年)
須磨勤労者山岳会	岩佐正敏 (42 年)				
神戸カタツムリの会	伊井正一 (48 年)	大野光清 (48 年)	河島紀美子(48 年)	石谷美代 (46 年)	池田忠重 (40 年)
甲山勤労者山岳会	古本和子 (52 年)	古本洋郎 (50 年)	田渕創生 (50 年)	廣本勝治 (43 年)	渕上勝之 (41 年)
山の会かじか	小路常男 (44 年)	野津秋雄 (44 年)	谷川洋子 (41 年)	井上幸隆 (40 年)	大槻康夫 (40 年)
	小路利江 (40 年)				
神戸みなと勤労者山岳会	高見正幸 (44 年)	古塚時司 (42 年)			
武庫勤労者山岳会	谷岡正雄 (48 年)	山本慎吾 (43 年)	谷岡美由生(43 年)	井上和夫 (43 年)	井上義之 (42 年)
	山本昭子 (42 年)	田中健喜 (41 年)	大迫厚子 (40 年)		
伊丹勤労者山岳会	小林　明 (44 年)	喜多伸介 (44 年)	田中幸夫 (40 年)		
西神戸山の会	横山晴朗 (50 年)	大学　肇 (50 年)	勝　元浩 (47 年)	金増和男 (46 年)	金増実枝子(46 年)
	平野恭一 (42 年)	大学道子 (41 年)	寺内　進 (41 年)		
山岳会ホワイトピーク	冨安規矩雄(44 年)	福隅さち子 (43 年)	岩佐隆子 (41 年)		
摩耶山友会	西堂栄子 (42 年)	池田　均 (42 年)	足立年男 (42 年)	川原田俊 (41 年)	池田裕子 (41 年)
	中井　護 (41 年)				

西宮明昭山の会	原水章行（53 年）	原水直子（51 年）	坂本晴美（41 年）	向井 基雄（41 年）	長岡照子（40 年）
	向井千恵子(40 年）				
但馬勤労者山岳会	川原田堅一(42 年）	湊崎　博（40 年）			
西宮北口勤労者山岳会	坂西美和子(50 年）	吉田昭洋（50 年）	吉田文子（50 年）	佐藤敬子（48 年）	中川勝治（48 年）
	加藤正二（47 年）	佐藤宏道（47 年）	堀谷秀雄（44 年）	菅家清明（42 年）	池田幸雄（41 年）
	井上陽子（41 年）	高田由紀美(40 年）			
神戸港山の会	辰野悦生（40 年）	矢野　修（40 年）			
宝塚山の会	赤司堅三郎(45 年）				
山の会アルプ	西川　勉（46 年）	西川利子（46 年）	近藤奈美子(40 年）	近藤義夫（40 年）	
垂水ハイキングクラブ	高岡悦夫（44 年）				
メラ・ピーク KOBE	玉井進吾郎(50 年）				
やまぼうし	加納公子（48 年）	久保克美（42 年）	玉井多津（42 年）		
山の会ささやま	西嶋喜好（43 年）				

会活動功労者推薦の会員

会　　名	氏　名			会　　名	氏　名		
西宮勤労者山岳会	廣瀬義秋	畑中　明	久保　昭	神戸中央山の会	守橋隆義	村上悦朗	大森康宏
神戸勤労者山岳会	大川　肇			神戸ﾊｲｷﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ	鈴木康夫	中村富子	角本邦子
アルペン芦山	川村隆志			メラ・ピーク KOBE	有元 眞理子		
山の会かじか	田中　巌	堤　隆三	宮崎信敏	やまぼうし	木戸麗子	森井妙子	中南博子
神戸みなと勤労者山岳会	村上　忍	高橋佳子	田中朋芳	北摂山の会	藤原美子	藤原稔彦	岡　正
東灘勤労者山岳会	吉田武一			高御位山遊会	砂川延也	貝塚文夫	渡邊俊明
但馬勤労者山岳会	宮垣由紀夫	佐藤信子	新免節子	HCはりま	西川義弘		
垂水勤労者山岳会	藤原　昭	河野通三	福島和美	HCレディーバード	伊藤和子	千鳥勝子	杉　礼子
神戸港山の会	岡本　強	小北晃裕	粕谷正人	神戸ｸﾗｲﾏｰｽﾞｸﾗﾌﾞ	上田勝則	能勢麻紀子	岸岡　寛
淡路勤労者山岳会	東山三津子	浪花恵美子	前林良和				
尼崎ハイキングクラブ	大村俊一	平尾一三	工藤泰弘				

その他の行事

１）第５０回六甲全山縦走記念大会（２０１６年３月１３日）

※東日本大震災で被災された東北の労山の仲間３３人を招待して全縦をともに行い交流を深めました。

※前日、東日本大震災報告会＆岩手・宮城・福島と兵庫労山の交流会

※「阪神淡路・東日本大震災鎮魂・復興祈願」を祈念し、六甲山頂に鎮魂碑を建立

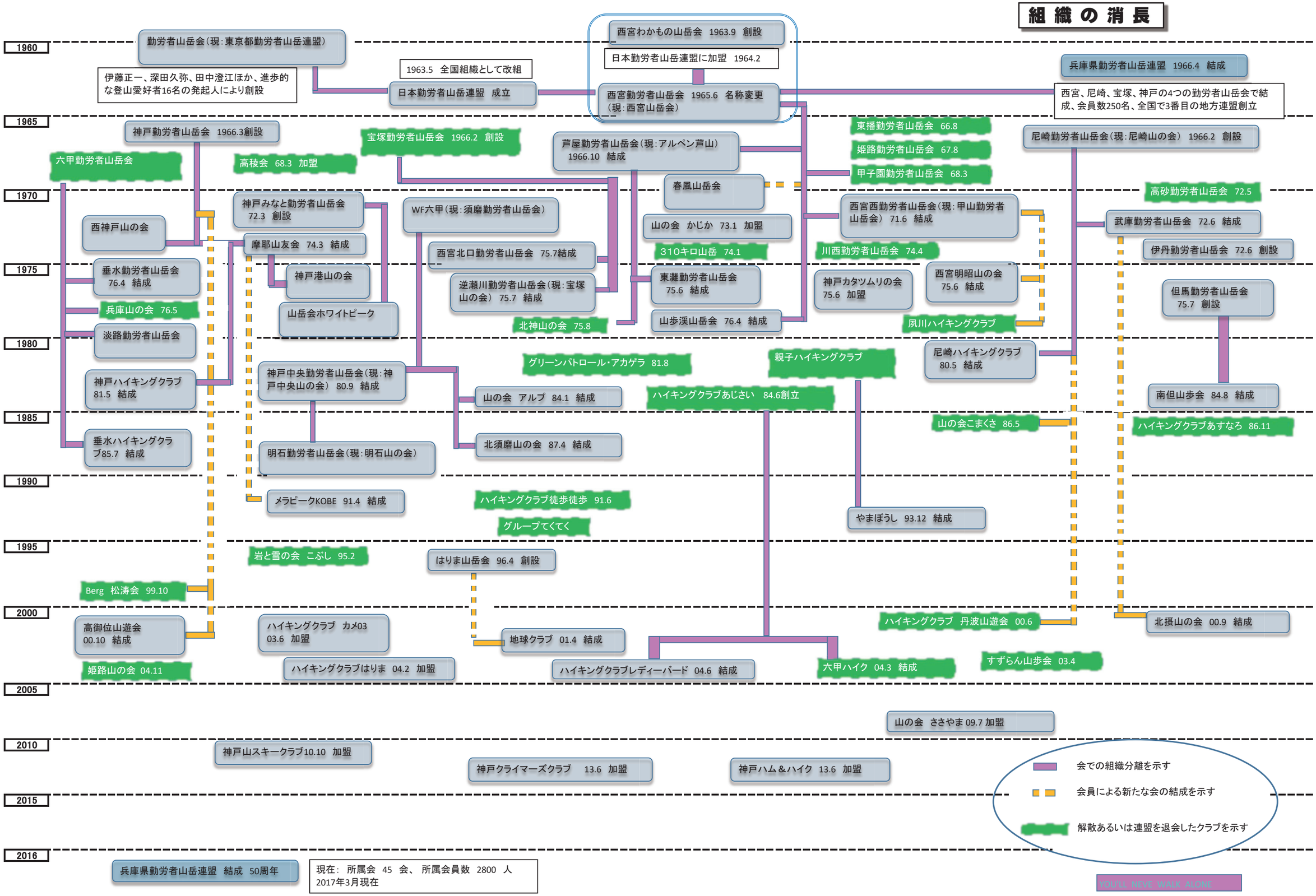
２）兵庫県連･大阪府連５０周年合同「西ネパールヒマラヤ登山」（２０１７年８月～９月）

※現在６人の仲間が参加してトレーニング、準備に頑張っています。

３）５０周年記念品として「日本てぬぐい」の作成

４）５０周年記念誌の発行

組織の消長


1960
1965
1970
1975
1980
1985
1990
1995
2000
2005
2010
2015
2016
勤労者山岳会（現：東京都勤労者山岳連盟）
伊藤正一、深田久弥、田中澄江ほか、進歩的な登山愛好者16名の発起人により創設
1963.5 全国組織として改組
日本勤労者山岳連盟 成立
西宮わかもの山岳会 1963.9 創設
日本勤労者山岳連盟に加盟 1964.2
西宮勤労者山岳会 1965.6 名称変更（現：西宮山岳会）
兵庫県勤労者山岳連盟 1966.4 結成
西宮、尼崎、宝塚、神戸の4つの勤労者山岳会で結成、会員数250名、全国で3番目の地方連盟創立
神戸勤労者山岳会 1966.3創設
六甲勤労者山岳会
高稜会 68.3 加盟
宝塚勤労者山岳会 1966.2 創設
芦屋勤労者山岳会（現：アルペン芦山） 1966.10 結成
東播勤労者山岳会 66.8
姫路勤労者山岳会 67.8
甲子園勤労者山岳会 68.3
尼崎勤労者山岳会（現：尼崎山の会） 1966.2 創設
春風山岳会
高砂勤労者山岳会 72.5
神戸みなと勤労者山岳会 72.3 創設
WF六甲（現：須磨勤労者山岳会）
西宮西勤労者山岳会（現：甲山勤労者山岳会） 71.6 結成
西神戸山の会
山の会 かじか 73.1 加盟
武庫勤労者山岳会 72.6 結成
摩耶山友会 74.3 結成
西宮北口勤労者山岳会 75.7結成
310キロ山岳 74.1
川西勤労者山岳会 74.4
伊丹勤労者山岳会 72.6 創設
垂水勤労者山岳会 76.4 結成
神戸港山の会
逆瀬川勤労者山岳会（現：宝塚山の会） 75.7 結成
東灘勤労者山岳会 75.6 結成
神戸カタツムリの会 75.6 加盟
西宮明昭山の会 75.6 結成
但馬勤労者山岳会 75.7 創設
兵庫山の会 76.5
山岳会ホワイトピーク
北神山の会 75.8
山歩渓山岳会 76.4 結成
夙川ハイキングクラブ
淡路勤労者山岳会
グリーンパトロール・アカゲラ 81.8
親子ハイキングクラブ
尼崎ハイキングクラブ 80.5 結成
神戸ハイキングクラブ 81.5 結成
神戸中央勤労者山岳会（現：神戸中央山の会） 80.9 結成
山の会 アルプ 84.1 結成
ハイキングクラブあじさい 84.6創立
南但山歩会 84.8 結成
山の会こまくさ 86.5
ハイキングクラブあすなろ 86.11
垂水ハイキングクラブ85.7 結成
明石勤労者山岳会（現：明石山の会）
北須磨山の会 87.4 結成
メラピークKOBE 91.4 結成
ハイキングクラブ徒歩徒歩 91.6
グループてくてく
やまぼうし 93.12 結成
岩と雪の会 こぶし 95.2
はりま山岳会 96.4 創設
Berg 松涛会 99.10
高御位山遊会 00.10 結成
ハイキングクラブ カメ03 03.6 加盟
地球クラブ 01.4 結成
ハイキングクラブ 丹波山遊会 00.6
北摂山の会 00.9 結成
姫路山の会 04.11
ハイキングクラブはりま 04.2 加盟
ハイキングクラブレディーバード 04.6 結成
六甲ハイク 04.3 結成
すずらん山歩会 03.4
山の会 ささやま 09.7 加盟
神戸山スキークラブ10.10 加盟
神戸クライマーズクラブ 13.6 加盟
神戸ハム＆ハイク 13.6 加盟
会での組織分離を示す
会員による新たな会の結成を示す
解散あるいは連盟を退会したクラブを示す
兵庫県勤労者山岳連盟 結成 50周年
現在： 所属会 45 会、 所属会員数 2800 人
2017年3月現在
YOU'LL NEVE WALK ALONE

兵庫県勤労者山岳連盟 50 年史表

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
1960 S35	5.12	勲労者山岳会（のち東京勤労者山岳会）結成	1 4 7 9	日米新安保条約締結、反対闘争激化 全日本山岳連盟と、日本山岳会が日本山岳協会を組織し、日本体育協会に加盟 建設省地理調査所が国土地理院に改称 谷川岳一の倉沢衝立岩で、宙つり遺体を自衛隊が銃撃で収容
1961 S36			5 6 9 11	日地出版から中村勲編「六甲・摩耶」発行 京都勤労者山岳会結成 芦有ドライブウエイ開通/芦屋川右岸道・左岸道できる 福岡勤労者山岳会結成
1962 S37			1 8	吉屋弘ら、「屏風岩東壁～前穂東壁～D フェース」を連続登攀 堀江謙一、太平洋単独横断に成功
1963 S38	7.7 9.7 .15	日本勤労者山岳連盟創設 西宮わかもの山岳会（のち西宮勤労者山岳会）結成。会員 37 人 西宮わかもの山岳会、機関紙「山だより」創刊号発行	1 6 7 10 ・	愛知大学山岳部、薬師岳東南尾根に迷いこみ、13 人全員が遭難死 黒四ダム完工／第 1 回全国青年スポーツ祭典 伊藤正一「勤労者登山教室」刊行/大西雄一著「六甲山ハイキング」刊行 奥又白池に中畠新道が開通 芦屋，高座滝に藤木九三「ＲＣＣ発祥の地」の記念レリーフできる/阪神電鉄カンツリーハウス、に人Ｉスキー場開設
1964 S39	2.	西宮わかもの山岳会、日本勤労者山岳連盟に加盟	2 5 7 8 10	第 1 回青年スキーまつり 中国隊がシシャパンマ初登頂 深田久弥著「日本百名山」刊行 名神高速全線開通 富士山測候所ルーダー運用開始/東海道新幹線開業/東京オリンピック開催
1965 S40	6.26 8.26 -29	西宮わかもの山岳会第3回臨時総会で「西宮勤労者山岳会」に改称 第 1 回全国登山祭典&第 2 回全国連盟総会。西宮労山 4 人参加、32 都道府県 91	2 4 11	米軍ベトナム北爆開始 ベ平連発足 全国連盟第 1 回登山学校(富士山、コーチ吉屋弘、西宮労山参加／新日本

50年史表

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
		人、正式加盟 4 会（上高地）		体育連盟結成
	9.3	西宮労山第 3 回定期総会で「西宮 200 人、兵庫県 700 人」の会員目標をかかげる。会員 80 人になる	12	「谷川岳遭難防止条例」制定
1966 S41	2.15 .26 3.20 .21 4.16 .17 5.14 .22 7.31 8.4 9.1 10.7 11.4-6 12.4	尼崎勤労者山岳会結成 宝塚勤労者山岳会結成 神戸勤労者山岳会結成 神戸労山結成記念登山 4 会 50 人 兵庫県勤労者山岳連盟結成総会（西宮市中央公民館） 250 人 兵庫県連結成記念登山（摩耶山）47 人 「労山兵庫県連」創刊 第 1 回岩登り教室（蓬莱峡）25 人 第 1 回県登山祭典、峰山高原で 姫路労山結成、8 人。（汀会館） 伊丹労山結成 芦屋労山結成、西宮労山より分離独立（打出浜会館） 第 1 回登山バス大山。鳥取砂丘 82 人 第 1 回六甲全山縦走大会　62 人参加（完走 53 人)。サポート 20 人	2 6 8 11 12	「金目若山」誌創刊/東京都連結成/大阪府連結成 ビートルズ来日 第 2 回全国登山祭典(白馬岳)。兵庫から 37 人絡都道府県 450 人参加 全国連盟第 1 回登山学校(富士山)、兵庫から 10 人参加、コーチ吉屋弘 富山県劉届出条例制定
1967 S42	2.10 -12 3.15 .18-21 5.14 .21 6.18 7.13 10.7 -10 11.25 -3.20 12.3	第 1 回スキーバス（神鍋）189 人 第 2 回定期総会（神戸市勤労会館） 県連第 1 回冬山学校（氷ノ山)、7 人 ロッククライミング講習会、14 人 第 2 回県登山祭典（六甲カンツリーハウス）150 人 登山学校（神戸勤労会館）　受講者 21 人 山の映画会（夙川公民館）全日本品連隊「未踏の氷壁」「氷壁」（原作・井上靖)、130 人 姫路労山結成 第 2 回登山ハス、御嶽山、91 人 中級リーダーの養成登山学校（六甲の岩場、氷ノ山）受講者約 25 人 第 2 回六甲全山縦走大会	1 2 5 6 7 8	谷川岳遭難防止条例施行 東京都勤労者山岳連盟・新日本体育連盟編「働くものの登山」刊行 社団法人日本山岳協会設立 新体連兵庫県本部結成 中央アルプス駒ケ岳ロープウエイ開通／立山千寿ケ原に文部省登山研修所開設／今井通若山美子、マッターホルン北壁女性初登攀 第 3 回全国登山祭典、500 人(白馬岳)／松本深志高校生、集団登山中の西穂高岳独標で落雷に遭い死亡 11 人、重軽傷 I3 人
1968 S43	1.26 -28	第 2 回スキーバス(但馬：葛畑・別宮スキー場)	1 5	近畿ブロック結成 富山県のイタイイタイ病が公害病認

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	3.2-3	第 3 回定期総会（西宮勤労会館）「20 労山 1000 名を達成しよう」		定
	.19	甲子園勤労者山岳会結成、西宮労山からの分離独立（1976. 4 解散）	8	多田繁次「兵庫の山やま」刊行／全国第 4 回勤労者登山祭典（針ノ木岳～鹿島槍ケ岳）、県連から 46 人、全体 600 人
	7～8	第 9 回世界平和友好祭(ソフィア)に茂原勉会長を派遣	9	水俣病を公害認定
	9.19	六甲労山結成（県職員会館）	10	各会機関紙担当者会議（西宮勤労会館）
	9.・	県連合同月見キャンプ（百丈河原）182 人	12	第 9 次南極観測隊雪上車で南極点到達
	11.20	藤木九三氏講演会（西宮労働会館） 70 人		
	12.1	第 3 回六甲全山縦走大会		
	.・	県連登山学校冬山訓練「画稿富岳」8 人		
1969 S44	6.22	第 4 回定期総会（芦屋市精道幼稚園）／県連「遭難対策規定」制定	3	愛知県連結成
	9.28	春風公民館講座により春風山岳会結成(講師西宮労山会員)	5	第 1 回全国登山研究集会（名古屋）
	11.22	第 1 回学習交流会(天上寺宿坊)「労山運動の意義」	7	アポロ 11 号人類初の月面着陸
	-23			
	12.7	第 4 回六甲全山縦走大会（雨天中止）		
1970 S45	2.6-8	別宮スキーバス 162 人（3 台）	4	全国連盟第 7 回船会。兵庫代議員 16 人、オブザーバー20 人
	5.8	四谷竜胤氏講演会（西宮勤労会館）全体 93 人	6	日米安保条約自動延長
	.31	第 3 回兵庫県勤労者登山祭典（六甲最高峰集中）	7	藤木九三死去（83 歳）／/環境庁発足／
	6.4	安保学習会	・	神戸市、神戸登山研修所を王子公園内に開設、兵庫県山岳連盟が運営を委託される
	.28	第 5 回定期総会（西宮市鳴尾公民館）		
	12.6	第 5 回六甲全山縦走大会		
	12.7	「兵庫県から公害をなくす市民連絡会議」に加入		
1971 S46	1.24	登山学校「地域開発と自然破壊と公害」	7	第 3 回全国登山研究集会(兵庫)
	5.	郷土の山自然破壊総点検／六甲山系の河川の水質検査を実施、以後毎年実施		
	6.13	西宮労山を 2 分割、西宮西労山（のち甲山労山）結成		
	6.	第 6 回定期総会　婦人部発足		
	7	（～72 年 5）六甲：17 河川水質一斉調査		
	10	「氷ノ山大幹線林道建設反対声明」を発表		
	11.19-	第 1 回雪上技術講習会（立山）		

1968 年 11 月 20 日の講演会にて
藤木九三氏 81 歳

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	23 12.5	第6回六甲全山縦走大会		
1972 S47	3.9 5.21 .28 6.3 .25 10.22 123 .17	神財労山（のち神戸みなと労山）加盟 六甲の自然を守る統一行動 高砂労山結成 伊丹労山結成 尼崎労山2分割により武庫労山結成 第7回定期総会（芦屋市青少年センター） 第7回六甲全山縦走大会 WV六甲（のち須磨労山）加盟	3 5 7 9	富士山御殿場口で、低体温症と雪崩により18人死亡 沖縄復帰 田中角栄内閣「日本列島改造論」を唱える 但馬の自然を守る登山大会／日中国交正常化
1973 S48	1.27 2.25 3.17 -21 5.20 9.1 10.8 12.2	山の会かじか加盟 氷ノ山の自然を守る会に加盟。会長多田繁次氏 第1回女子雪上技術講習会（氷ノ山） 第1回氷ノ山を守る登山大会兼第6回県登山祭典（1990年の第18回まで続く） 第1回女性会員のつどい 県連岩登り合宿中神戸労山の女性1人前穂北尾根で滑落死 第8回六甲全山縦走大会	1 2 3 9 	ベトナム和平協定 多田繁次氏、関宮町民、県連などで県の大幹線林道計画に反対の「氷ノ山の自然を守る会」を結成 水俣病裁判患者勝訴 第1回公害なくせ県民大集会 ゴロゴロ岳の劔谷森林気象観測所（人間灯台）閉鎖。所員池野良之助山を降りる
1974 S49	1.25 3.10 4.21 5. .26 6.2 .9 .6 7.21 11- 12.1 12.5	310キロ山岳会加盟 神戸労山3分割決定（神戸労山・西神戸山の会・摩耶山 川西労山結成 明石労山加盟（1982.7解散） 西神戸山の会結成 第1期リーダー学校開校 （新）神戸労山結成 摩耶山友会結成 西日本活動者会議 芦屋労山の男性1人武庫川で徒渉訓練中水死 第1回県連登山学校 第9回六甲全山縦走大会／「人権・教育・地方自治を守る県民大集会」（八鹿町）に12会41人参加 第1期リーダー学校開講	3 6 8 10	第11回全国連盟総会で、総会および全国登山研究集会の隔年開催を決定・遭対基金発足を決める 国土庁発足 堀江謙一単独無寄港世界一周航海に成功 第1回全国ハイキングクラブ研究交流集会
1975	1.30	第10回臨時総会。新体連加盟、連盟費値	3	神戸市議会「核艦船入港拒否決議」

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
S50		上げ、10 周年記念海外登山決定	4	サイゴン陥落、アメリカ・南ベトナム敗北
	4.21	川西労山結成（1982.5 解散）	5	日本女子登山隊 田部井淳子がエベレスト女性初登攀
	6.1	西宮明昭山の会結成、甲山労山より分離独立	6	全国連盟「登山研究」創刊号発行
		神戸港山の会結成、摩耶山友会より分離独立	9	通産省が登山用ロープの安全基準を設け、メーカーに表示を義務づける
	.22	神戸かたつむりの会加盟	・	神戸市主催「六甲全山縦走市民大会始まる」参加者 1560 人
	.23	東灘労山結成、芦屋労山より分離独立	・	記念碑台に県立六甲山自然保護センター開設
	7.13	但馬労山結成	・	まやケーフルと六甲ケーブル合併、「六甲摩耶ケーフル」となる
	.15	宝塚労山を 2 分割、西宮北口労山結成		
	.29	逆瀬川労山（のち宝塚山の会）結成		
	7.25	武庫労山の男性 1 人槍ヶ岳北鎌尾根で滑落死亡		
	8.29	北神山の会結成・加盟		
		講演会「戦後日本女性の歩んだ道」講師 伊藤康子（日本福祉大学講師）17 会 90 人		
		講演会「母性保護と優生保護法改悪」講師 森下温子（高教組婦人部長）14 会 84 人		
	11.8-9	第 11 回定期総会（西宮勤労会館）		
	.30	第 10 回六甲全山縦走大会		
1976 S51	2.28-	第 1 回組織学校	1	摩耶山天上寺災禍により炎上
	3.19	県連第 3 期リーダー学校修了山行中、奥穂南ロバの耳で男性 1 人伝体温症により死亡、4 人手足に凍傷	2	全国連盟総会。新趣意書（案）提案
	4.25	西宮労山 2 分割により山歩渓 1u 再会結成	6	第 1 回女性と登山についての全国討論集会：主管兵庫県連
	.26	垂水労山結成、六甲労山より分割独立	7	全国連盟「第 1 回女性会員の集い」主管：兵庫県連（西宮勤労会館）／兵障協 大台ケ原バスハイク（49 人、指導員 9 人）
	5.12	兵庫山の会結成、六甲男山より分割独立（1982・7 解散）	8	有珠山噴火
	7.31	第 1 回「冒険学校」群馬県葉留日野山荘	9	多田繁次「兵庫の山やま」（総集編）刊行
	-8.5	58 人	10	第 1 回全国自然保護集会／日山協、中ア宝剣岳天狗岩で第 1 回岩登り大会
	11.6-7	第 12 回定期総会		
	.28	第 11 回六甲全山縦走大会		
	12.25	ネパールヒマラヤ。トレツキング		
	-1.8			
1977 S52	3.26	第 1 回春の冒険学校		
	-28			
	4.	氷ノ山調査山行、住民意識調査を行う		
	5.12	氷ノ山の自然を守る登山大会 1000 人		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	-22 5. 7-11 9.28 12.4	 山岳会ホワイトピーク結成、神戸みなと労山より分離独立／尼崎労山の男性 1 人、鹿島槍ケ岳赤岩尾根で滑落死 ヒマラヤ:ナノダデヴィに遠征するが、登頂失敗 第 2 回経験交流集会 第 12 回六甲全山縦走大会		
1978 S53	1.13 5.20 -21 7.6 10.22 12.3	講演会「働くってどういうこと」講師　柴田悦子 17 会 77 人 第 6 回氷ノ山を守る登山大会 1000 人 第 13 回定期船会 「六甲山からコミを一掃する運動」開始(8 戸除く毎月)、現在に至る 第 13 回六甲全山縦走大会	2.11 3 3-4 5 8	集 13 回全国連盟総会で新趣意書決定 滋賀県連滋賀山友会五竜岳で 4 人遭難死／神戸市・大西雄一編「徳川道」発刊 植村直巳が犬ぞりで 4.27 北極点に到達、単独初／5～8 月犬ぞり単独行でグリーンランド縦断 成田空港運用開始 日中平和友好条約調印
1979 S54	5.20 8. 9. 11. 12.2 ・	第 7 回氷ノ山を守る登山大会 l000 人 県連女性登山隊ヒマラヤ CB12 峰に登頂成功。吉本満隊長（須磨労山）ら 5 人」 淡路労山結成／県連会員 1900 人に発展 姫路労山再建 集 14 回六甲全山縦走大会 会員 2000 人を突破	3 9 10	スリーマイル島原発事故 大台 : 大杉谷の吊り橋切断事故で「山と友の会」会員 2 人死亡 御嶽山噴火
1980 S55	1 2.1 5-6 5.18 .24-25 6.20 9.6 12.7	兵庫県による「芦屋ロックガーデン階段化計画」反対運動にとりくみ、翌年署名 16 万筆を国へ提出 『「あゝ野麦峠」からみた今の生活』講師山本茂美(「あゝ野麦峠」などの作家) 県連パーティー、ヒマラヤ : シブリン峰初登頂 尼崎ハイキングクラブ結成、尼崎労山より分離独立（尼崎勤労福祉会館） 第 8 回氷ノ山を守る登山大会 1000 人 県連・インド警察合同隊、インドヒマラヤ・シブリン峰（6543m）初登頂 神戸中央労山結成、須磨労山より分離独立 第 15 回六甲全山縦走大会	6 8 10 ・ ・	南アルプス林道開通 富士山吉田大沢の岩雪崩で 12 人死亡、重軽傷 32 人 ブナを植える会結成(会長　山本吉之助) 住吉谷の本庄橋、出水のため崩壊 神戸市、葺合区・生田区を合区、中央区を新設 8 区制とする

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
1981 S56	3. 5.16 .23-24 6.20 8.・ 12.6 .19 ・	ロックガーデン署名 10 万人を突破、著名登山家・文化人ら 300 人も反対表明。環境庁・兵庫県、計画の撤回を表明 神戸ハイキングクラブ結成、神戸労山より分離独立 第 9 回氷ノ山を守る登山大会 第 17 回定期総会／.29 ロックガーデン階段化反対署名 16 万人分を環境庁長官に提出 「グリーンパトロール・アカゲラ」加盟（82 年 4 月脱退） 集 l6 回六甲全山縦走大会 親子ハイキングクラブ結成（1982.4 脱退） 「芦谷川の自然を守る運動」はじまる	4 5 11	女子登攀クラブ田部井淳子らが、シシャパンマに登頂、日本人女性初 北海道山岳連盟隊が、中国ミニヤ・コンカで遭難、8 人死亡 第 6 回全国登山研究集会（大阪市）
1982 S57	1.23 2.20 3.15 .21 .24-25 5.2 6.12 -13 7.・ 10.31 -11 11.・ 12.5	「北神戸の自然と文化を守る会」結成され県連加盟、芦谷川を守る運動を始める 講演会「ネパールの自然と人々」講師岩村 昇氏 28 会 280 人 臨時総会 神戸みなと労山八ヶ岳：赤岳で雪崩遭難、11 人死亡 神戸みなと労山追悼会に 550 人列席 八ヶ岳遭難者追悼会／須磨労山ヒマラヤ：チュールウエスト峰（6630m）登頂／.22-23 氷ノ山の自然を守る登山大会／.31・31 川西労山解散 県連第 19 回定期総会（西宮勤労会館） 明石労山解散 県連・ネパール合同登山隊ヒマラヤ：キャリオルン峰に全員初登頂 兵庫山の会解散 第 17 回六甲全山縦走大会	4 ・ 4-5	近畿ブロック学習父流集会 神月市背山散歩道「山ろくリポンの道」30 ㎞完成 市川山岳会ミニヤ・コンカの 2 名が山頂を目指したが遭難、松田宏也は奇跡的な生還を果たし、I 名は死亡
1983 S58	3.8 4.3 5.14 -15	芦谷川の自然を守る署名 5 万 8 千人分を、神戸市に提出 第 1 回六甲山全山縦走タイムトライアル（1996 年第 14 回大会まで実施） 第 5 回女性会員の集い（神戸市清月荘在） 12 会 239 人 「自分らしい生き方を捜して」講師①高山智津子②早船ちよ（作家）	6 7 10 ・	東北新幹線開通 全国連盟「ハイキング懇談会」、初のハイキング集会（名古屋・愛知県スポーツ会館） 大峰登山祭典（全国登山祭典）／三宅島大噴火 六甲山北有料道路開通

50年史表

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	5.21 -22 6.11 -12 8.15 10.2 .16 10- 12.4	第 11 回氷ノ山の自然を守る登山大会 第 20 回定期総会（西宮市若竹生活文化会館） 西宮労山男性 1 人、五竜岳遠見尾根で転落死 第 1 回各会対抗駅伝大会（1994 年の第 10 回まで実施） 六甲清掃 5 周年記念頂上集会、400 人 第 1 回主婦のためのハイキング講座 第 18 回六甲全山縦走大会	・	「21 世紀に残したい日本の自然 100 選」および「21 世紀に引きつぎたい日本の名勝」に再度公園が選定される
1984 S59	1.29 4-6 5.19 -20 6. 7. 8.11 9.30 12.2	山の会アルプ、須磨労山から分離独立 ジュニアリーダー講座 第 12 回氷ノ山の自然を守る登山大会 第 21 回定期総会、「女性会員の集い」を「女性委員会」に名称変更 神戸みなと労山、会員 17 名で平和行進の県内通し行進を達成 西宮北口労山の男性 1 人、南ア：赤石沢で転落死 甲山労山の男性 1 人、東六甲縦走路で急性心不全により死亡 第 19 回六甲全山縦走大会	2 3 10	植村直巳、マッキンリーの冬季単独登頂成功後行方不明 経験交流集会 第 9 回全国登山研究集会
1985 S60	1.1 4. 5.10 -11 .19 6.8 7.4 7.・ 8.15 .29 10.8	宝塚山の会の 4 人、鹿島槍ヶ岳で雪崩遭難、全員死亡。9 月まで捜索活動、全員収容 甲子園労山解散 組織交流会 氷ノ山の自然を守る登山大会 第 1 回兵庫の山々清掃登山、対象を県内の山々に広げる 垂水ハイキンククラブ結成、垂水労山から分離独立 平和行進に県連として初参加／26 視力障がい者を介助して富士登山 （～8.4）宝塚山の会の遭難 4 遺体発見 ハイキング・クラブ交流会 インドヒマラヤ：ケダルナート峰で須磨	8 9 11 ・	日航ジャンボ機墜落事故 労山フェスティバル：妙高高原池の平 上越新幹線開通 摩耶山天上寺金堂再建される

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
		労山の男性１人雪崩遭難死		
	11.10	宝塚山の会遭難者追悼会を行う		
	.24	県連六甲清掃７周年記念集会、600 人		
	12.1	第 20 回六甲全山縦走大会		
	.12	県連第２回ハイキング交流集会 11 クラブ		
1986 S61	1.18 -19	第 6 回女性会員のつどい「女性の自立と山行を続けるために」講師柴田悦子氏 4 会 118 人	4 5 7	チェルノブイリ原発事故 氷ノ山に多田ケルン建つ 国道 43 号線道路公害判決
	2.・	「クループてくてく」結成（1990.1 脱退）	8	全国連盟「登山時報」創刊
	2-4	第１回労山学校	9	長野県西部地震
	3.15	多田繁次の傘寿を祝う会	10	エベレスト登頂者延べ 200 人を突破
	4-5	第１回ハイキンクリーダー学校	11	伊豆大島三原山噴火
	4.25 -6.1	ハイキング入門講座（4 回）		 多田ケルンの建った日
	5.11	「山の会こまくさ」結成（1992 年脱退）		
	.17-18	第 14 回氷ノ山登山大会：多田ケルン除幕式参加		
	6.14 -15	県連第 23 回定期絵会		
	8.30 -31	峰山高原で肢体障がい者登山		
	11.・	「ハイキンククラブあすなろ」加盟		
	12.7	第 21 回六甲全山縦走大会		
	.31	神戸労山の男性１人、西穂高岳独標付近で遭難、低体温症で死去		
1987 S62	2.22	県連学習交流集会（県立総合体育館）	3	南氷洋商業捕鯨終幕
	4.26	北須磨山の会結成、須磨労山から分離独立	4	国鉄分割民営化、JR グループ発足／瀬戸大橋開通
	5.23 -24	第 15 回氷ノ山登山大会 280 人(悪天)	11	第 10 回全国登山研究集会（岡山県玉野市）／神戸市、布引公園整備とロープウエイ建造計画発表
	6.・	第 24 回定期総会		
	10.4	六甲清掃 100 回記念集会を最高峰で開く。703 人		
	.・	県連事務所、芦屋から神戸へ移転		
	12.6	第 22 回六甲全山縦走大会		
	.・	明石労山結成		
1988 S63	1.30 -31	第 7 回女性会員のつどい講演「人間らしさを見つめて」講師 高山智津子（児童文学研究者）4 会延べ 160 人	1	全国ハイキング交流集会（群馬県伊香保町）
	2.22	北神戸の自然を守る会、屏風谷をゴルフ	10	広域基幹林道「氷ノ山線」開通

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
		場開発から守る署名 2 万筆達成、神戸市に提出		
	5.22	第 16 回氷ノ山の自然を守る登山大会		
	6.11	第 25 回定期総会（神戸市民生協会館）		
	-12			
	8-9	ハイキング・リーダー講習会		
	9.・	県連結成 25 周年記念登山隊ヒマラヤ・ガンゴトリ 3 峰登頂		
	10.2	「布引市ヶ原の自然を守る会」結成集会、553 人		
	.・	六甲山からゴミを一掃する運動 10 周年記念集会議演・和田蔵次 60 人		
	12.4	第 23 回六甲全山縦走大会		
	12.22	拡大代表者会議		
	.・	視力障がい者登山 4 回に分けて六甲全縦		
1989 S64 H 元	2.5	布引公園問題で中央区全戸ビラ配布	4	全国ハイキンク活動者会議（主管・兵庫県連）26 連盟 135 人。初の全国的な会議／消費税導入（３%）
	.26	神戸の自然を考えるシンポジウム 200 人	6	中国天安門事件
	.3.16	ハイキングクラブ代表者会議	10	立山で中高年者 10 人が遭難、低体温症により 8 人死亡
	5.14	布引公園工事抗議集会（市ケ原）&グリーンデモ 440 人		
	.20-21	第 17 回氷ノ山の自然を守る登山大会 260 人		
	6.10	第 26 回定期総会		
	-11			
	7～	第 2 回全国高所登山学校に参加の、山歩渓山岳会 西村牧代 ヒマラヤ：ハンテングリ峰（7010m）に登頂		
	12.3	第 24 回六甲全山縦走大会		
1990 H02	1.27	第 8 回女性会員の集い「山よりよく生きる」講師 田部井淳子、参加者延べ 451 人	8	労山創立 30 周年記念：ソ連・天山山脈トレック
	5.19	第 18 回氷ノ山の自然を守る登山大会(最終回)	9	全国自然保護集会大崩集会
	-20		10	ブナ・原生林・自然を守る全国集会県連から 10 人参加（盛岡市）／ドイツ再統一
	6.9	県連第 27 回定期船会（西宮勤労会館）	11	近畿ブロック女性交流登山「氷ノ山」
	.6	講演会「オリンピックと自然保護」講師和田蔵次 （長野県自然保護協会理事長）		
	10.3	県連創立 25 周年記念海外登山ヒマラヤ：ガンメゴトリⅡ峰（6577m）登頂、CL 三宅静夫ら 10 人		
	.7	布引・市ケ原を守る会 2 周年記念集会		
	12.3	第 25 回六甲全山縦走大会		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
1991 H03	1.8 -3.17 .27 2.・ 3.10 4.13 .16 5.18 -19 6.7 .8-9 7.2 8～9 8.30 -10.27 9～10 10.19 10.24 -11.7 .26-27 11.7 -14 12.1	第5回ハイキングリーダー講座 女性委員会講演会「本当の豊かさとは何か」講師 寿岳章子氏 19会103人 第1回「雪山ハイキング」講座 女性委員会・岡山：若杉原生林バスハイク 県連結成25周年記念レセプション メラピーク KOBE 加盟、神戸労山から分離独立 県連結成 25 周年記念第1回兵庫の山々一斉登山 ハイキングクラフ徒歩徒歩結成 県連第 28 回定期総会（神戸市民生協会館） 県連創立 25 周年記念講演会「自然を語る」講師 白旗史郎 神戸中央労山ヒマラヤ：ムルキラ峰登頂 第6 回ハイキングリーダー講座 メラピーク KOBE、ヒマラヤ：メラピーク峰登頂 布引・市ヶ原の自然を守る会 3 周年記念集会 女性委員会：婦人のためのハイキング講座 女性委員会：御在所岳バスハイク 無線講座 第26回六甲全山縦走大会	1 1～4 2 5 6 10 11	多田繁次著「なつかしの山」出版記念祝賀会 湾岸戦争勃発 ソ連邦消滅 全国ハイキンク交流集会、45会271人(伊豆長岡温泉) 雲仙普賢岳噴火、火砕流による死者行方不明者 43人 長谷川恒男ら、フンザのウルタールⅡ峰で遭難死 新神戸ロープウエイ(神戸瓠船)できる 「森と自然を守る全国集会」(奈良教育大学) 960人
1992 H04	1.16 -3.1 .26 .16-3.1 2.4 -3-8 3.・ 6.13 -14	無線資格試験受検講座 女性会員の集い「いきいきと山をめざして」パネラ一柴田悦子 113人 第1回アマチェア無線技師受験講座 雪上ハイキンク講座 ロッククライミング研究会 第29回県連定期総会（のじきく会館）	5 9 11 12	国連平和維持活動（PKO）法案成立、自衛隊海外派遣へ 第 1 回全国ハイキング・リーダー学校／毛利 衛スペースシャトルで宇宙へ 近畿ブロック交流山行 116 人／全国経験交流集会 31 連盟 276 人 気圧の単位が「mb（ミリバール）」から「hPa（ヘクトパスカル）」に変更

50年史表

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	8.2-4	立山障がい者登山		
	10.20	布引・市ヶ原の自然を守る会 4 周年記念集会／ゴルフ場問題意見広告に参加		
	12.6	第 27 回六甲全山縦走大会		
1993 H05	1.30	安全委員会議演会「私の歩いてきた道」講師 坂倉登喜子(エーデルワイスクラブ会長)143 人	3	六甲山頂の米軍通信基地が返還される
	3.14	組織担当者交流集会	7	北海道南西沖地震、奥尻島で死者 181 人
	4.3	近畿ブロック搬出法講習会	9	全国第 20 回ハイキング担当者会議（大阪）
	6.13	県連第 30 回定期総会	11	「森と自然を守る全国集会」（東京）
	-14		12	尾久島・白神山地が世界自然遺産に登録
	7.・	平和行進大学肇会長が県内通し行進機関紙「兵庫労山」が毎月定期発行に		
	8.27	第 8 回ハイキンクリーダー講座		
	-10.17			
	9.6	第 3 回アマチュア無線資格受験講座		
	-11.3			
	.18	各会リーダー交流会		
	10.3	六甲ゴミ一掃 15 周年記念集会 608 人		
	.21	第 11 回主婦のためのハイキンク講座		
	-11.11			
	11.5	ゴミ一掃 15 周年記念講演「自然とゴミ文化」講師 都鳥孝氏		
	12.5	第 28 回六甲全山縦走大会		
1994 H06	1.10	第 5 回アマチュア無線運用講座	5	近畿ブロック自然保護交流山行(氷ノ山)
	-30		9	関西国際空港開港
	.14-16	第 1 回近畿ブロック雪崩講習会	10	全国女性交流集会（白山）
	.30	第 10 回女性会員のつどい「生きる楽しさを見つめて」講師 渡辺一枝（作家） 98 人	11	全国山行活動交流集会（東京）、助言者 原水章行・北村亮爾（西宮明昭）／大江健三郎ノーベル文学賞を受賞
	3.14	組織担当者交流会		
	4.16	第 2 回ハイキング交流集会（三田）		
	-17			
	.23	機関紙交流集会		
	5.28	救急法搬出法講習会		
	-29			
	6.11	県連第 3l 回定期総会		
	-12			
	.12	無線委員会設置		
	7.・	ロッククライミング研究会、ヨセミテク		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
		ライミング		
	8.14	明石労山男性１ 人、扇ノ山で転落死		
	.26	ハイキングリーダー学校		
	-10.23			
	9.5	アマチュア無線技師受験講座		
	-11.3			
	9～10	メラピーク K0BE、ヒマラヤ：トゥクチェチピーク登頂		
	12.4	第 29 回六甲全山縦走大会		
1995 H07	1.10	第 6 回アマチュア無線運用講座	1.17	阪神淡路大震災
	-30		3	地下鉄サリン事件
	.17	阪神淡路大震災によりほとんどの活動が休止。会員 3 人死亡、18 会が連務所を失う。全国から大きく支援。	10	第 8 回森と自然を守る全国シンポジューム徳島大会／第 4 回全国女性交流集会（白山）
	2.12	「岩と雪の会こぶし」結成	11	全国山行活動交流集会（東京）
	3～	六甲山系 40 コースの登山道点検活動		
	6.18	県連第 32 回定期総会		
	7.1	県連救助隊発足		
	8.26	第 9 回ハイキングリーダー学校		
	-10.23			
	9.5	第 4 回アマチュア無線受験講座		
	-11.3			
	.23-24	金国ハイキング交流集会		
	10.21	氷ノ山一斉登山		
	-22			
	11.27	第 5 回アマチュア無線受験講座		
	-1.28			
	12.3	第 30 回六甲全山縦走（東コースを設定）		
1996 H08	1.10	第 6 回アマチュア無線運用講座	9	小西欧継、マナスル登頂後に行方不明
	-30			
	2.4	第 5 回雪山ハイキング講座	11	全国研究交流集会「大型クラブの特徴と目指す方向」（東京）
	.18	第 11 回女性会員のつどい「生きることが楽しくなる山歩き・山登り」講師 小倉薫子（山の会「ハイジ」主宰者）24 会 93 人		
	3.25	第 7 回アマチュア無線運用講座		
	-4.14			
	.・	第 14 回タイムトライアル（最終回）		
	4.1	はりま山岳会結成		
	4.12	第 1 回中級ハイキングリーダー講座		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	-4.14			
	.14	県連結成 30 周年記念祝賀会（西宮アサヒビールゲストハウス）118 人		
	4～8	第 1 回中級ハイキング・リーダー講座開催		
	6.9	第 33 回定期総会		
	9.29	ハイキングリーダー講座		
	-30			
	12.1	第 31 回六甲全山縦走大会		
1997 H09	1.26	淡路労山男性 3 人と南但山歩会男性 2 人のパーティー氷ノ山で遭難。全員死亡（4 月まで捜索）	4	兵庫視力障がい者の「生活と権利を守る会」結成 30 周年記念登山（三瓶山）／秋田新幹線・長野新幹線開業／消費税 5%に
	2.6	雪山ハイキング講座	5	大型クラブの西日本研究交流集会
	4.14	県連結成 30 周年祝賀会	9	全国ハイキング交流集会（神奈川県三浦市）
	.29-21	ハイキング交流集会	11	全国ハイキング・シンポジユーム「ハイキングとは何か」（八王子・大学セミナー）
	6.8	第 34 回定期総会	12	京都議定書が採択される
	10.10	西宮明昭山の会の男性 1 人、金剛山で心筋梗塞により死亡		
	12.7	第 32 回六甲全山縦走大会（西コースを追加）		
1998 H10	2.18	第 12 回女性会員のつどい「女性のからだと登山」講師 大神田伊曾美氏 22 会 112 人	5	全国連盟隊（近藤和美隊長ら）8 人、チョモランマ（エベレスト）登頂成功／サッカーくじ法成立
	3～	六甲山系に植樹活動（クリーン&グリーン作戦）	5.19	多田繁次氏死去（92 歳）
	6.14	第 35 回定期総会	8	上高地で群発地震発生
	8.29	六甲河川水質調査	9	全国ハイキング・リーダー学校（日赤滋賀りっとう山荘）
	9～10	はりま山岳会ほか、中国四川省蓮華タ照連山登頂	10	全国登山者自然保護大会・六甲集会（主管：兵庫県連）
	9.16	「武庫川ダム建設中止を求める要望署名 50000 筆」を県知事に提出		
	10.4	六甲清掃 20 周年記念集会（最高峰）743 人、兵庫県知事表彰「くすのき賞」受賞		
	12.6	第 33 回六甲全山縦走大会		
	.10	西宮明昭山の会「地球の風：六甲・摩耶」刊行		
	.19	第 3 回六甲河川水質調査		
1999 H11	5.9	第 1 回武庫川渓谷清掃 350 人	5	マロリー、アーヴィン調査隊員がエベレストでマロリーの遺体発見
	6.6	第 2 回武庫川渓谷清掃	6	全国連盟登山隊パキスタン・ヒマラ
	.13	第 36 回定期総会連盟費の改正案を提案、		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
		100 人を超える大型会の連盟費を軽減		ヤ：ナンガパルバット峰（8125m）登頂成功
	7～	第 1 回インドアクライミングスクール／西宮明昭山の会編「六甲・摩耶」刊行	9	第 13 回全国ハイキング交流集会 42 会 302 人（富山厚生年金休暇センター）／羊蹄山でツアー客 2 人、低体温症により死亡
	9.10	武庫川ダム勉強会	10	第 1 回全国遭難対策研究会（東京オリンピック記念センター）123 人
	10.1	「BERG 松涛会」加盟	11	西日本女性交流集会'99 IN MY ROKKO （主管・兵庫県連）
	11.14	レスキュー講習会		
	.18	野口健講演会（神戸教育会館）		
	12.5	第 34 回六甲全山縦走大会		
2000 H12	1.29	兵庫労山交流会（西宮勤労会館）101 人	3.13	全国連盟 吉屋 弘会長が谷川岳一ノ倉沢で避難死
	2.26	女性交流集会	3	北ア：大日岳で登山研修所主催のリーグー研修に参加の学生 2 名、雪庇崩壊で遭難死
	.・	武庫川ダム環境アセスメントに意見書提出	5	全国連盟講演会「世界の山岳遭難防止に知力をつくして」講師 ピット・シューベルト氏 （毎日新聞オーバルホール）
	3.4-5	ハイキング交流集会	7	全国連盟隊（近藤和美隊長ら 7 人）パキスタン・ヒマラヤ・ナンガパルバット峰（8125m）の無酸素登頂に成功。ヘルマンブールのピッケルを持ち帰る
	.9	事故対策交流会（西宮勤労会館）講師 喜多 亨氏 100 人	9	三宅島噴火。全島避難
	.16-	中級ハイキング講座	11	新スポーツ連盟クライミングコンペ全国大会 開く（兵庫県連主管）
	4～	武庫川ダム建設中止を求める署名活動開始		
	6.10	「ハイキングクラブ丹波山遊会」結成		
	6.11	県連第 37 回定期総会（尼崎労働福祉会館）		
	9.2	北摂山の会結成、武庫労山より分離独立		
	11.7	中級リーダー学校		
	11.23	六甲水質調査		
	12.3	第 35 回六甲全山縦走大会		
2001 H13	1	「兵庫労山のしおり」作成	3	武庫川県民ウォーク
	2	ゴミ一掃活動を年 11 回から 6 回に変更	9	全国ハイキング交流集会（高野山）
	4.21	武庫川県民ウォーク	10	第 7 回障害者全国交流登山西日本集会（船上山）
	5.19	六甲水質調査		
	6.・	県連第 38 回定期総会		
	11.27	女性委員会 講演会「ピッケルをもったおまわりさん」講師 谷口凱夫氏（元富山県警山岳救助隊長）		
	12.2	第 36 回六甲全山縦走大会		
2002 H14	3.・	五竜岳遠見尾根で神戸カタツムリの会の男性 1 人、一酸化ガス中毒死	9	全国ハイキング・リーダー学校（香川・国分寺）／武庫川円卓会議：武庫川シンポジューム
	4.20	自然保護委員会：講演「知的登山」講師 小泉武栄氏		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	.21	ハイキング交流会（摩耶山）		
	6.2	第 5 回武庫川河川敷清掃		
	.9	第 39 回定期総会		
	7.13	西神戸山の会の男性 1 人、愛知川で水死		
	9.19-	第 1 回ハイキングリーダー学校		
	12.1	第 37 回六甲全山縦走大会		
2003 H15	1.19	県連交流集会　33 会 140 名参加	3	イラク戦争勃発
	.・	武庫川ダム反対署名運動 5 万筆達成、収束	9	第 15 回全国ハイキンク交流集会（埼玉・嵐山）
	4.26	自然保護講演会「植物観察入門」講師 夙川短大教授 片山雅男氏／.27 ハイキング交流会	10	第 12 回全国登山者自然保護集会（京都）277 人
	.・	すずらん山歩会結成	12	自衛隊イラク派遣始まる
	6.2	第 5 回武庫川河川敷清掃		
	.9	第 39 回定期総会、新スポーツ連盟加盟を解消し協賛団体となる		
	.・	視力障がい者の会「ハイキングクラブ・かめ 03」結成、加盟		
	7.13	六甲山系水質調査		
	10.5	ゴミ一掃 25 周年記念集会（摩耶山頂）29 会 557 人		
	11.8	女性委員会講演会「山野井妙子さん講演会」講師 山野井妙子氏（登山家・植村直巳賞受賞者）		
	12.7	第 38 回六甲全山縦走大会		
	12.15	武庫川ダム建設反対署名 5 万人を県へ提出		
2004 H16	1.24	大日岳遭難訴訟支援労山の会結成	2	武庫川円卓会議主催「武庫川ダム問題についての国土問題研究会調査報告集会」
	2.1	ハイキンククラブはりま加盟／六甲山系水質調査	3	九州新幹線開業
	.21	自然保護集会「里山問題を考える」講師 木下睦睦男氏 59 人	5	三省堂「日本山名事典」刊行
	3.9	HC あじさいから「六甲ハイク」分離独立	9	ハイキングリーダー学校（奈良）
	4.1	マイクロハス一括手配事業スタート	10	富士山測候所無人化
	.・	「六甲山からゴミを一掃する運動」から「兵庫の山からゴミを～」に変更		
	5.23	メラピーク KOBE の女性 1 人、県連中級 RCS 不動岩で転落死		
	6.5	武庫川河川敷清掃		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	.13	第 41 回定期総会		
	.・	HC あじさい解散により「ハイキングクラブ・レディバード」結成		
	7.28	県連「六甲からゴミ一掃」活動で環境大臣賞受賞		
	9.17	長崎県連と自然保護交流会、諫早湾・雲		
	-18	仙普賢岳へ 12 会 39 人		
	11.13	不動岩で転落死した女性の追悼会		
	.29	組織交流会「会連営の悩み」徹底討論		
	12.5	第 39 回六甲全山縦走大会		
2005 H17	3.5	環境大臣賞受賞祝賀会	4	近畿ブロック搬出講習会
	.12	播磨地区地域別交流会	7	近畿ブロック自然保護交流会／知床が世界自然遺産に登録
	4.24	西宮労山男性 1 人、富士山で滑落死	8	全国連盟隊ガッシャブルムⅠ峰登頂
	5.27	ハイキング安全対策交流会	9	労山フェスタ
	6.5	第 1 回囲碁交流会 22 人	11	全国自然保護集会／尾瀬ラムサール条約湿地に指定される
	.12	第 41 回定期総会		
	8.17	自然保護憲章（案）学習会		
	11.26	女性委員会講演会「山は逃げないけれど年齢は待ってくれない」講師 渡邊玉枝氏（登山家・植村直巳賞受賞者）222 人		
	12.4	第 40 回六甲全山縦走大会		
2006 H18	1.8	第 2 回囲碁交流会		
	.17	西宮地区交流会		
	3.15	県連 40 周年記念植樹／.23 県連 40 周年記念「労山の森づくり」開始／・25 運営委員養成セミナー		
	5.27	県連 40 周年記念「氷ノ山集中登山・記念		
	-28	集会」361 人		
	6.11	第 43 回定期総会		
	7.16	山歩渓山岳会男性 1 人、比良山：ロの深谷で転落死		
	9.24	県連 40 周年記念集会、記念講演 鹿屋体育大学教授 山本正嘉氏（中央労働センター）」181 人		
	10.8	垂水労山女性 1 人、前穂高岳で低体温症で死亡		
	.22	自然植物観察会（羽束山）講師 片山雅男 夙川短大助教授 77 人		
	11.6	遭難対策会議（1）、事故防止に関する非常事態宣言		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	.11-12	県連 40 周年記念「氷ノ山集中登山・記念集会」／・26 武庫労山女性 1 人、六甲西山谷で転落死		
	12.2	遭難対策会議（2）		
2007 H19	3.11	第 41 回六甲全山縦走大会（3 月に変更）	7	新潟県中越沖地震
	.・	但馬労山女性 1 人、転落死	9	全国ハイキング交流集会 in 兵庫（西宮市県立総合体育館）主催：全国連盟、主管：県連、後援：西宮市教育委員会　16 連盟 257 人
	6.10	第 44 回定期総会／創立 40 周年記念誌発行（66 ページ）	10	日本郵政公社民営化
	.・	創立 40 周年記念誌発行		
	7.・	神戸カタツムリの会の女性 1 人、比良山で転落死		
	8.30	第 1 回安全対策会議		
	9.22 -23	クライミング交流会（小豆島）8 会 23 人		
	11.15	第 2 回安全対策代表者会議		
	.17	女性委員会「搬出講習会」（兵庫県立体育館）21 会 82 人		
2008 H20	1～5	地域別交流会議	4	近畿ブロック搬出講習会（比良山岳センター）　289 人
	2.25	西宮地区交流会	9	全国ハイキングリーダー学校（蒜山高原）
	.・	講演会「夢と希望ある登山のために」講師 西本武志元全国連盟理事長	11	全国登山者自然保護集会（神奈川県秦野市）
	3.9	第 42 回六甲全山縦走大会		
	.22	講演会「武庫川は自然の宝庫」講師 法西浩氏（武庫川流域委員、小児科医、日本鱗翅学会会員）50 人		
	5.24	西宮地区交流登山：御津アルプス 9 会 58 人		
	6.1	武庫川河川敷清掃 29 会 263 人		
	.15	県連第 44 回定期総会（西宮勤労会館）／姫路山の会・ハイキングクラブ徒歩徒歩、岩と雪の会 脱退		
	.28	労山の森　下草刈り		
	7.12	植樹地　下草別り		
	8.10	「千種川清流」観察会		
	9.6 -1.22	地域別交流会議／・27 労山の森下草刈り		
	10.5	清掃登山 30 周年記念集会（修法ヶ原）533 人／・23 ハイキングリーダー講座「安全確保」（西宮勤労会館）28 人		
	.25-26	クライミング交流会（小豆島）40 人／・		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
		26 ハイキングリーダー講座「セルフレスキュー」30 人（芦屋）		
	11.29	女性委員会：搬出講習会（コミスタ神戸）103 人		
2009 H21	1.22	西宮地区交流会	3	近畿ブロック搬出講習会（百丈岩・神戸セミナー）225 人
	2.20	雪山交流会（大山）23 人／・28 労山の	9	全国ハイキング交流集会（唐沢鉱泉）74 人（兵庫 6 人）
	-22	森、補植 30 本	10	全国救助隊交流会（立山）95 人、兵庫 11 人／全国登山者自然保護担当者会議（大町市）兵庫 4 人
	3.8	第 43 回六甲全山縦走大会		
	.14	第 1 回スノーシュー・バスハイク（兎和野高原）22 人		
	4.30	「ハイキンククラブ徒歩徒歩」解散／姫路山の会解散		
	5.24	西宮地区交流バスハイク「御津アルプス」9 会 58 人		
	.30	講演会「登山の歴史と未来」講師 全国連盟理事長斎藤義孝氏（神戸市勤労会館）		
	6.14	第 46 回定期総会（神戸市生涯学習支援センター）		
	.30	「丹波山遊会」解散、「山の会ささやま」に合流		
	7.4	機関紙担当者会議 15 会 26 人		
	8.・	武庫労山の男性 1 人、前穂高岳で転落死		
	8.31	講演会「登山のための運動生理学」講師 岡本秋麿（神戸市勤労会館）163 人		
	9.12	女性委員会：応急手当講習会（コミスタ神戸）112 人		
	.29	代表者会議		
	11.12	安全対策責任者会議		
	12.・	涸沢岳西尾根で東灘労山の男性 2 人低体温症で凍死、1 人滑落死、9 月まで捜索		
2010 H22	1.24	武庫川ウォーク	4	近畿ブロック搬出講習会、273 人（兵庫 9 人）
	.25	代表者会議	8	全国連盟会長 西本武志「十五年戦争下の登山」刊行
	.30	武庫労山事故報告会	11	近畿ブロック自然保護担当者交流会（京都：吉田山）
	2.17	「労山自然保護憲章」説明会 40 人		
	2.27	第 2 回スノーシュー・バスハイク（兎和野高原）65 人		
	-28			
	3.6	地域別交流会		
	～5.24			
	3.14	第 44 回六甲全山縦走大会		
	4.9	代表者会議／・14 阪神間 会・クラブ交		

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
		流会 6.13 第 47 回定期総会（芦屋市民センター） .25 講演会「未来を切り開く登山活動」講師 滝上肇全国連盟副会長・大阪府連元理事長（あすてっぷ KOBE） 7.4 機関紙担当者会議 8.・ 神戸労山の男性 1 人、蓮川ヌタハラ谷で転落死 9.13 女性委員会会議／.23 女性委員会講演会「体カアップ」 .27 安全対策責任者会議 10.25 安全対策責任者会議／. 28 代表者会議 11.20 武廣川ウォーク①／.26 阪神地区交流会 12.12 ビバーク体験講習会／.18 武庫川ウォーク①		
2011 H23	1.20 3.13 5.22 .12 9.25 10.1 11.23 .・	拡大代表者会議 第 45 回六甲全山縦走大会（大会で東日本大震災カンパ実施） 機関紙交流会 第 48 回定期総会（葺合文化センター）／.25 労山の森下草刈り 労山の森、下草刈り 六甲山河川の水質検査／.4 代表者会議 講習会「山での応急手当」（六甲道勤労市民センター） 西宮明昭山の会の女性 1 人、転落死	3 4 9 11	東日本大震災。福島第一原発事故 立山、御前沢・叙岳三ノ窓・小窓雪渓が氷河と認定される／第 30 回全国連盟定期総会。「個人会員制」を決定 第 18 回全国ハイキング交流集会（伊豆長岡温泉） 近畿ブロック自然保護担当者交流会（高見山）
2012 H24	1.21 .・ .・ 3.11 3.20 4.12 4.21 6.5 6.10	第 1 回囲碁大会（元町北会館）36 人／.28 自然保護 ＢＥＲＧ松濤会の男性 1 人、不動岩で墜落死 講演会「ブナ枯れの実情と対策」講師 主原憲司氏（昆虫学者） 第 46 回六甲全山縦走大会 労山の森第 4 回植樹 100 本 代表者会議 講演会「良い町には良い川がある」講師 中川学氏（国土問題研究所長） 40 人 武庫川河川敷清掃 281 人 第 49 回定期総会（葺合文化センター）「50 周年を会員 3000 人で迎えよう」	5	渡邊玉枝 73 歳、エベレスト女性最高齢記録

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	6.23	労山の森下草刈り		
	10.5	六甲河川の水質検査		
	10.20	労山の森下草刈り		
	11.17	講習会「山での応急手当」112 人		
2013 H25	1.29	自然保護部主催「武庫川渓谷廃線跡を自然・文化に」 41 人	5	三浦雄一郎 80 歳でエベレスト登頂（世界最高齢記録）
	2.9	第 2 回囲碁大会 38 人（元町北会館）	6	富士山が世界文化遺産に登録
	2.16	労山の森つくり、補植	11	近畿ブロック「サポーター養成」講習会／全国自然保護担当者会議「野生動物との共存」23 都道府県 37 人
	3.9	講演会「道迷いを防ぐ」120 人		
	3.10	第 47 回六甲全山縦走大会		
	3.29	講演会「山の気象」（県民会館）		
	6.9	第 50 回定期総会（葺合文化センター）		
	.22	労山の森つくり　下草別り		
	7.28	自然観察「神戸：太山寺観音山・ウバメガシ」		
	10.7	六甲河川の水質検査		
	11.9 -10	経験交流集会（神戸市立自然の家） 33 会 122 人		
	.17	西宮山岳会創立 50 周年記念式典（西宮勤労会館）約 100 人		
2014 H26	1.25	第 3 回囲碁大会（元町北会館）	4	消費税改定 8%
	3.9	第 48 回六甲全山縦走大会	5	改正祝日法「山の日」成立。2016 年から 8 月 11 日が祝日に
	.・	北ア遠見尾根で神戸山スキークラブの男性 1 人、雪崩により死亡		集団的自衛権の行使容認を閣議決定
	6.2	武庫川河川敷清掃 269 人		第 19 回全国ハイキング交流集会（岐阜長良川スポーツプラザ)
	6.8	第 51 回定期総会（葺合文化センター）「3000 人をめざす活動は多様な登山の発展と理解者を増やす活動」		御嶽山噴火。57 人死亡、6 人不明
	10.6	女性委員会交流山行		近畿ブロック女性担当者交流集会（摩耶山神戸市立自然の家）兵庫 l2 人、近畿 20 人、全国 2 人／近畿ブロック交流自然観察ハイク、兵庫 9 人 近畿 I6 人
	11.12	六甲河川の水質検査		
	.6-7	西大台自然観察会 7 人		
	.14	武庫川廃線跡トンネル・バラスト修復		
	12.13	ビバーク訓練（市ヶ原）20 人		岐阜県で「山岳遭難防止条例」施行
	.20	阪神地区交流会（西宮勤労会館）		
2015 H27	1.24	第 4 回囲碁大会（元町北会館）	4	ネパールで M4,7 の地震発生、8500 人以上が犠牲。エヴェレスト・ベースキャンプ付近で雪崩のため 18 人が死亡
	2.27 -28	美方高原スノーシュー・バスハイク（尼崎市立美方高原自然の家）16 会 31 人		
	3.8	第 49 回六甲全山縦走大会、I364 人		
	5.24	救助隊セルフレスキュー講習会（神戸登山研修所）23 人	5	ロ永良部島噴火、全島民避難
			6	全国遭難対策研究集会（神戸セミナ

年	月.日	県連関係	月	全国連盟・登山界・社会その他
	6.・ .7 .13 .14 7.12 8.・ 10.3～ 11.7 10.4 11.7 .12	「山筋ゴーゴー体操認定試験」6 人 武庫川統一清掃 26 会 235 人 「成ケ島」自然観察会、18 人 第 52 回定期総会（葺合文化センター）「不断に会員拡大を追求することが、会の存続と将来の発展に」 六甲西山谷沢搬出訓練 11 人 西神戸山の会 横山晴朗氏「はりま低山ハイキング」刊行 第 6 回地図・コンパス講座 山での応急手当「航空隊と考える山岳救助」講師 消防司令補 上原拓真 結成 50 周年記念「六甲山集中登山集会」（摩耶山掬星台） 講演会「航空隊と考える山岳救助」 阪神地区大型会交流会	 9 10	ーハウス）兵庫 16 人、全国 152 人、大阪府岳連 3 人、岡山県岳連 1 人（大阪市立大阪東クレオ） 全国ハイキング・リーダー学校 講演：山本正嘉 鹿屋体育大学教授（神戸セミナーハウス）12 地方連盟 70 人、兵庫スタッフ 27 人 西日本女性担当者交流集会（鳥取県立船上山少年自然の家）基調講演：藤本理津子 全国女性委員長、講演「山岳医療班の現場から考える」臼杵直志 香川大学准教授、13 府県 110 人／西本武志 全国連盟会長「人と山」刊行
2016 H28	1.23 2.27 -28 3.13 5.28 -29 6.5 .12 7.2 10.2	第 5 回囲碁交流会(元町北会館)52 人 第 7 回実方南原スノーシユー・ハスハイク（尼崎市立美方南原自然の家） 第 50 回六甲全山縦走大会（記念大会）東北 3 県から 31 人招待 結成 50 周年記念氷ノ山集中登山 270 人 武庫川清掃（最終回） 27 会 172 人 第 53 回定期総会（兵庫公会堂） 山での応急手当と講演会「すぐそこにある遭難事故」（コミスタ神戸）講師：金 邦夫氏 元警視庁青梅警察署山岳救助隊副隊長 34 会 103 人、スタッフ 29 人 結成５０周年記念式典（シーサイド舞子ビラ）	6.17 8.11 11	労山創立者伊藤正一氏死去 祝日「山の日」スタート 第 16 回全国登山研究集会、兵庫 8 人、全体 135 人（東京オリンピック記念センター） 第 18 回登山者自然保護集会 兵庫 2 人、29 都道府県 44 人（つくば市筑波ふれあいの里）

兵庫県連盟歴代役員一覧表

回数	西暦	和暦	月日	会長	副　会　長	理事長	事務局長
1	1966	S41	4/16	原水章行	中村定逸、倉内司郎	―	山崎一美
2	1967	S42	3/15・28	武原 勉	中村定逸、倉内司郎	―	原水章行
3	1968	S43	4/21	武原 勉	笠井 大、倉内司郎	―	原水章行
4	1969	S44	6/22	倉内司郎	笠井 大、武原 勉、原水章行	―	金田幸三
5	1970	S45	6/28	武原 勉	大学 肇、田渕創生、原水章行	倉内司郎	武藤鞆美
6	1971	S46	10/31	武原 勉	大学 肇、田渕創生、原水章行	倉内司郎	武藤鞆美
7	1972	S47	10/22	武原 勉	大学 肇、田渕創生、原水章行、金田幸三	倉内司郎	武藤鞆美
8	1973	S48	10/28	武原 勉	大学 肇、田渕創生、原水章行、金田幸三	倉内司郎	武藤鞆美
9	1974	S49	10/26・27	武原 勉	大学 肇、田渕創生、原水章行、金田幸三	倉内司郎	武藤鞆美
⑩	1975	S50	1/30	武原 勉	大学 肇、田渕創生、原水章行	倉内司郎	武藤鞆美
11	1975	S50	11/8	武原 勉	大学 肇、田渕創生、原水章行	倉内司郎	武藤鞆美
12	1976	S51	11/6・7	武原 勉	大学 肇、田渕創生、原水章行	倉内司郎	武藤鞆美
13	1978	S53	6/17・18	大学 肇	田渕創生、原水章行	倉内司郎	武藤鞆美
14	1979	S54	6/16・17	大学 肇	田渕創生、原水章行	倉内司郎	玉井進吾郎
15	1980	S55	8/30・31	大学 肇	田渕創生、原水章行	倉内司郎	玉井進吾郎
⑯	1980	S55	11/14・15	大学 肇	田渕創生、原水章行	倉内司郎	玉井進吾郎
17	1981	S56	6/20・21	大学 肇	田渕創生、原水章行	倉内司郎	玉井進吾郎
⑱	1982	S57	3/15	大学 肇	田渕創生、原水章行	倉内司郎	玉井進吾郎
19	1982	S57	6/12・13	大学 肇	田渕創生、熊田 正	倉内司郎	玉井進吾郎
20	1983	S58	6/11・12	大学 肇	田渕創生、熊田 正	玉井進吾郎	井上幸隆
21	1984	S59	6/9・10	大学 肇	田渕創生、熊田 正	玉井進吾郎	井上幸隆
22	1985	S60	6/15・16	大学 肇	田渕創生、小山睦男、三宅静夫、森本晴夫	玉井進吾郎	井上幸隆
23	1986	S61	6/14・15	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、森本晴夫、久保冨三夫	玉井進吾郎	井上幸隆
24	1987	S62	6/13・14	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、森本晴夫、久保冨三夫	玉井進吾郎	井上幸隆
25	1988	S63	6/11・12	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、森本晴夫、久保冨三夫	玉井進吾郎	阪本千佳子
26	1989	H1	6/10・11	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、久保冨三夫、原水章行	玉井進吾郎	阪本千佳子
27	1990	H2	6/9・10	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、久保冨三夫、原水章行	玉井進吾郎	阪本千佳子
28	1991	H3	6/8・9	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、久保冨三夫、原水章行	清郷雅秋	阪本千佳子
29	1992	H4	6/13・14	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、久保冨三夫、原水章行、玉井進吾郎	清郷雅秋	中井 護
30	1993	H5	6/12・13	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、久保冨三夫、原水章行、玉井進吾郎	西村牧代	中井 護
31	1994	H6	6/11・12	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、玉井進吾郎	西村牧代	中井 護
32	1995	H7	6/18	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、玉井進吾郎	西村牧代	中井 護
33	1996	H8	6/9	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、玉井進吾郎	喜多伸介(代行)	中井 護
34	1997	H9	6/8	大学 肇	小山睦男、三宅静夫、玉井進吾郎、森浜牧代	喜多伸介(代行)	中井 護
35	1998	H10	6/14	大学 肇	玉井進吾郎、森浜牧代、井上幸隆	喜多伸介	鬼塚孝二
36	1999	H11	6/13	大学 肇	玉井進吾郎、森浜牧代、井上幸隆	喜多伸介	鬼塚孝二
37	2000	H12	6/11	大学 肇	玉井進吾郎、森浜牧代、井上幸隆	喜多伸介	鬼塚孝二

回数	西暦	和暦	月日	会長	副　会　長	理事長	事務局長
38	2001	H13	6/10	大学 肇	玉井進吾郎、森浜牧代、井上幸隆	喜多伸介	中井 護
39	2002	H14	6/9	大学 肇	玉井進吾郎、井上幸隆、中井 護	喜多伸介	阿部順一郎
40	2003	H15	6/8	大学 肇	玉井進吾郎、井上幸隆、中井 護	喜多伸介	阿部順一郎
41	2004	H16	6/13	大学 肇	玉井進吾郎、井上幸隆、中井 護	喜多伸介	阿部順一郎
42	2005	H17	6/12	玉井進吾郎	井上幸隆、中井 護	喜多伸介	阿部順一郎
43	2006	H18	6/11	玉井進吾郎	中井 護、村上悦朗	喜多伸介	阿部順一郎
44	2007	H19	6/10	玉井進吾郎	中井 護、村上悦朗	喜多伸介	阿部順一郎
45	2008	H20	6/8	玉井進吾郎	中井 護、村上悦朗、安留紘一	喜多伸介	阿部順一郎
46	2009	H21	6/14	喜多伸介	玉井進吾郎、中井 護、村上悦朗、安留紘一	門脇道成	内村之衛
47	2010	H22	6/13	喜多伸介	玉井進吾郎、中井 護、村上悦朗、安留紘一	門脇道成	内村之衛
48	2011	H23	6/12	喜多伸介	村上悦朗、中井 護、岩佐正敏、鹿島通男	門脇道成	内村之衛
49	2012	H24	6/10	喜多伸介	村上悦朗、中井 護、岩佐正敏、鹿島通男	門脇道成	内村之衛
50	2013	H25	6/9	喜多伸介	村上悦朗、中井 護、岩佐正敏、鹿島通男	門脇道成	内村之衛
51	2014	H26	6/8	喜多伸介	村上悦朗、中井 護、岩佐正敏、鹿島通男、門脇道成	吉谷隆男	森本英之
52	2015	H27	6/14	喜多伸介	村上悦朗、中井 護、岩佐正敏、鹿島通男	吉谷隆男	森本英之
53	2016	H28	6/12	喜多伸介	村上悦朗、中井 護、岩佐正敏、兼重良三	吉谷隆男	森本英之

注：○は臨時大会　　44回より大学肇 名誉会長就任

加盟山岳会一覧表

2017年3月

	会　名	創立年月日	機関誌名	会員数		
				男性	女性	合計
1	西宮山岳会	1963/9/7	山だより	42	35	77
2	尼崎山の会	1966/2/14	いわかがみ	7	0	7
3	神戸勤労者山岳会	1966/3/22	呼子	49	29	78
4	アルペン芦山	1966/10/1	アルペン芦山会報	41	34	75
5	須磨勤労者山岳会	1968/	山っ子	23	9	32
6	神戸カタツムリの会	1968/1/9	カタツムリ	35	60	95
7	春風山岳会	1969/9/28	はるかぜ	6	5	11
8	甲山勤労者山岳会	1971/6/	YAMAGOYA	37	43	80
9	山の会　かじか	1972/1/25	かじか	40	31	71
10	神戸みなと勤労者山岳会	1972/3/9	みなとの仲間	22	10	32
11	武庫勤労者山岳会	1972/6/25	チロル	48	59	107
12	伊丹勤労者山岳会	1972/6/10	ささ笛	15	22	37
13	西神戸山の会	1974/5/26	三角点	32	30	62
14	山岳会 ホワイトピーク	1977/6/26	雲海	5	10	15
15	摩耶山友会	1974/6/9	やまなかま	87	69	156
16	西宮明昭山の会	1975/6/1	明昭	331	501	832
17	東灘勤労者山岳会	1975/6/1	山紫陽花	7	3	10
18	但馬勤労者山岳会	1975/7/13	千本杉			
19	西宮北口勤労者山岳会	1975/7/15	西宮北口労山	11	18	29
20	垂水勤労者山岳会	1976/4/26	たるみ	23	25	48
21	神戸港山の会	1976/6/27		21	17	38
22	宝塚山の会	1975/7/29		20	21	41
23	山歩渓山岳会	1976/6/20	山歩渓	60	59	119
24	淡路勤労者山岳会	1979/9/				
25	尼崎ハイキングクラブ	1980/5/18	よもやま	25	50	75
25	神戸中央山の会	1980/9/1	すずの子	77	65	142
27	神戸ハイキングクラブ	1981/5/18	弥麿比呼	25	50	75
28	山の会　アルプ	1984/1/29	あかり	13	17	30
29	南但山歩会					
30	垂水ハイキングクラブ	1985/7/14	あらくさ	8	8	16
31	北須磨山の会	1987/4/26	たんぽぽ	3	8	11
32	明石山の会	1987/12/12	子午線	25	27	52
33	メラ・ピーク　KOBE	1991/4/	メラ・ラ	14	5	19
34	やまぼうし	1993/12/12	やまぼうし	6	21	27
35	はりま山岳会	1996/4/1				
36	北摂山の会	2000/9/2	山嶺	24	19	43
37	高御位山遊会	2000/10/8	高御位	51	56	107
38	地球クラブ			1	1	2
39	ハイキングクラブ・カメ03	2003/6/13	カメちゃん	6	4	10
40	ハイキングクラブ　はりま	2003/8/10	HCはりま	25	29	54
41	ハイキングクラブ・レディバード	2004/6/1		0	11	11
42	山の会　ささやま	2009/6/20	多紀アルプス	22	26	48
43	神戸山スキークラブ	2011/10/3	無し	15	1	16
44	神戸クライマーズクラブ	2013/6/	※未定	12	4	16
45	神戸ハム&ハイキング	2013/ /	ハム・シーズンズ	3	2	5
	合　計			1317	1,494	2,811

終わりに（編集後記）

2016 年 9 月 21 日の編集委員会第 1 回事務局会議を経て、10 月 25 日に第 1 回結成 50 周年記念誌編集委員会を立上げ、12 名の編集委員で編集を進めました。

これまで連盟として記念誌は創立以来「創立 40 周年記念誌」として 2007 年 6 月に故安留編集委員長を中心に発行されました。今回はその当時の編集委員を含め、常任理事・機関誌部員の協力も得て、構成を決めてゆきました。

基本的には 40 周年から 50 周年までに重点を置いた各分野別の歩みに加え、新たに全国連盟や兵庫岳連などから寄稿文をいただき、加盟各会からの寄稿として各会の歩みのページも設けました。また組織の消長、50 年史表については大幅に見直しを行いました。

本記念誌が、未来へ続く兵庫労山の一助になることを祈念します。

最後に、本記念誌作成に寄稿、ご協力いただきました皆様に、お礼申し上げます。

結成記念誌編集委員

委員長	喜多　伸介	（伊丹勤労者山岳会）
委　員	吉谷　隆男	（須磨勤労者山岳会）
委　員	森本　英之	（神戸山スキークラブ）
委　員	川村　詩佳子	（西宮明昭山の会）
委　員	蟹沢　久美子	（西宮山岳会）
委　員	田中　朋芳	（神戸みなと勤労者山岳会）
委　員	原水　章行	（西宮明昭山の会）
委　員	笹部　公孝	（神戸みなと勤労者山岳会）
委　員	大向　清司	（HC　はりま）
委　員	田中　伸孝	（山の会　アルプ）
委　員	福島　和美	（垂水勤労者山岳会）
委　員	橋本　公子	（東灘勤労者山岳会）

協力者（会 3 役、常任理事以外）

玉井　進吾郎	（メラ・ピーク　KOBE）
大杖　哲司	（メラ・ピーク　KOBE）

「兵庫県勤労者山岳連盟　結成 50 周年記念誌」

発　行　2017 年 6 月　兵庫県勤労者山岳連盟
651-0095
兵庫県神戸市中央区旭通三丁目 4-12　前田ビル 4F
TEL 078-222-2463　FAX 078-222-2109
編　集　兵庫県勤労者山岳連盟結成 50 周年記念誌編集委員会
印　刷　イワサキ出版印刷有限会社
650-0027
神戸市中央区中町通 4 丁目 1-17
TEL078-367-6556　FAX078-367-6557

待ぞの県連結成総会

労山 兵庫県連

全国で三番目

一月一六日、兵庫の県連結成総会が開かれ、一五人が参加しました。

会場の白髪山荘は中央公民館だけに、長崎、三重、神戸の各労山の代表が五〇人ほど集まってにぎやかに。

初代委員長に、山岳連盟勤労者山岳連盟の中で、「山岳連盟」の名称を使うことが決まった。

「山岳」と、会員数の中間に「山」をつけるかどうかの議論があったが、「山岳」に決まった。

「山岳」と、会員数の中間に「山」をつけるかどうかの議論があったが、「山岳」に決まった。

[illegible]

兵庫県勤労者山岳連盟